

令和6年度
沼津市男女共同参画に関する
市民アンケート結果報告書

令和6年10月

沼津市政策推進部地域自治課

目次

1	調査の概要	2
2	回答者の属性	3
3	調査結果	
問 1	「男女共同参画社会」の用語の理解	7
問 2	性別によって役割を分ける考え方をどう思うか	9
問 3	各家庭における役割分担状況	11
問 4	家事・育児・介護を行う平均時間	22
問 5	男性が育児休業・介護休業を取得することをどう思うか	23
問 6	男性の育児休業・介護休業の取得率が低い理由	27
問 7	男性が家事等に携わる時間を増やすために必要なこと	29
問 8	女性が職業を持つことをどう思うか	31
問 9	女性が育児や介護と両立して働き続けるために必要なこと	33
問 10	職場で女性がもっと活躍するために必要なこと	35
問 11	地域で女性が意思決定する役職に就くことをどう思うか	37
問 12	地域で女性の意思決定する役職就任を推進するために必要なこと	39
問 13	過去1年間の各種ハラスメントの経験・見聞き	41
問 14	各種ハラスメントを防止するために必要なこと	43
問 15	ドメスティック・バイオレンスだと思う行為	45
問 16	「LGBTQ」の用語の理解	54
問 17	過去5年間のLGBTQに関するハラスメントの経験・見聞き	56
問 18	LGBTQ当事者への理解を深めるために必要なこと	58
問 19	若年層に対して男女共同参画を浸透させるために必要なこと	60
問 20	男女共同参画社会を実現するために沼津市の施策に特に望むこと	62
4	参考資料	
	○令和6年度男女共同参画に関する市民アンケート様式	
	○発送・回収状況詳細（地区別・年代別）	

1 調査の概要

本調査は、「第5次沼津市男女共同参画基本計画」（計画期間：令和3年度～令和7年度）の効果を確認するとともに、次期計画策定の基礎資料を作成すべく、広く市民の皆さまの意見をお聞きするため実施したものです。

(1) 調査の設計

- ①調査区域：沼津市全域
- ②抽出方法：住民基本台帳からの等間隔無作為抽出
- ③調査対象：満18歳以上の市民2,200人（男性1,121人、女性1,079人）
- ④調査方法：郵送で配付し、アンケート用紙の郵送又はWEBフォームで回答
- ⑤調査期間：令和6年6月21日（金）から令和6年7月26日（金）まで

(2) 配付・回収の結果

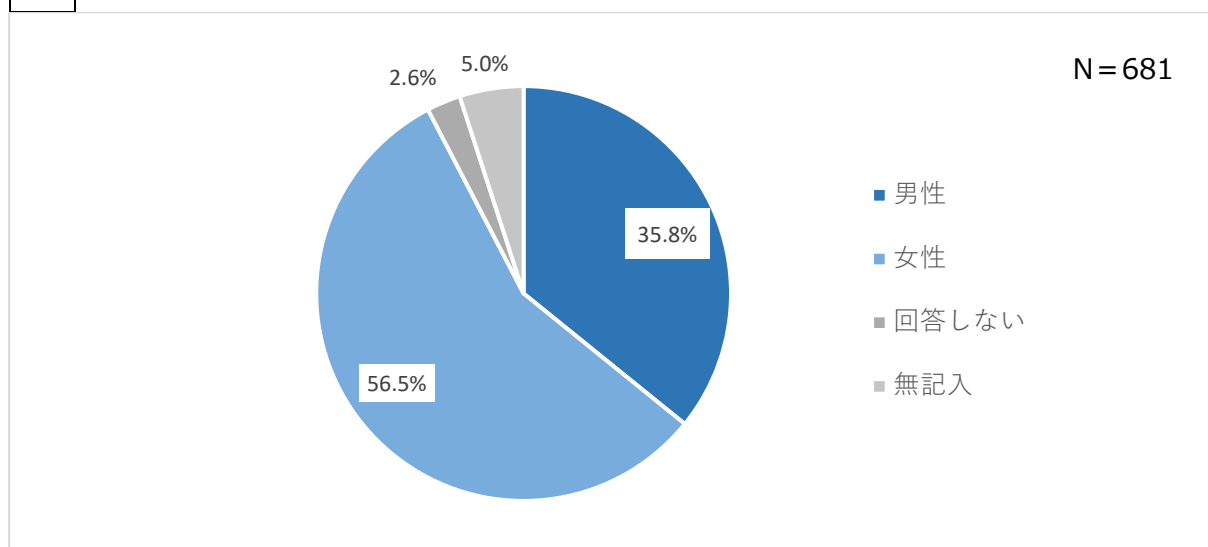
a 発送数	2,200 票
b 配達不能数	16 票
c 回収数	681 票（郵送回収：507 票 WEB 回収：174 票）
d 回収率【c/(a-b)】	31.2%

(3) 留意事項

- ①集計に使用したサンプル数は、「N」と表記しています。
- ②回答比率は、小数点第2位以下を四捨五入して表記しているため、回答比率の合計が100%にならない場合があります。

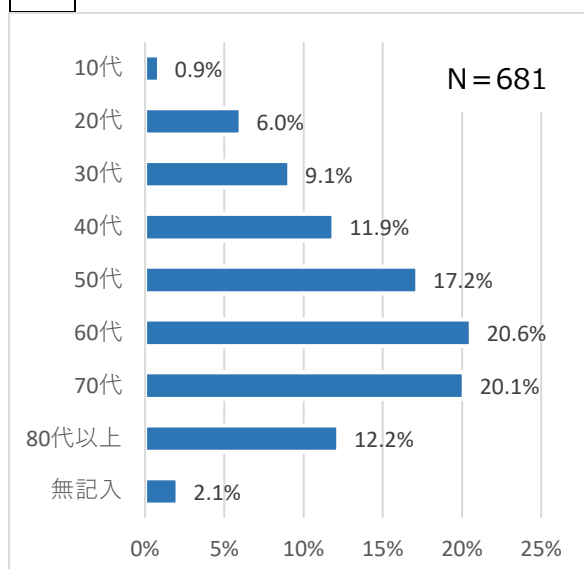
2 回答者の属性

性別

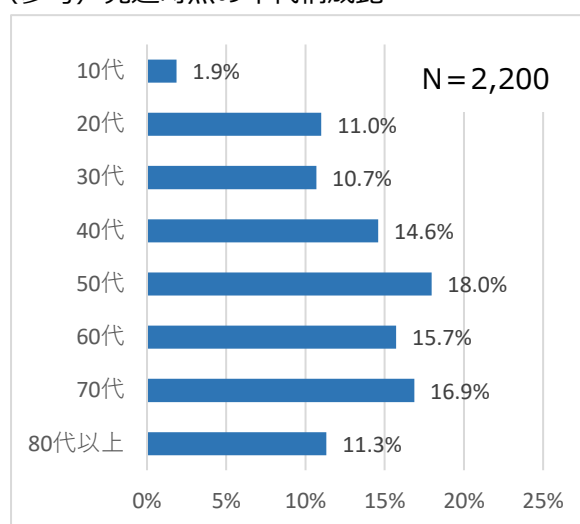


回答者の性別の割合は、「男性」が 35.8%、「女性」が 56.5%、「回答しない」が 2.6%、無記入が 5.0%です。アンケート発送先の男女比は、51 : 49(男性 1,121 人 : 女性 1,079 人)とほぼ半々であり、女性からの回答率が高くなっています。

年代

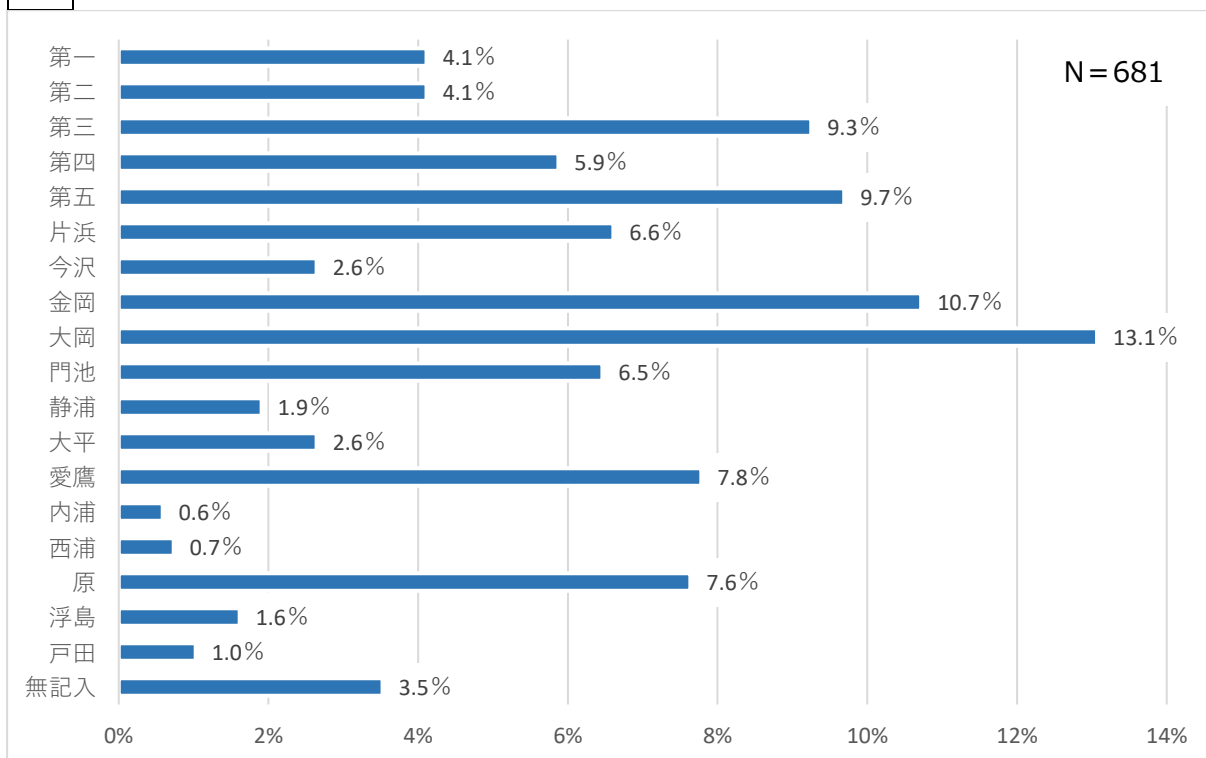


(参考) 発送時点の年代構成比



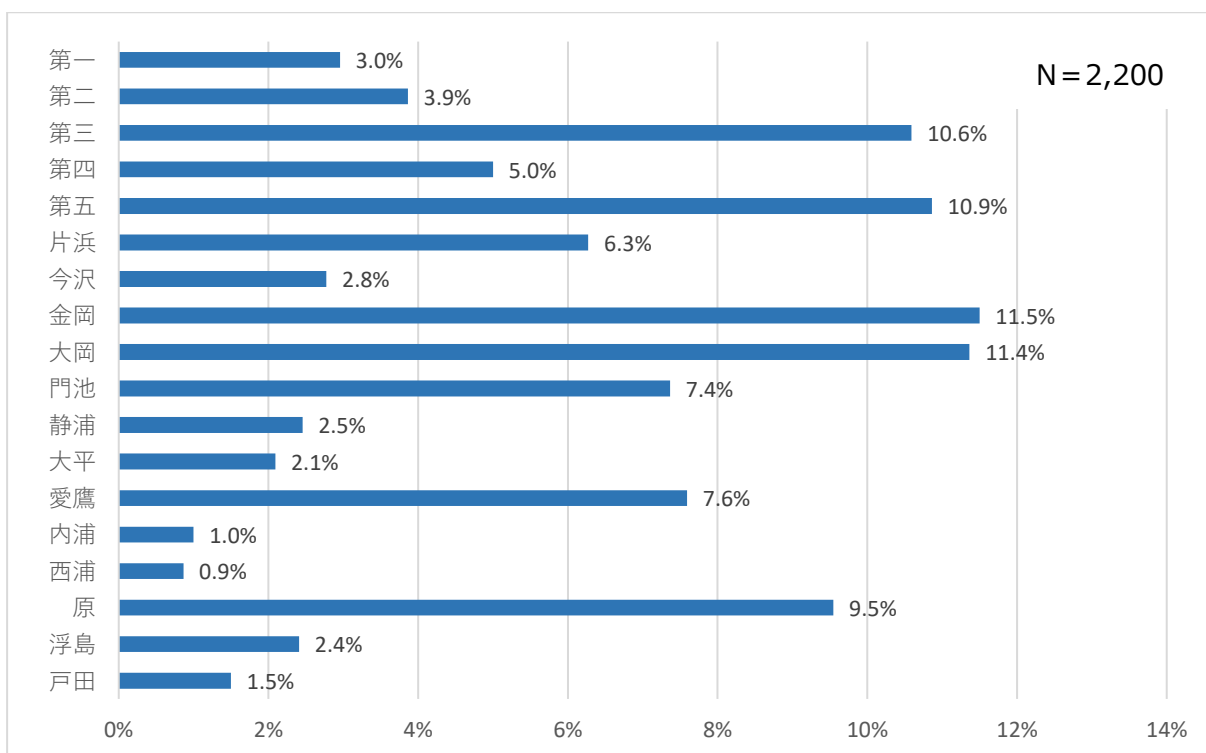
回答者の年代の割合は、「60代」が 20.6%で最も高く、次に「70代」の 20.1%、「50代」の 17.2%の順に高い割合を占めています。

地区

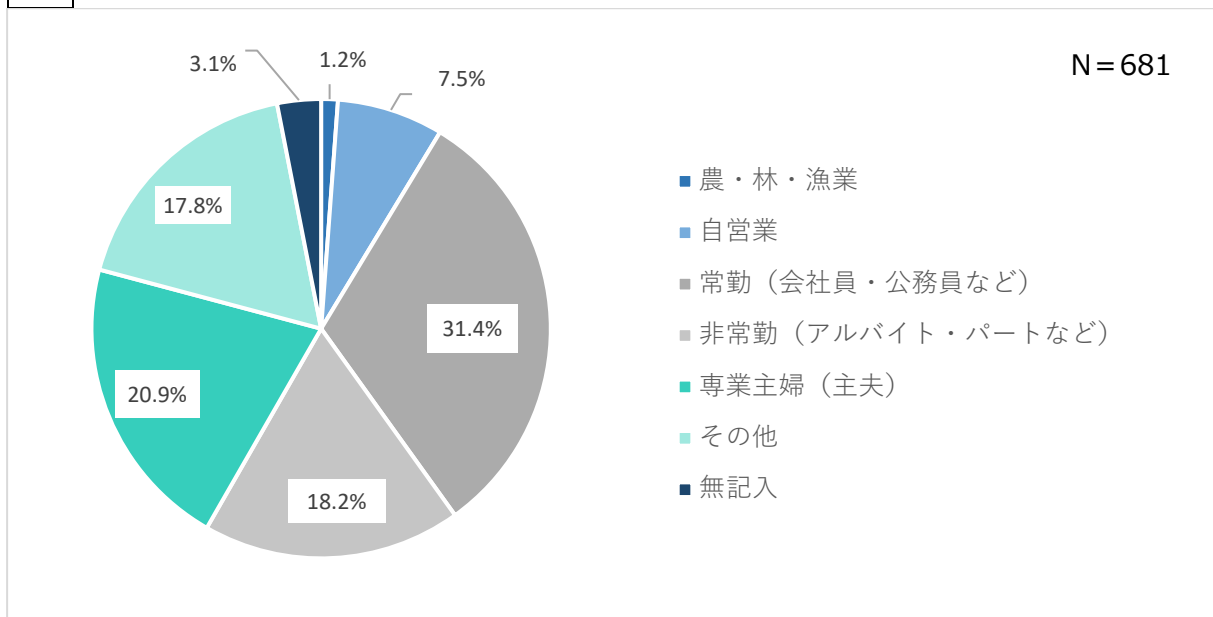


回答者の居住する地区の割合は、「大岡地区」が13.1%で最も高く、次に「金岡地区」の10.7%、「第五地区」の9.7%の順に高い割合を占めています。

(参考) 発送時点の地区割合

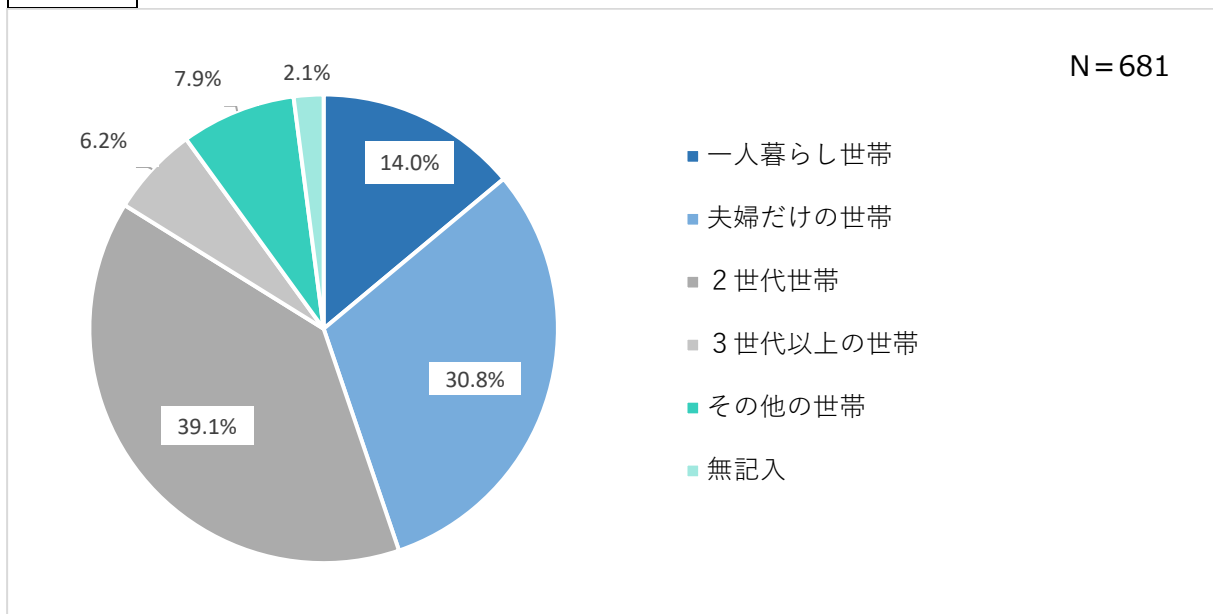


職業



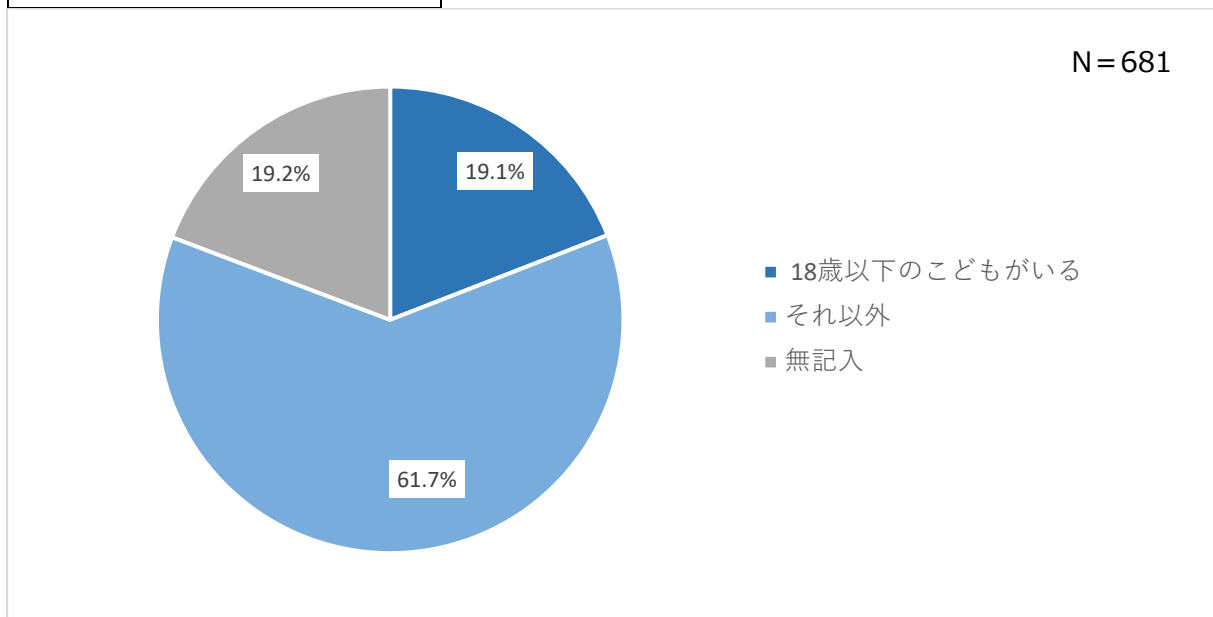
回答者の職業の割合は、「常勤 (会社員・公務員など)」が 31.4%で最も高く、次に「専業主婦 (主夫)」の 20.9%、「非常勤 (アルバイト・パートなど)」の 18.2%の順に高い割合を占めています。

世帯構成



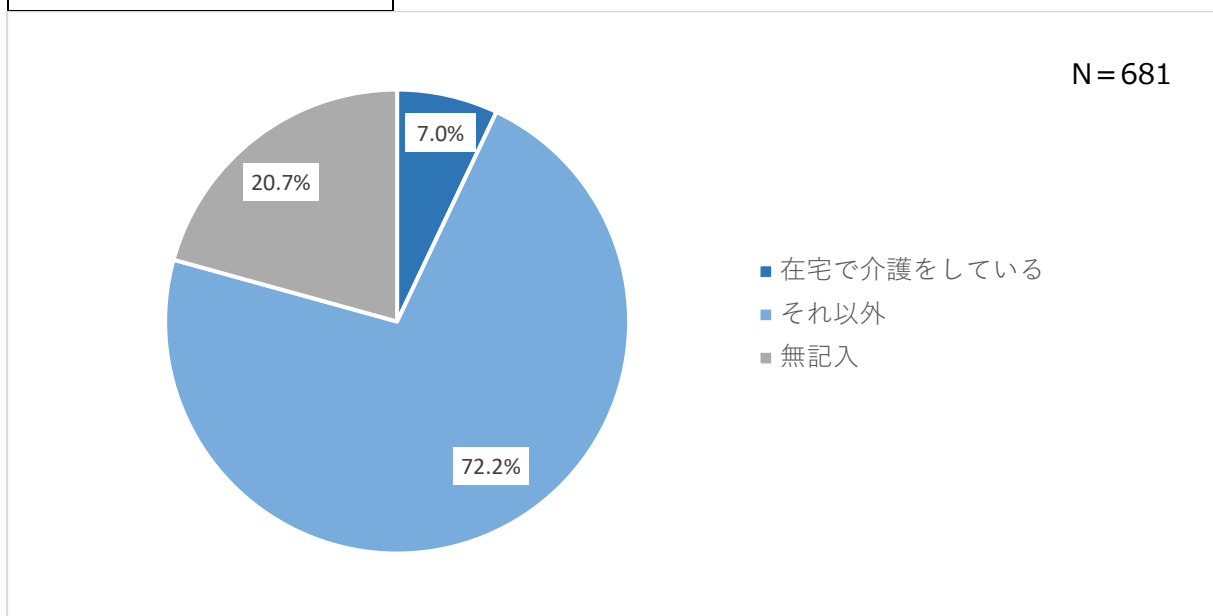
回答者の世帯構成の割合は、「2世代世帯」が 39.1%で最も高く、次に「夫婦だけの世帯」の 30.8%、「一人暮らし世帯」の 14.0%の順に高い割合を占めています。

18歳以下の子どもがいる世帯



回答者のうち「18歳以下の子どもがいる」世帯（以下、「子育て世帯」という。）の割合は、19.1%を占めています。

在宅で介護をしている世帯



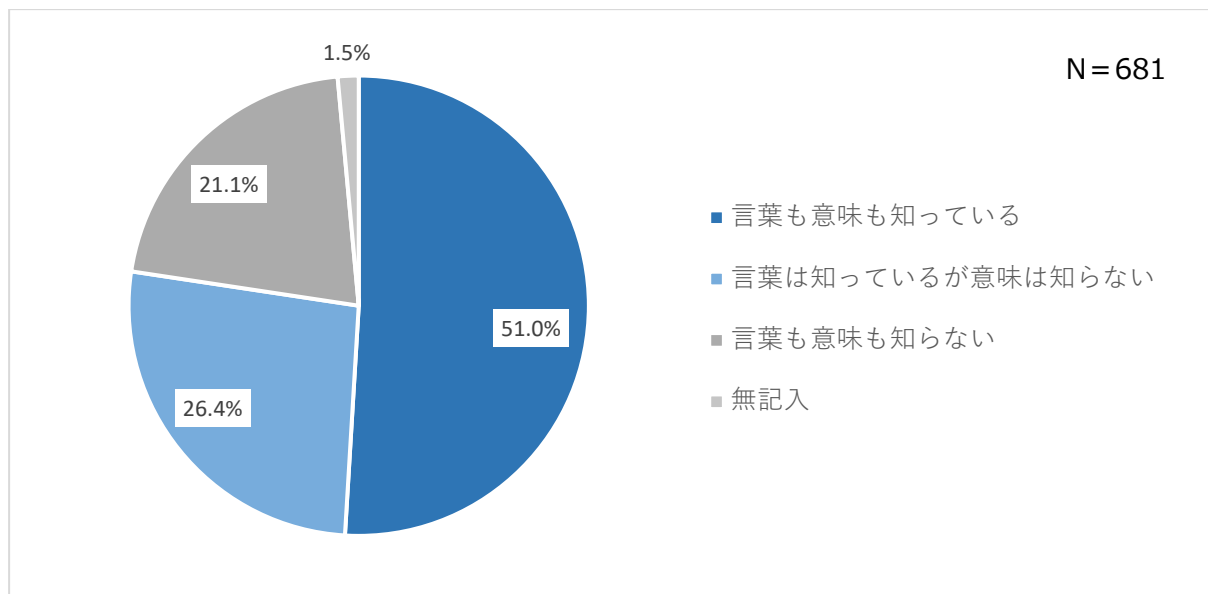
回答者のうち「在宅で介護をしている」世帯（以下、「在宅介護世帯」という。）の割合は、7.0%を占めています。

3 調査結果

問1 「男女共同参画社会」の用語の理解

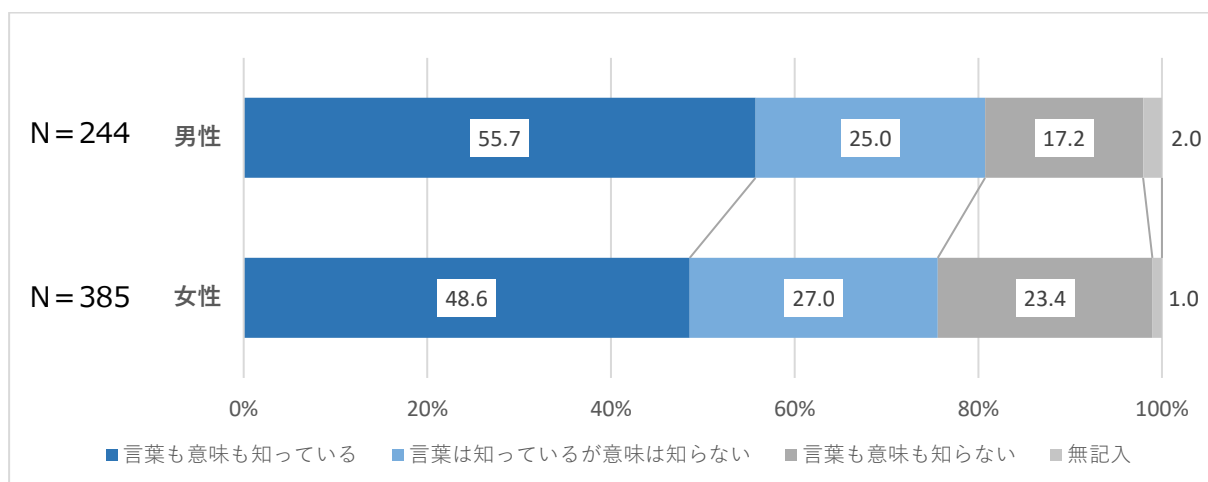
設問文：あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。(1つ選択)

【問1・全体集計】



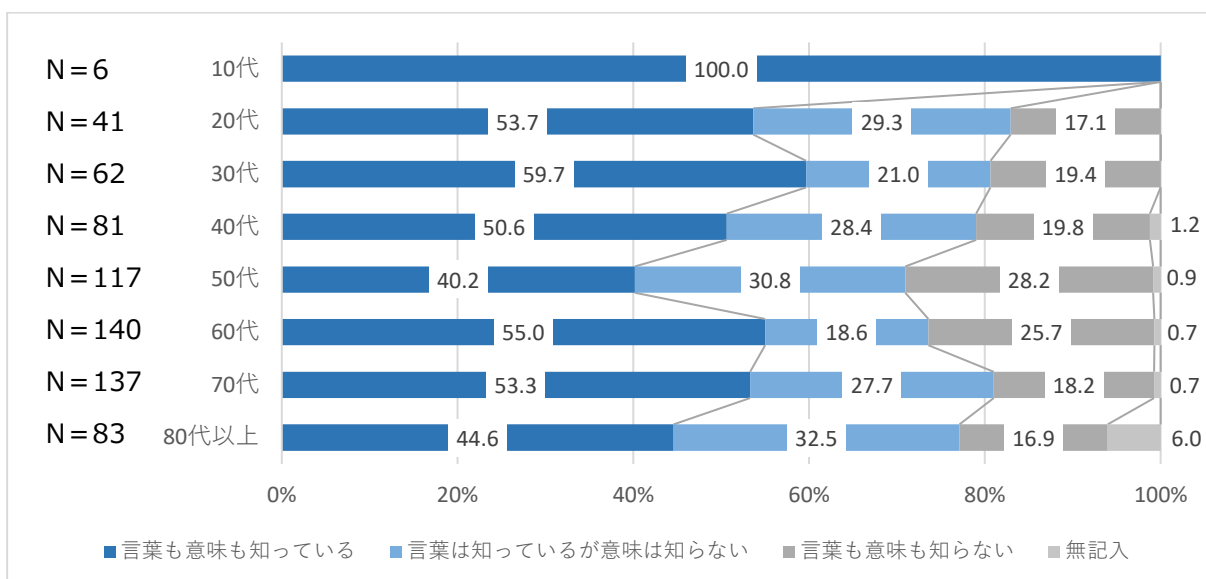
「言葉も意味も知っている」は、51.0%で過半数を占めています。「言葉を知っているが意味は知らない」の26.4%と合わせると、市民の77.4%が「男女共同参画社会」の言葉を知っているという結果になりました。

【問1・性別集計】



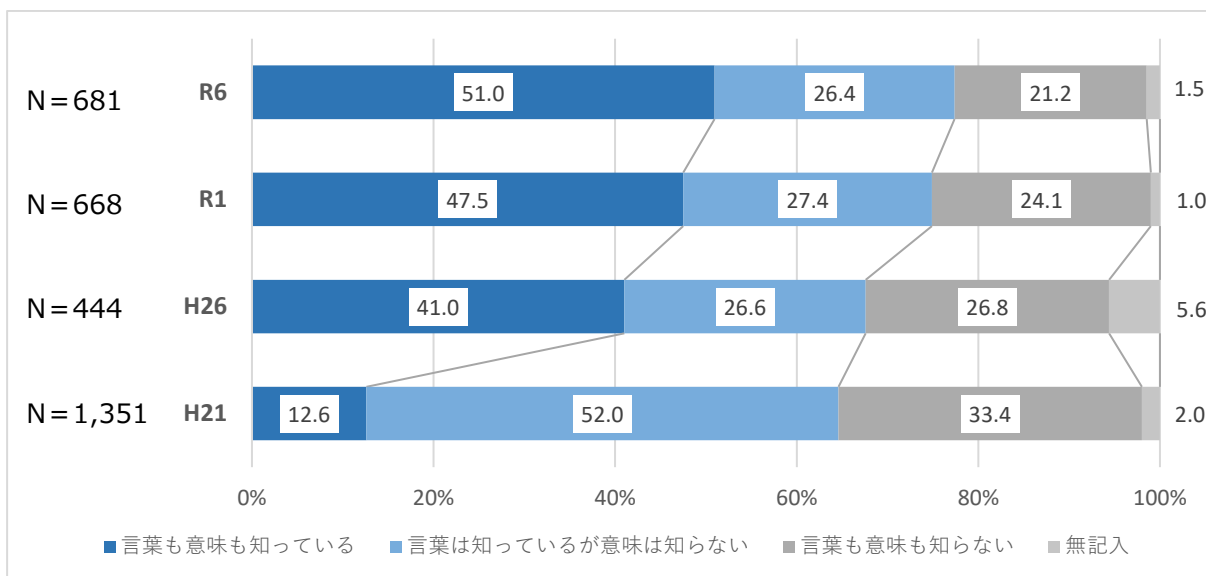
「言葉も意味も知っている」と「言葉を知っているが意味は知らない」の割合の合計は、男性80.7%に対し、女性75.6%で、男性の方が5.1ポイント高くなっています。

【問1・年代別集計】



「言葉も意味も知っている」と「言葉を知っているが意味は知らない」の割合の合計は、10代の100.0%が最も高く、50代の71.0%が最も低くなっています。

【問1・経年比較】

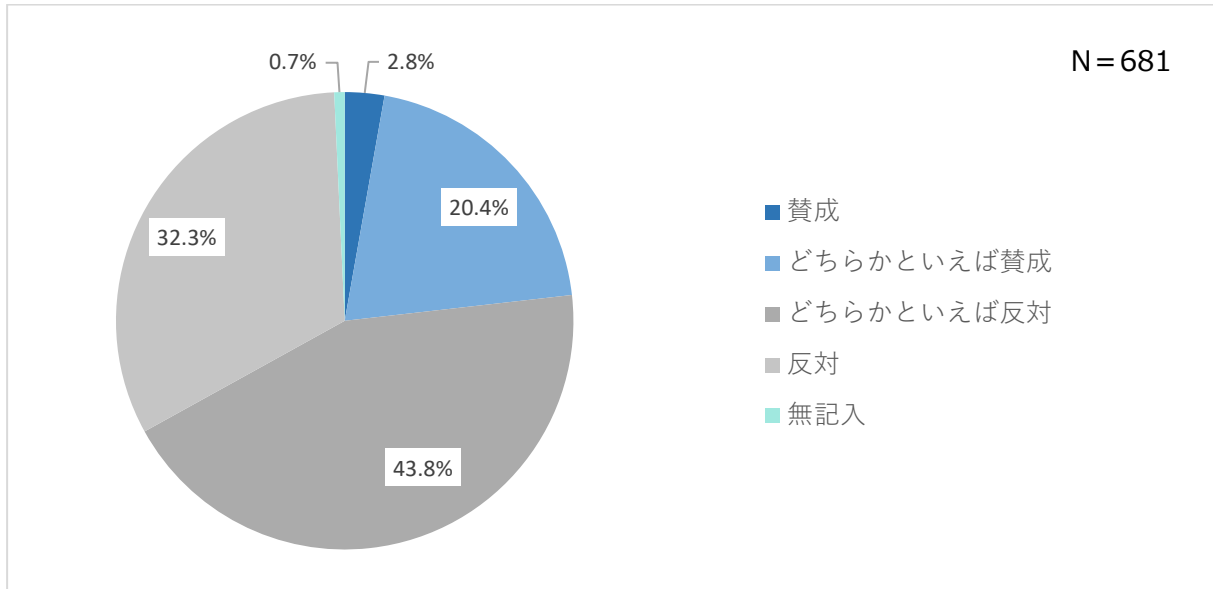


「言葉も意味も知っている」と「言葉を知っているが意味は知らない」の割合の合計は、前回調査の令和元年度で74.9%に対し、令和6年度は77.4%であり、2.5ポイント高くなっています。

問2 性別によって役割を分ける考え方をどう思うか

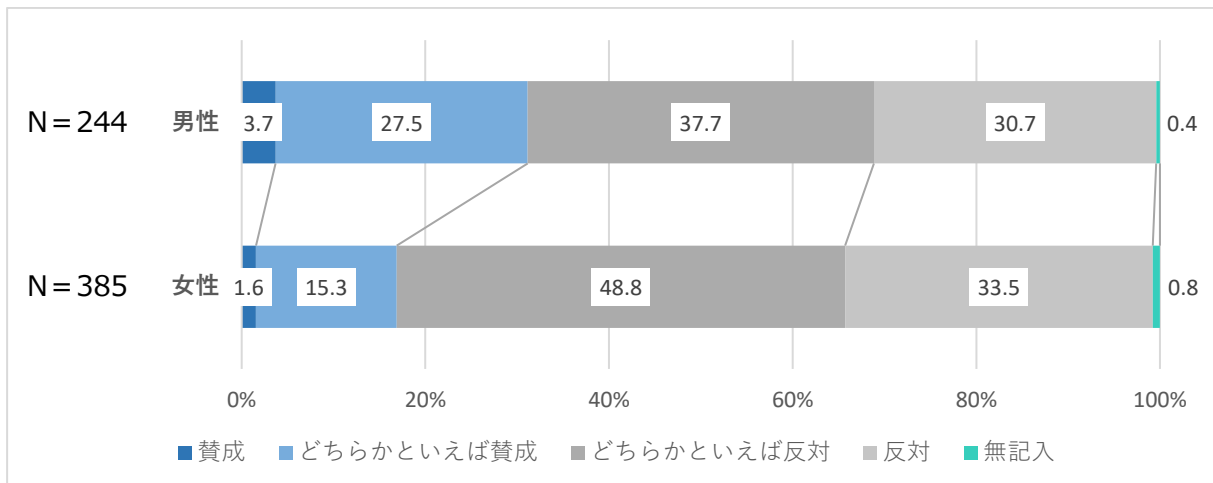
設問文：あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」というように性別で役割を分ける考え方をどう思いますか。（1つ選択）

【問2・全体集計】



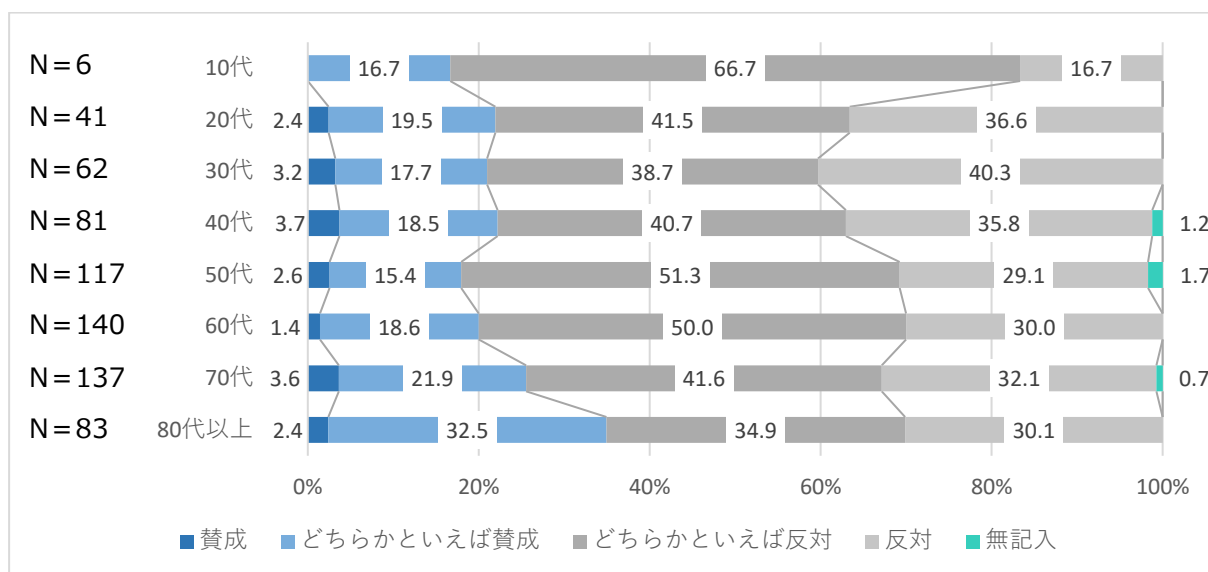
「反対」は、43.8%で最も高い割合を占めています。「どちらかといえば反対」の32.3%と合わせると、市民の76.1%が「性別で役割を分ける考え方」に反対するという結果になりました。

【問2・性別集計】



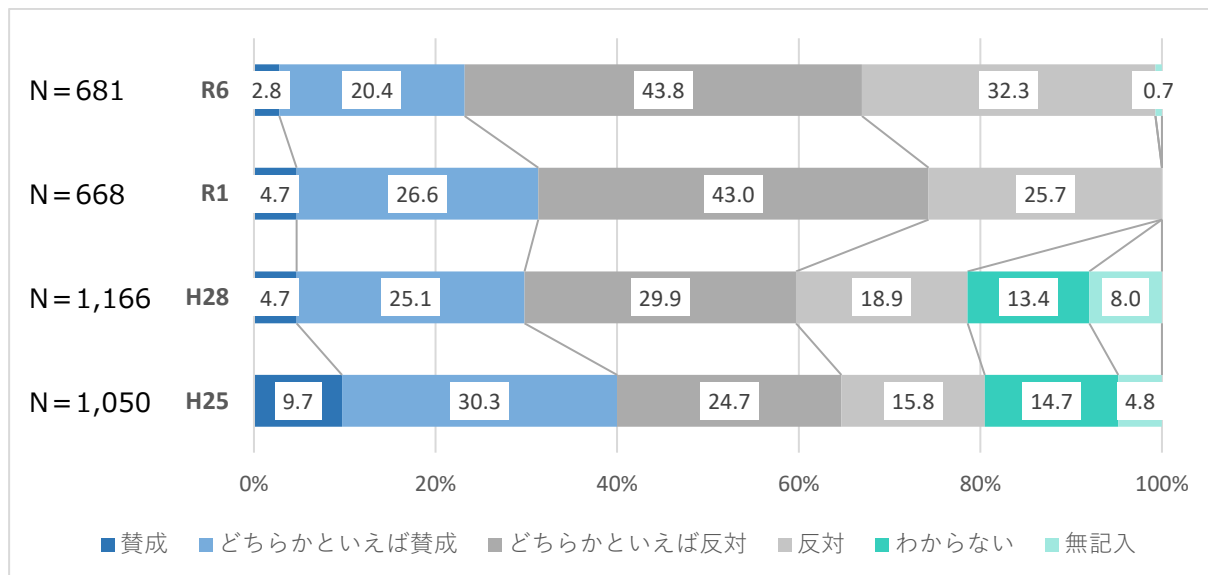
「反対」、「どちらかといえば反対」の割合の合計について、男性は、68.4%に対し、女性は82.3%であり、女性の方が13.9ポイント高くなっています。

【問 2 ・ 年代別集計】



「反対」、「どちらかといえば反対」の割合の合計について、10代の83.4%が最も高く、80代の65.0%が最も低くなっています。

【問 2 ・ 経年比較】



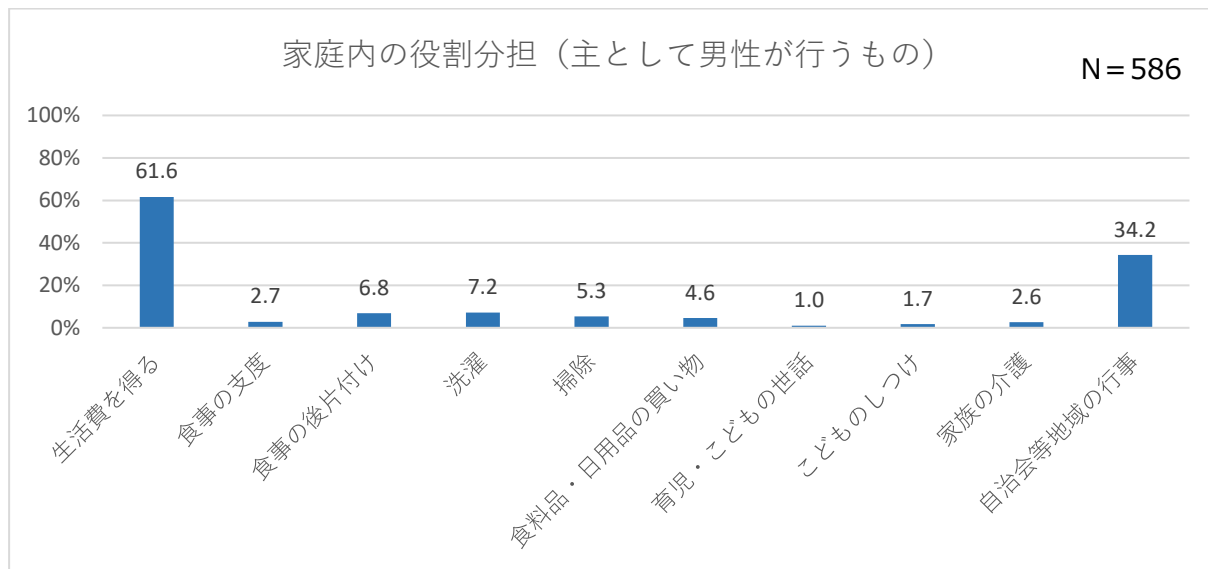
※R6,R1 は「わからない」という選択肢なし

「反対」、「どちらかといえば反対」の割合の合計について、前回調査の令和元年度で 68.7% に対し、令和 6 年度は 76.1% であり、7.4 ポイント高くなっています。

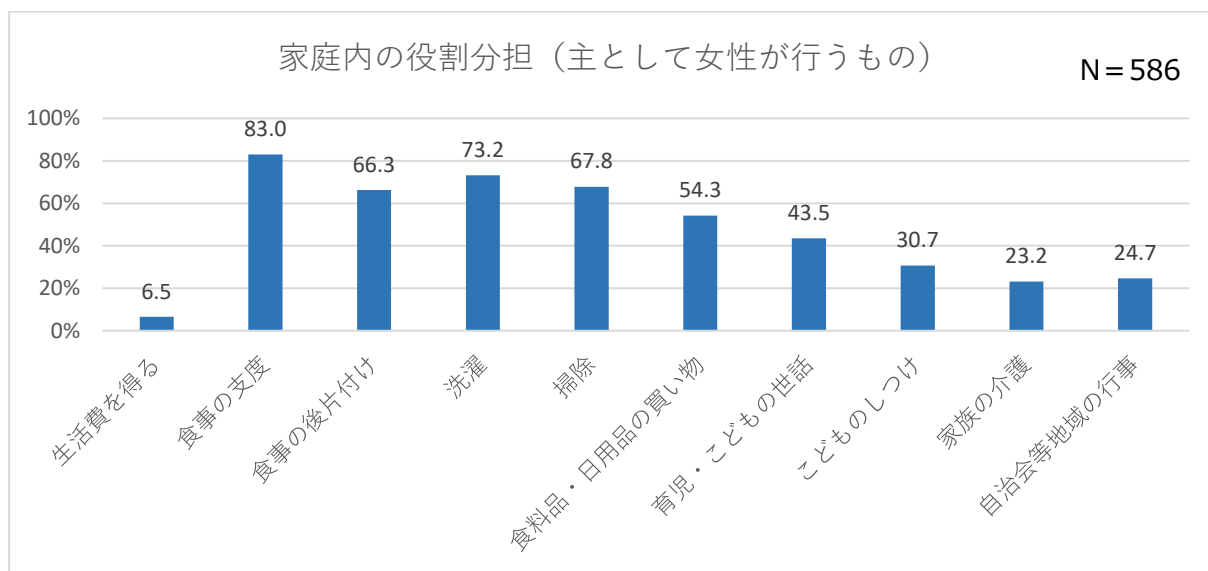
問3 各家庭における役割分担状況

設問文：次の1～9の事柄について、あなたのご家庭では誰が行っていますか。（事柄ごとに1つ選択）※一人暮らし世帯は回答不要

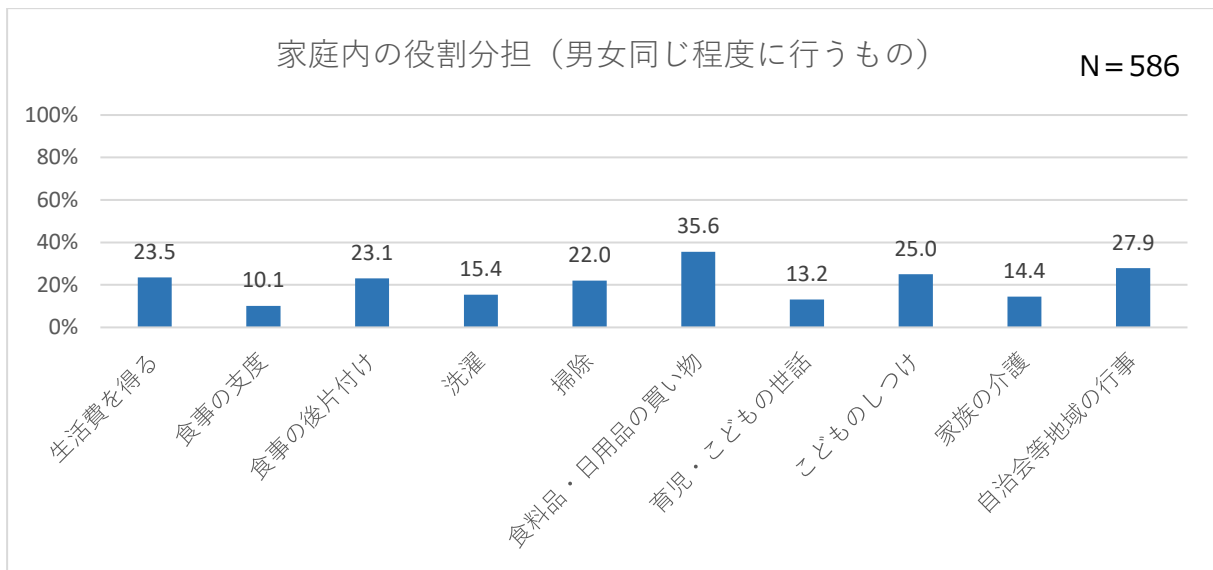
【問3・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「主として男性（夫、父、息子等）」が行うものは、「生活費を得る」が61.6%で最も高く、次に「自治会等地域の行事」の34.2%、「洗濯」の7.2%の順に高い割合を占めています。

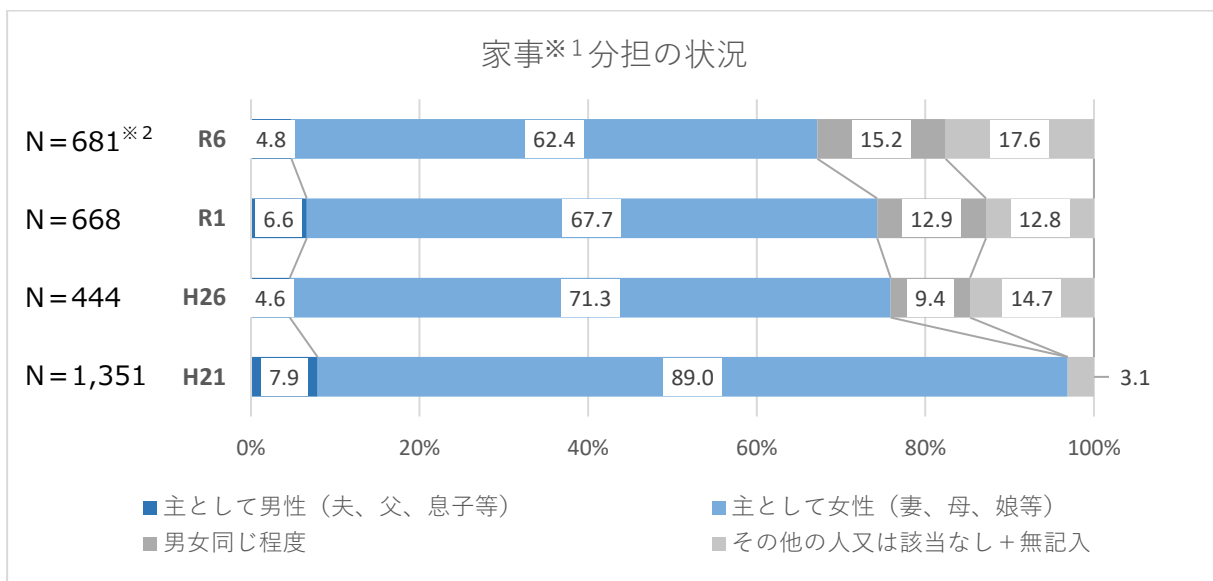


家庭内の役割分担のうち、「主として女性（妻、母、娘等）」が行うものは、「食事の支度」が83.0%で最も高く、次に「洗濯」の73.2%、「掃除」の67.8%の順に高い割合を占めています。



家庭内の役割分担のうち、「男女同じ程度」に行うものは、「食料品・日用品の買い物」が 35.6% で最も高く、次に「自治会等地域の行事」の 27.9%、「こどものしつけ」の 25.0% の順に高い割合を占めています。

【問 3 ・ 経年比較】



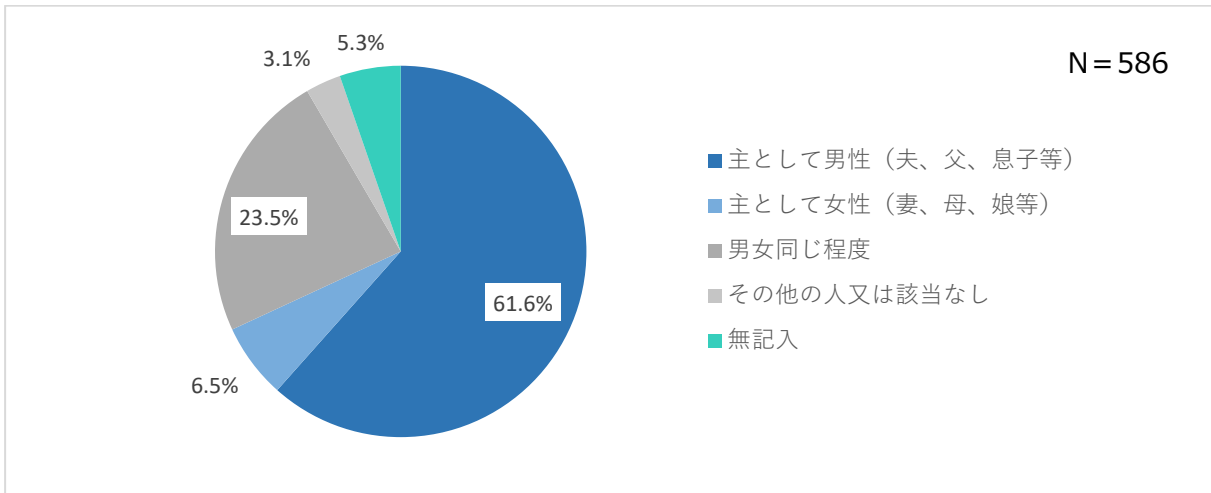
※ 1 「家事」とは、調査項目のうち、「食事の支度」、「食事の後片付け」、「洗濯」、「掃除」を合算して集計したものです。

※ 2 調査サンプルには一人暮らし世帯（95 世帯）を含みます。

家事分担の状況について、令和元年度と令和 6 年度を比較すると、「主として女性（妻、母、娘等）」の割合は、R1 の 67.7% に対し R6 は 62.4% であり 5.3 ポイント低く、「男女同じ程度」の割合は、R1 の 12.9% に対し R6 は 15.2% であり 2.3 ポイント高くなっています。

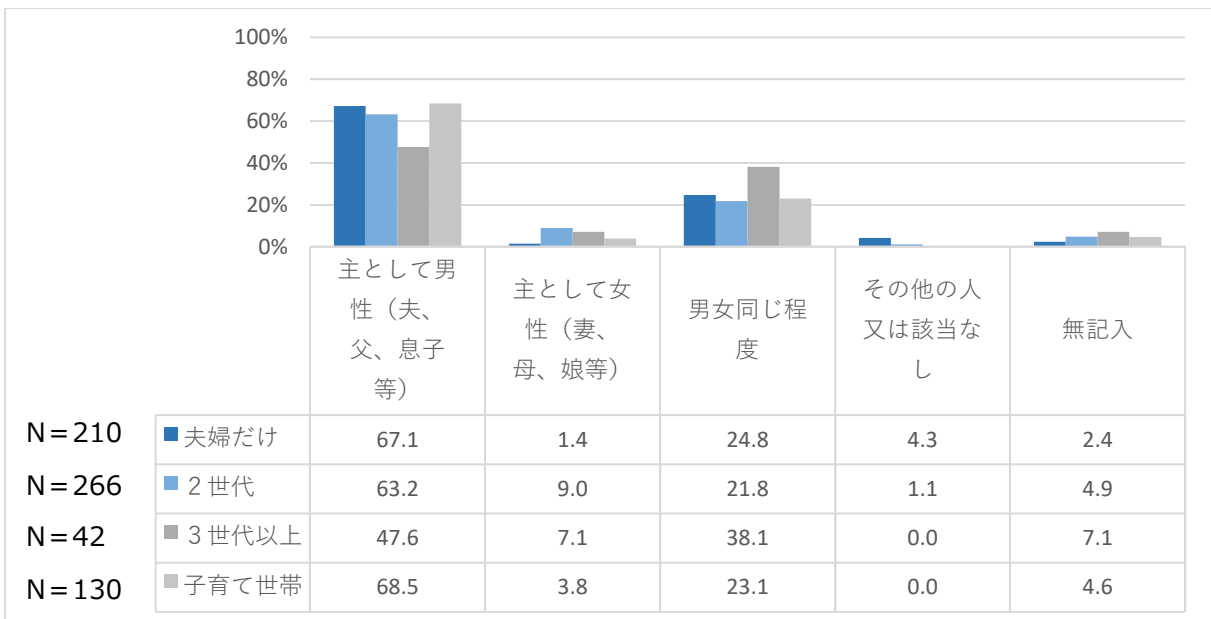
問 3-1 生活費を得る

【問 3-1・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「生活費を得る」は、「主として男性 (夫、父、息子等)」が 61.6% で最も高い割合を占めています。

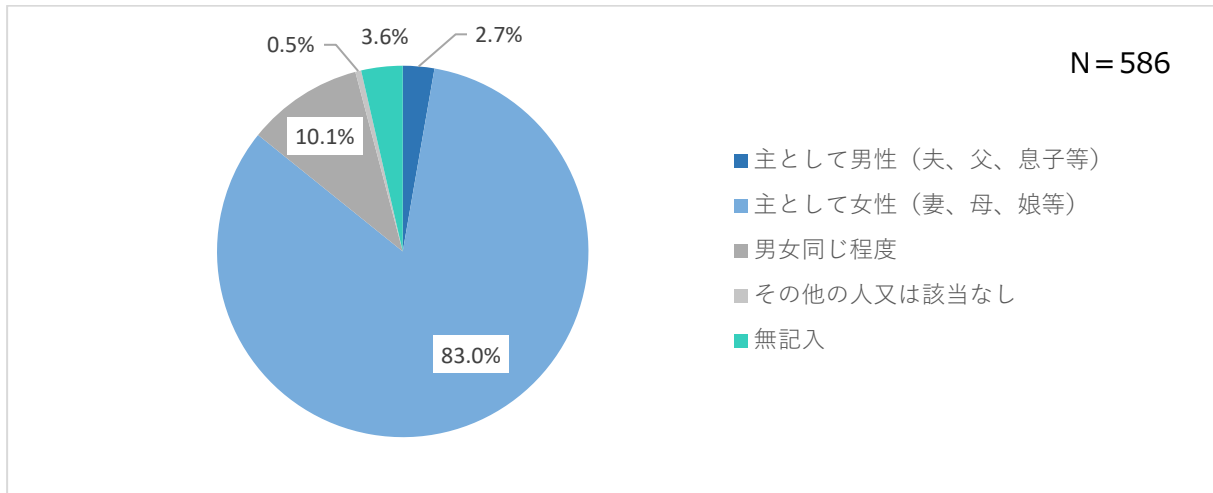
【問 3-1・世帯構成別集計】



世帯構成別では、「主として男性 (夫、父、息子等)」の割合が最も高いのは子育て世代の 68.5% で、全体平均よりも 6.9 ポイント高くなっています。

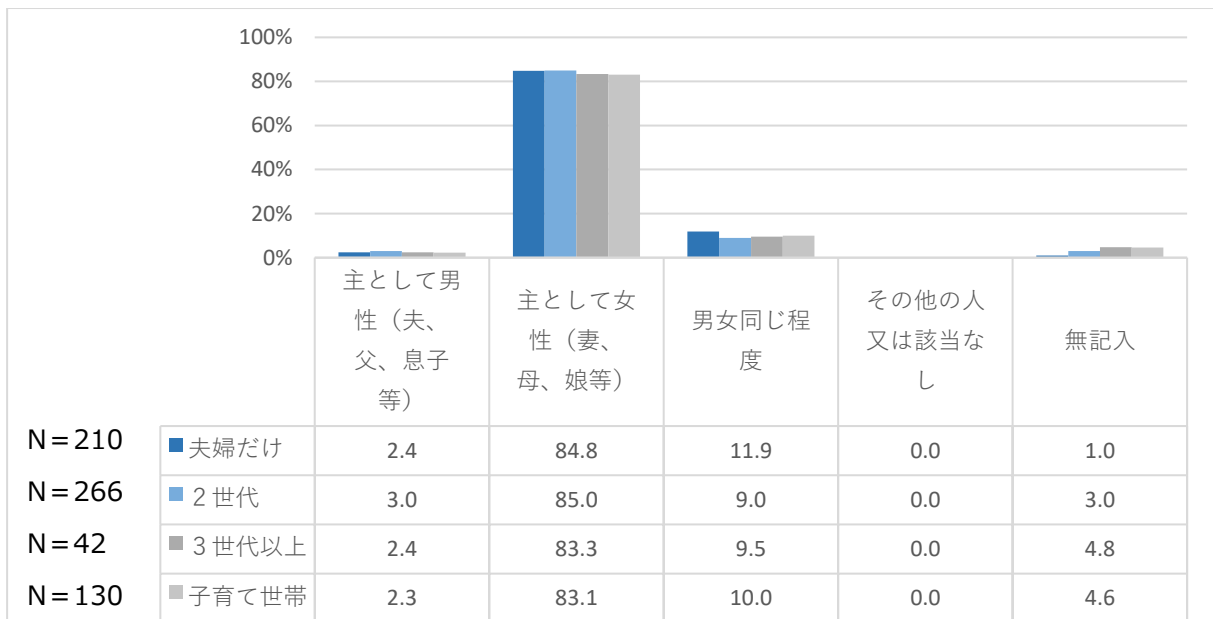
問 3-2 食事の支度

【問 3-2・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「食事の支度」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が83.0%で最も高い割合を占めています。

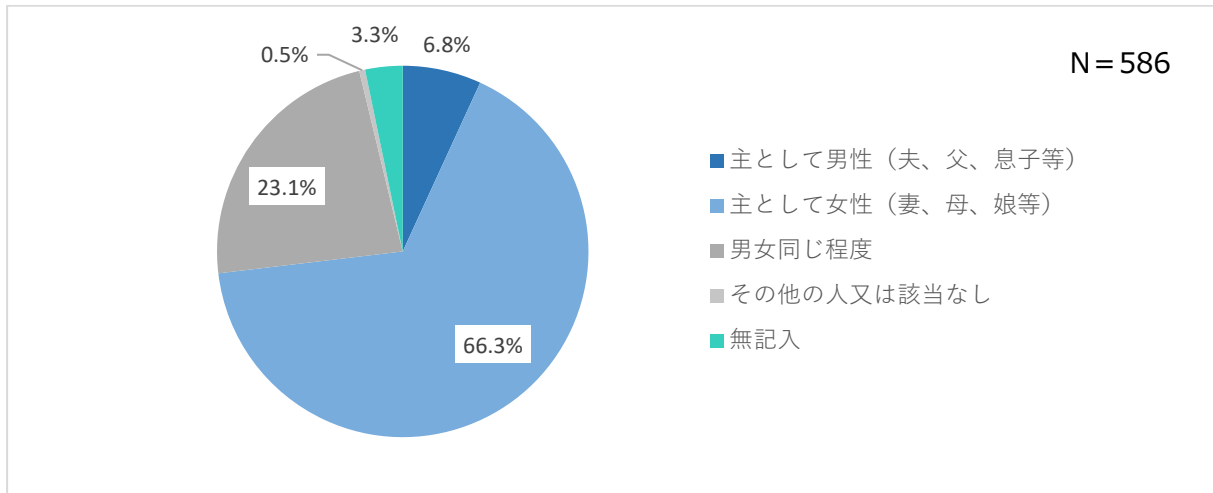
【問 3-2・世帯構成別集計】



世帯構成別では、「主として女性（妻、母、娘等）」の割合が最も高いのは2世代世帯の85.0%で、全体平均よりも2.0ポイント高くなっています。

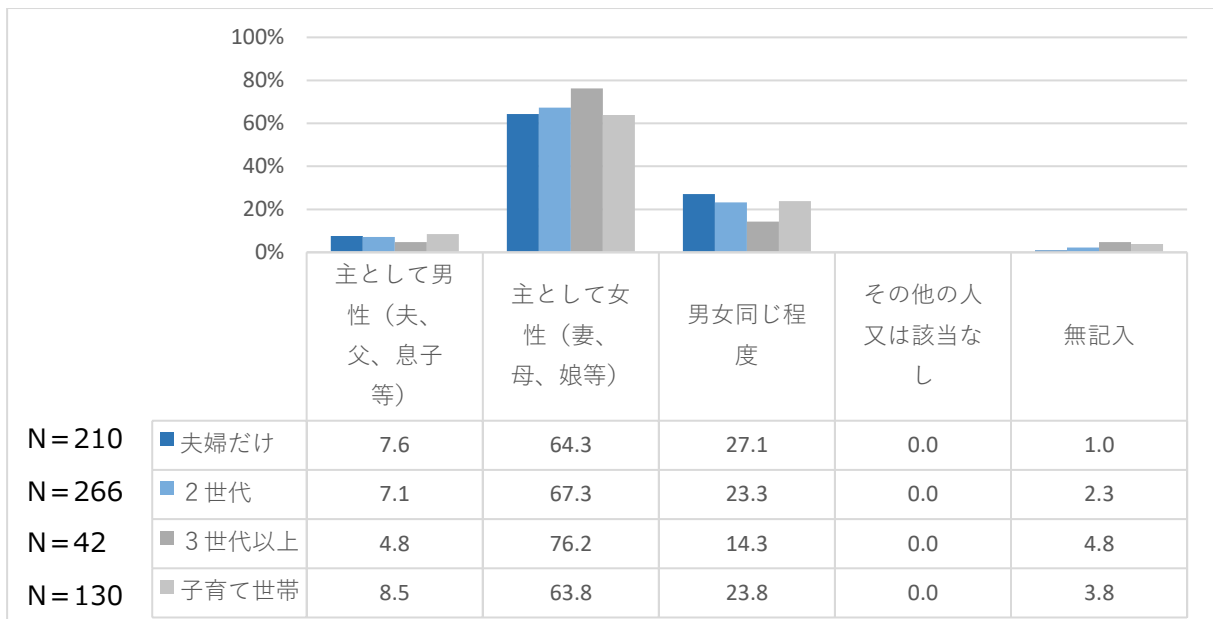
問 3-3 食事の後片付け

【問 3-3・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「食事の後片付け」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が 66.3% で最も高い割合を占めています。

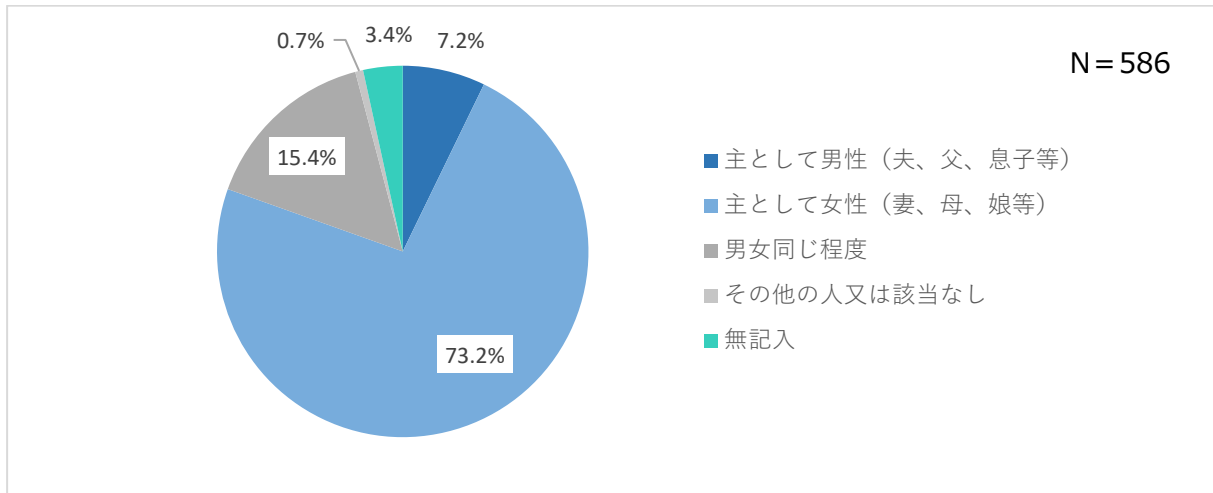
【問 3-3・世帯構成別集計】



世帯構成別では、「主として女性（妻、母、娘等）」の割合が最も高いのは 3 世代以上世帯の 76.2% で、全体平均よりも 9.9 ポイント高くなっています。

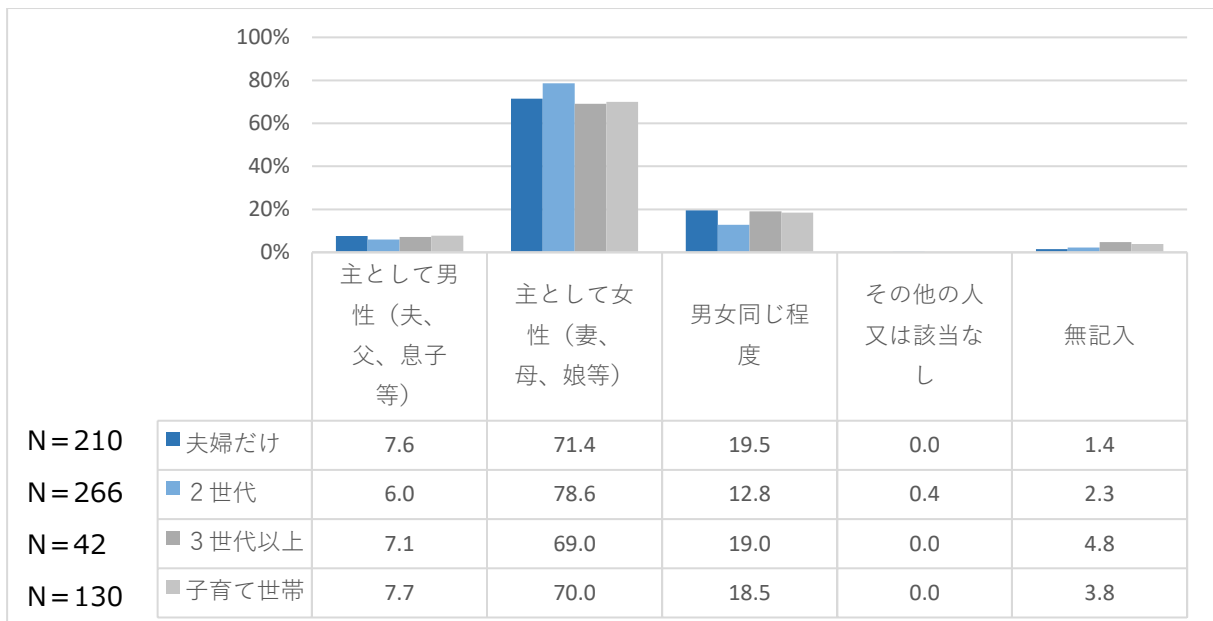
問 3-4 洗濯

【問 3-4・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「洗濯」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が73.2%で最も高い割合を占めています。

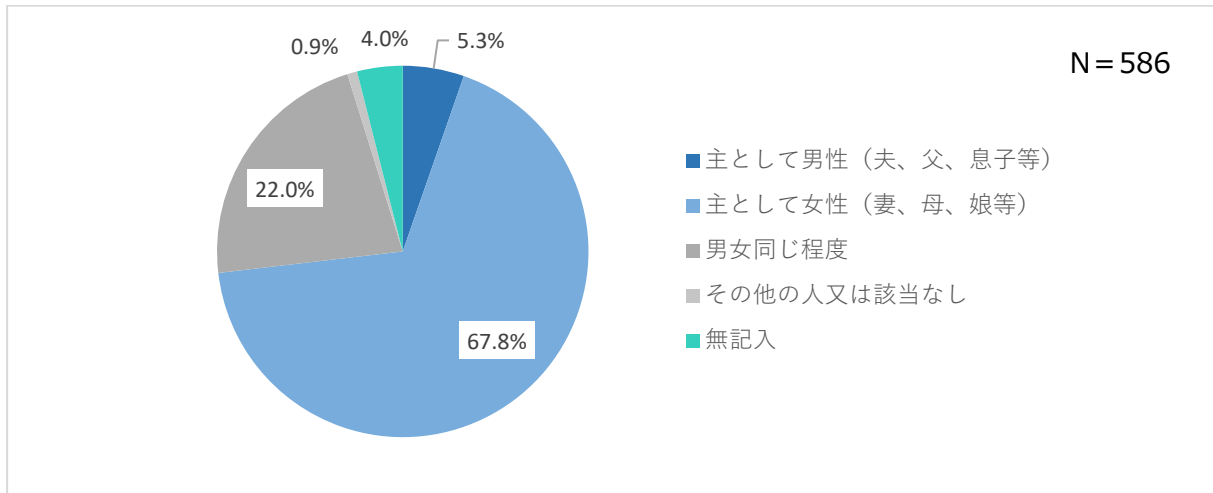
【問 3-4・世帯構成別集計】



世帯構成別では、「主として女性（妻、母、娘等）」の割合が最も高いのは2世代世帯の78.6%で、全体平均よりも5.4ポイント高くなっています。

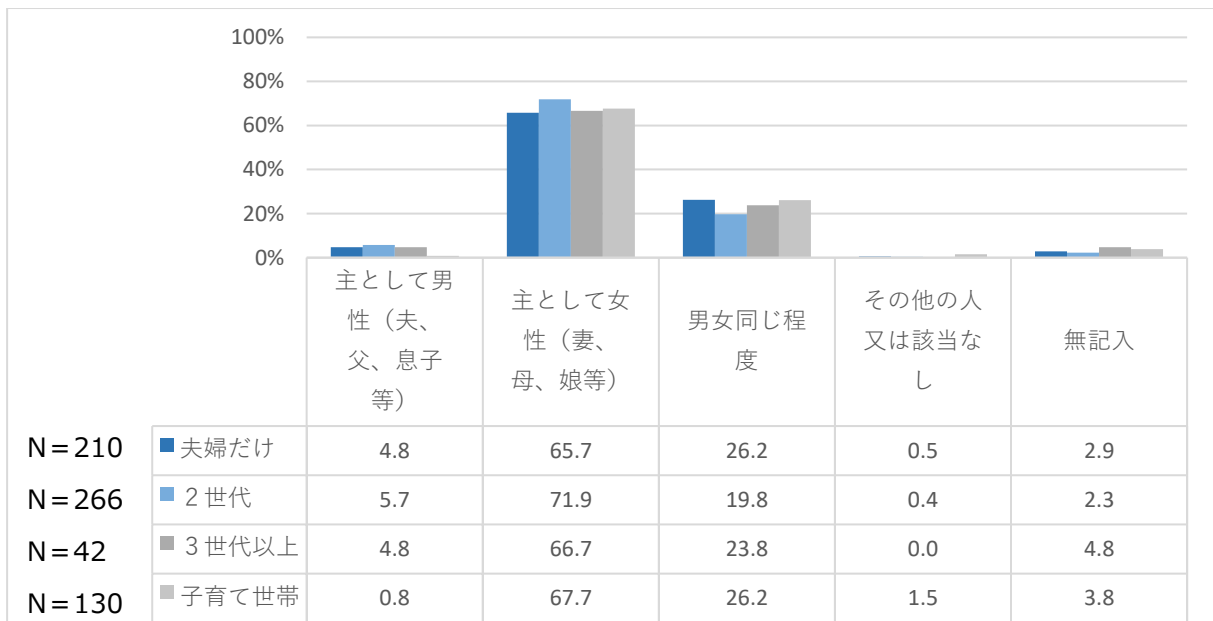
問 3-5 掃除

【問 3-5・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「掃除」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が67.8%で最も高い割合を占めています。

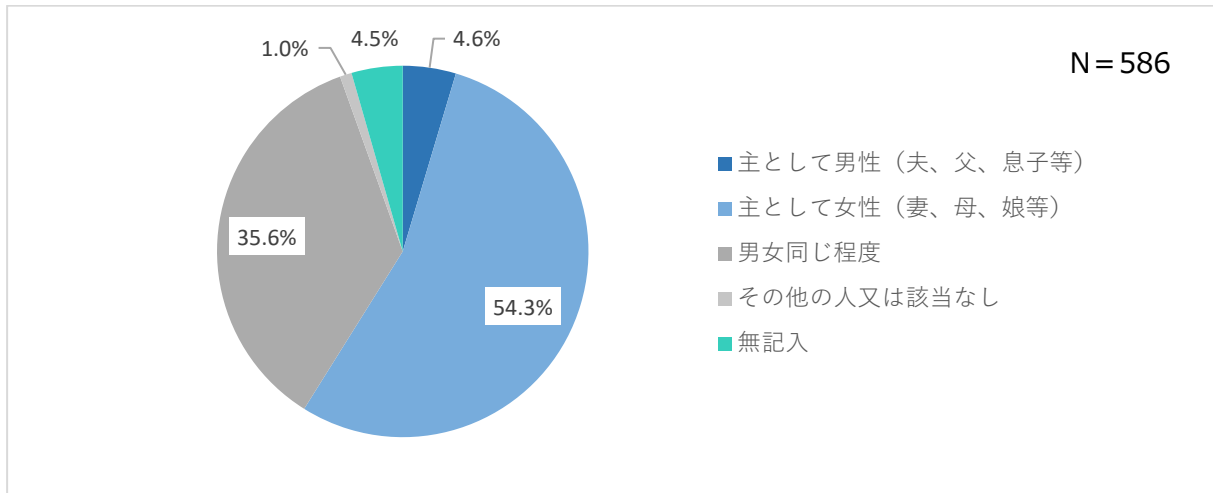
【問 3-5・世帯構成別集計】



世帯構成別では、「主として女性（妻、母、娘等）」の割合が最も高いのは2世代世帯の71.9%で、全体平均よりも4.1ポイント高くなっています。

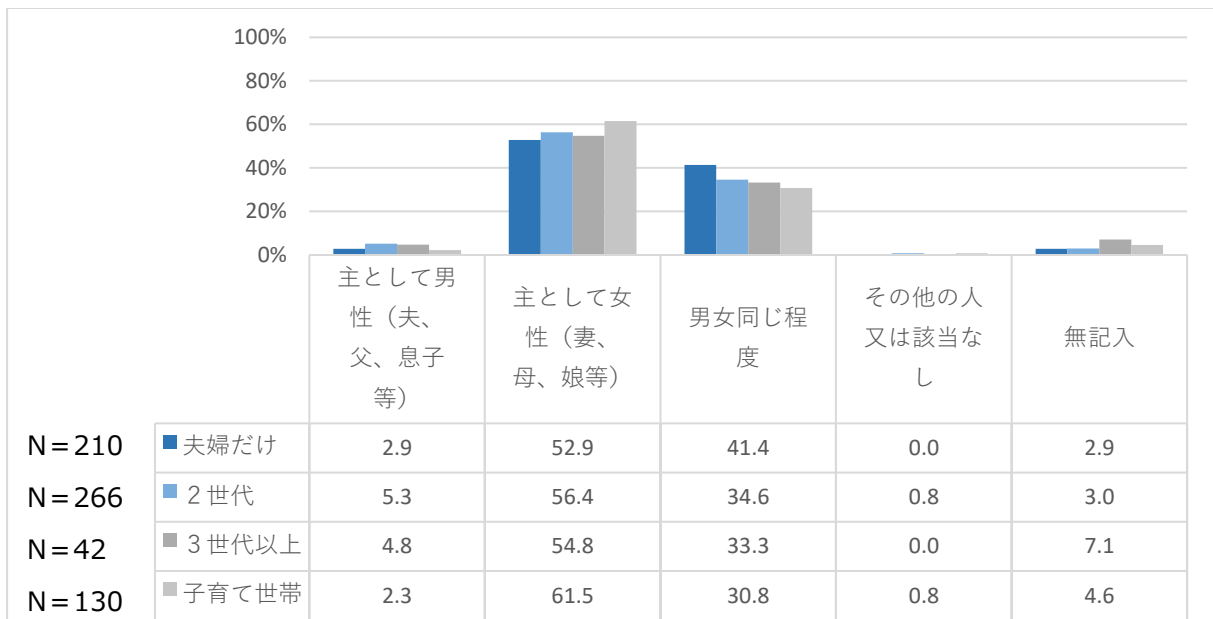
問 3-6 食料品・日用品の買い物

【問 3-6・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「食料品・日用品の買い物」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が54.3%で最も高い割合を占めています。

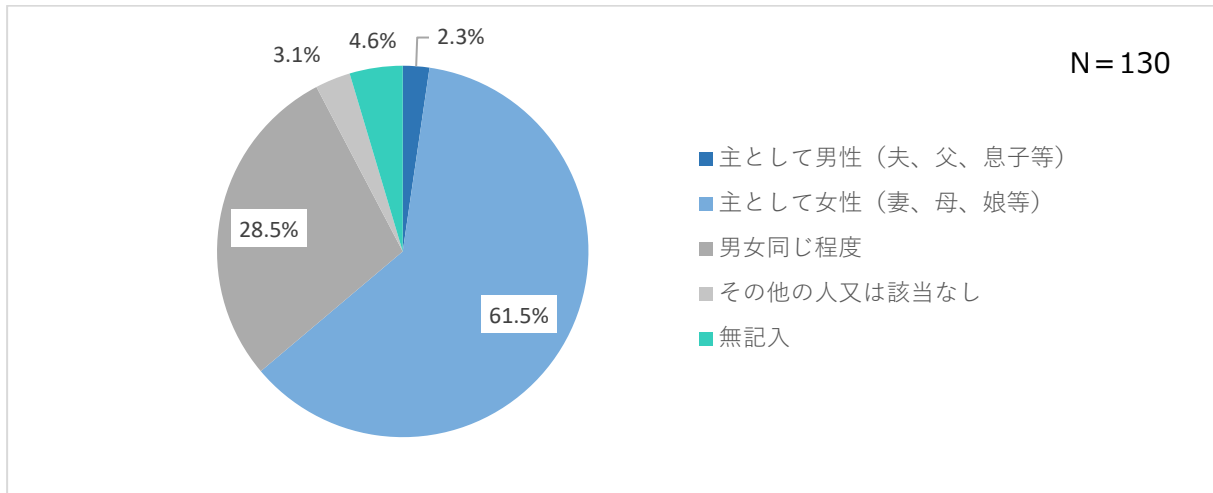
【問 3-6・世帯構成別集計】



世帯構成別では、「主として女性（妻、母、娘等）」の割合が最も高いのは子育て世帯の61.5%で、全体平均よりも7.2ポイント高くなっています。

問 3-7 育児・こどもの世話

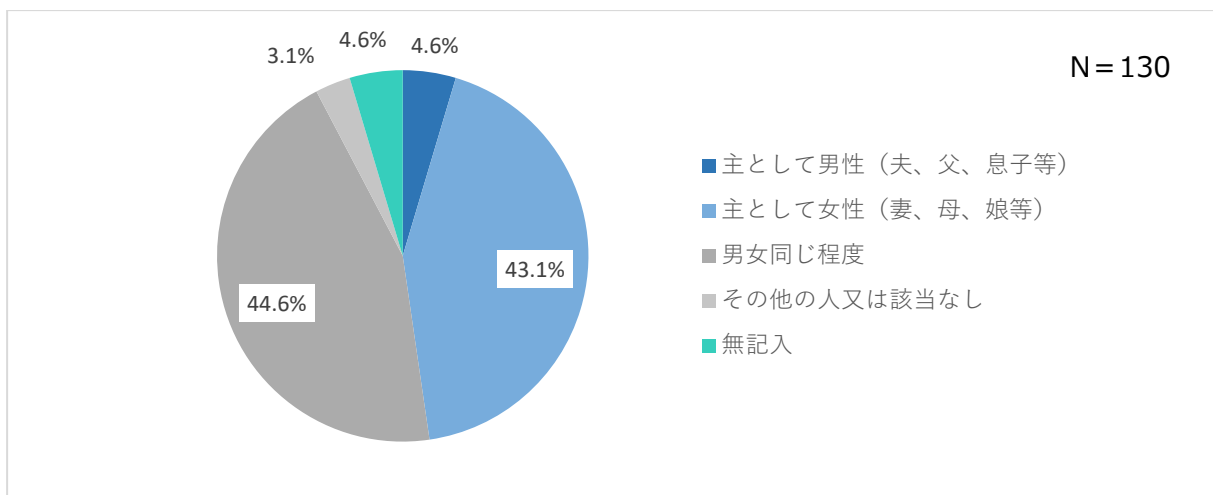
【問 3-7・子育て世帯集計】



子育て世帯における家庭内の役割分担のうち「育児・こどもの世話」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が61.5%で最も高い割合を占めています。

問 3-8 こどものしつけ

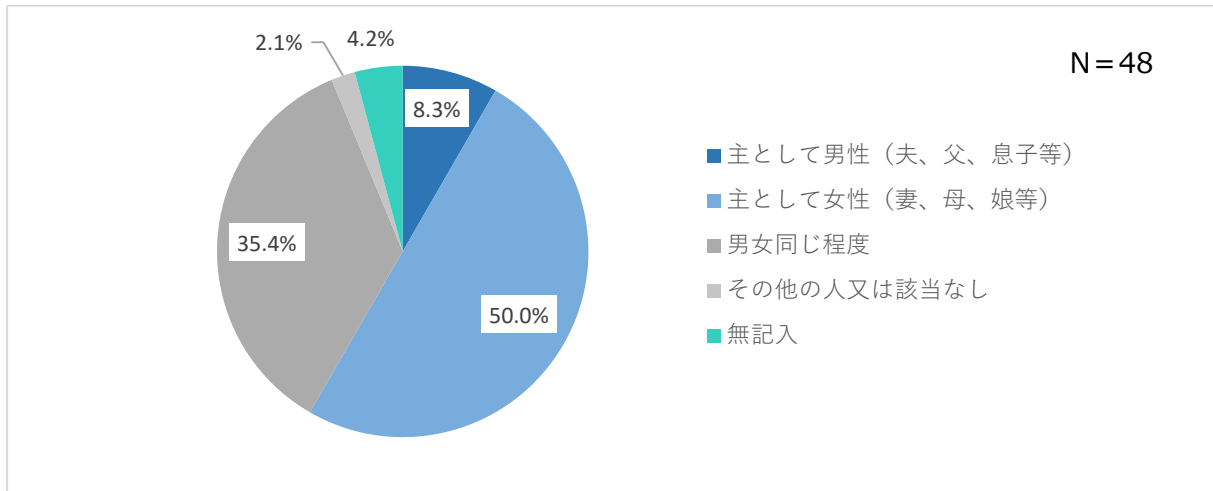
【問 3-8・子育て世帯集計】



子育て世帯における家庭内の役割分担のうち「こどものしつけ」は、「男女同じ程度」が44.6%で最も高い割合を占めています。

問 3-9 家族の介護

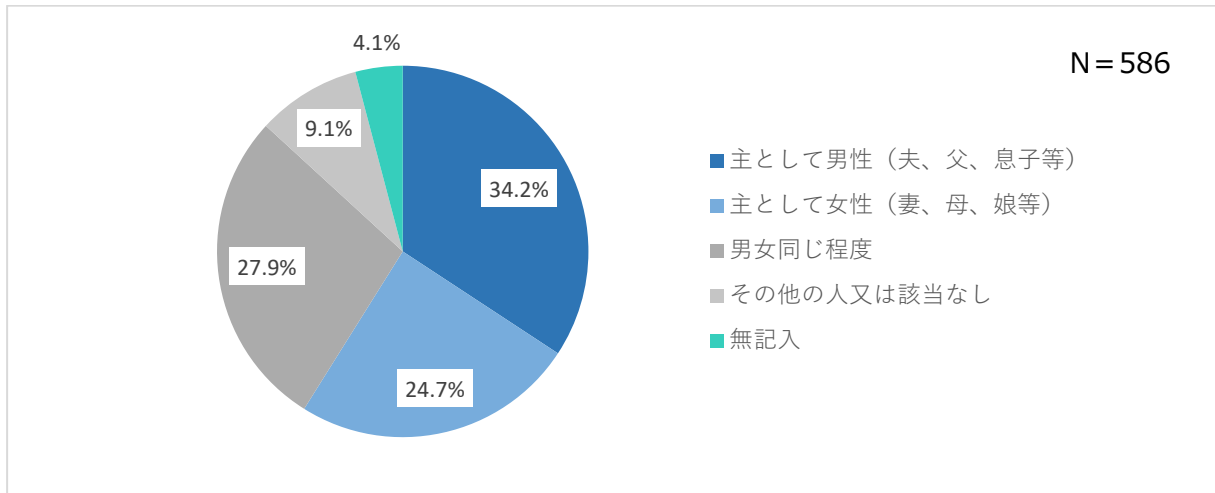
【問 3-9・在宅介護世帯集計】



在宅介護世帯における家庭内の役割分担のうち「家族の介護」は、「主として女性（妻、母、娘等）」が 50.0%で最も高い割合を占めています。

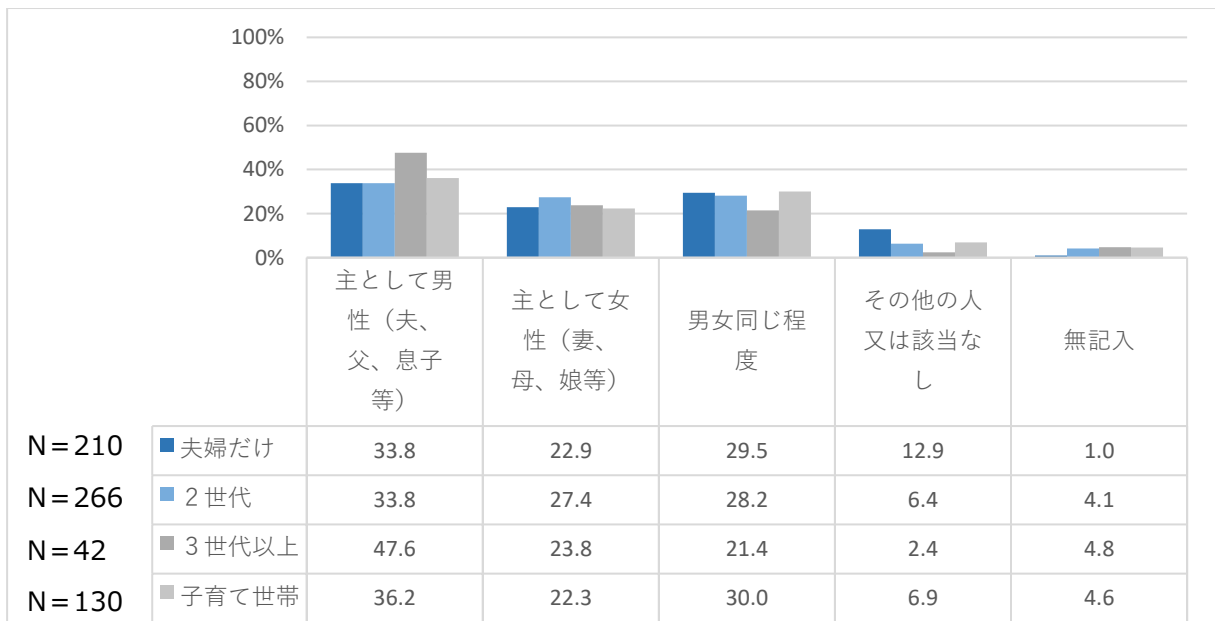
問 3-10 自治会等地域の行事

【問 3-10・全体集計】



家庭内の役割分担のうち、「自治会等地域の行事」は、「主として男性（夫、父、息子等）」が34.2%で最も高い割合を占めています。

【問 3-10・世帯構成別集計】

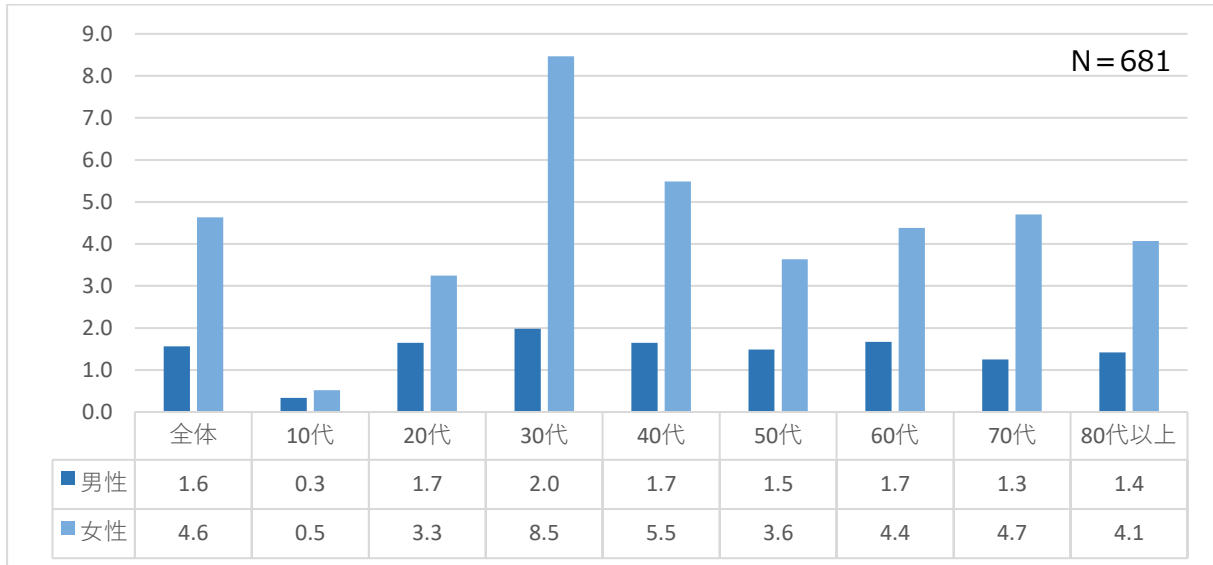


世帯構成別では、「主として男性（夫、父、息子等）」の割合が最も高いのは3世代以上世帯の47.6%で、全体平均よりも13.4ポイント高くなっています。

問4 家事・育児・介護を行う平均時間

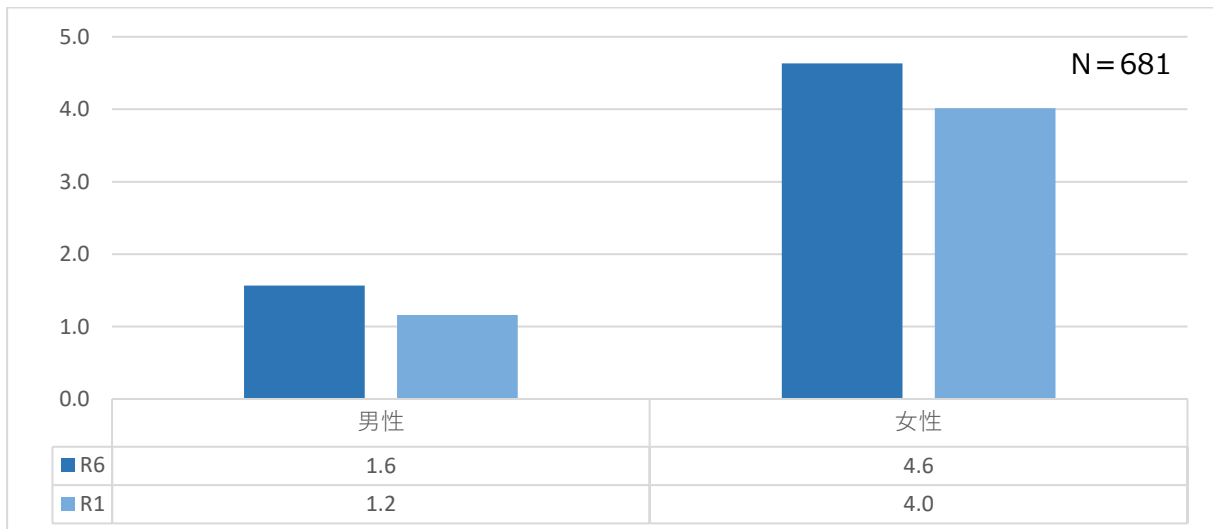
設問文：あなたが家事・育児・介護を行う時間は1日平均（休日含む）どれくらいですか。

【問4・全体集計】（単位：時間）



家事・育児・介護を行う1日平均時間（休日を含む）は、男性が1.6時間、女性が4.6時間となっています。

【問4・経年比較】（単位：時間）



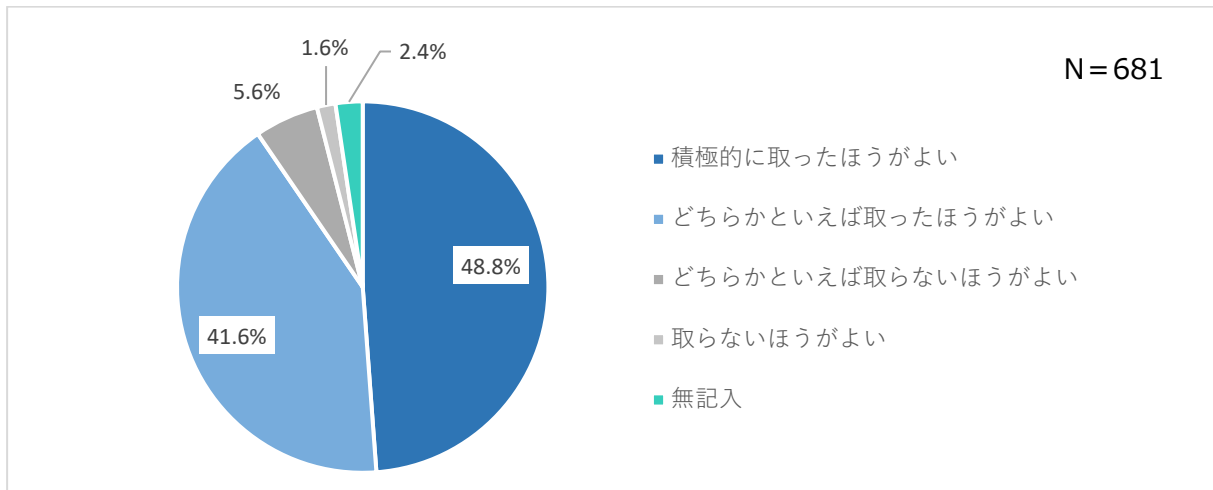
家事・育児・介護を行う1日平均時間（休日を含む）について、令和元年度と令和6年度を比較すると、男性は、1.2時間から1.6時間になり0.4時間長く、女性は、4.0時間から4.6時間になり0.6時間長くなりました。

問5 男性が育児休業・介護休業を取得することをどう思うか

設問文：育児や介護を行うために男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのように思いますか。（育児休業と介護休業それぞれ1つ選択）

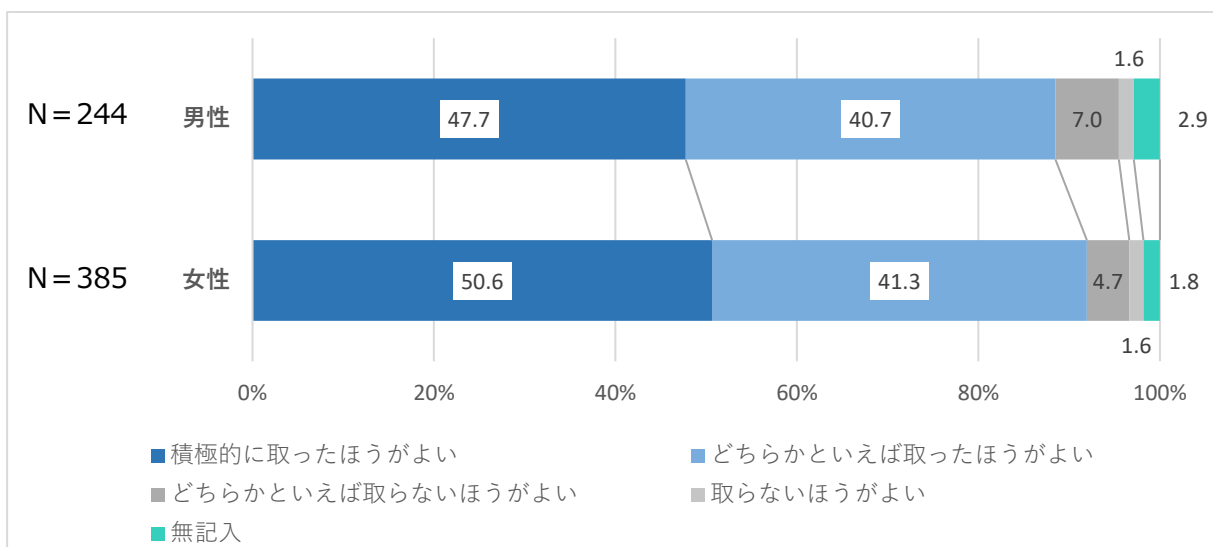
問5-1 育児休業について

【問5-1・全体集計】



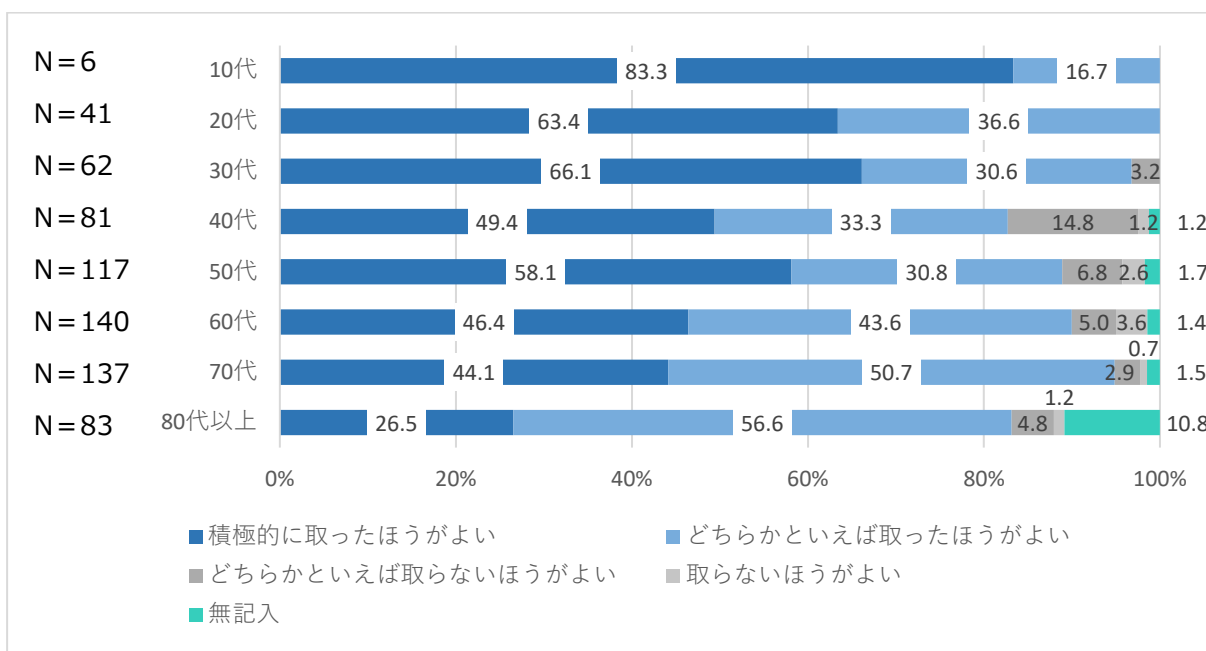
「積極的に取ったほうがよい」は、48.8%で最も高い割合を占めています。「どちらかといえば取ったほうがよい」の41.6%と合わせると市民の90.4%が「育児休業の取得に賛成する」という結果になりました。

【問5-1・性別集計】



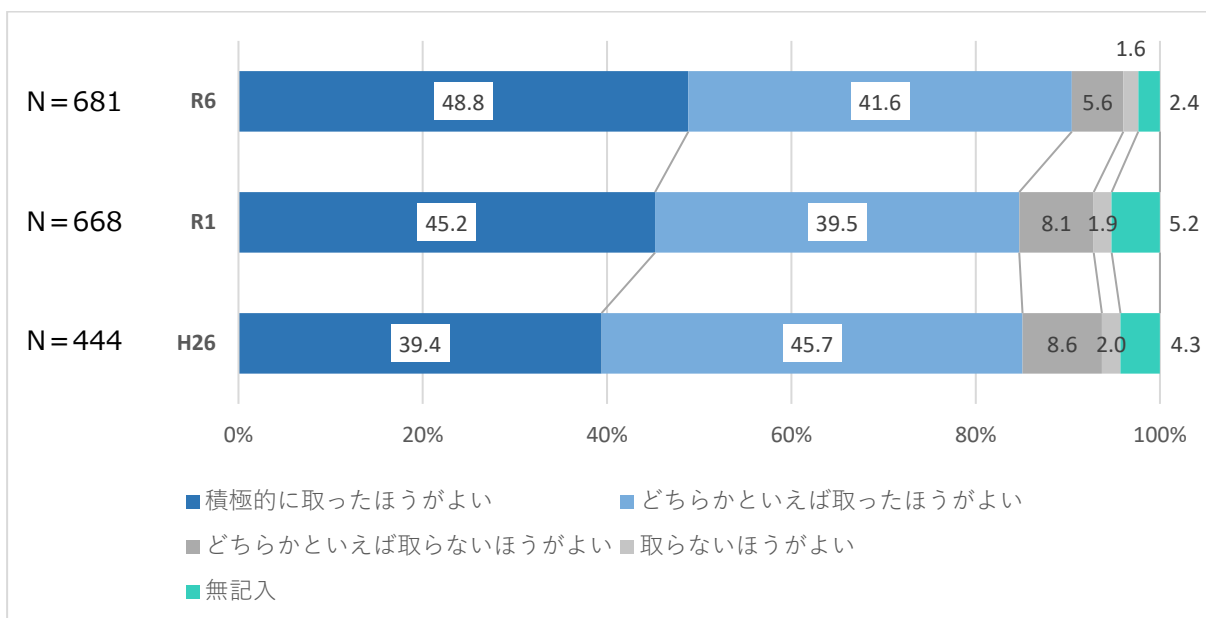
「積極的に取ったほうがよい」、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合の合計について、男性は、88.4%に対し、女性は91.9%であり、女性の方が3.5ポイント高くなっています。

【問 5 - 1 ・ 年代別集計】



「積極的に取ったほうがよい」、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合の合計は、10代、20代が共に100.0%で最も高く、40代の82.7%が最も低くなっています。

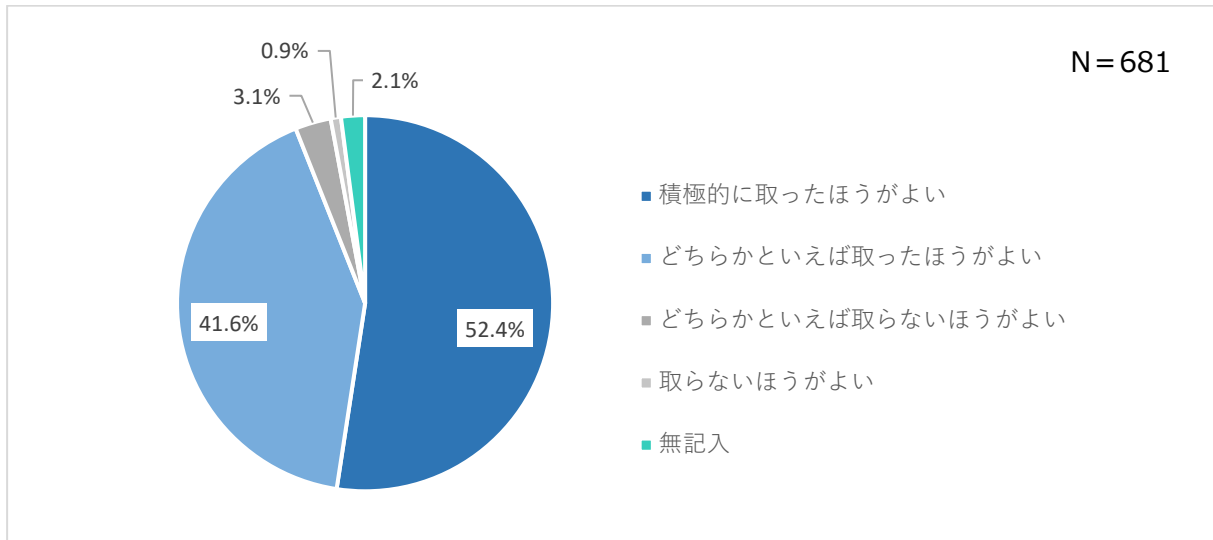
【問 5 - 1 ・ 経年比較】



「積極的に取ったほうがよい」、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合の合計は、前回調査の令和元年度が84.7%に対し、令和6年度は90.4%であり、5.7ポイント高くなっています。

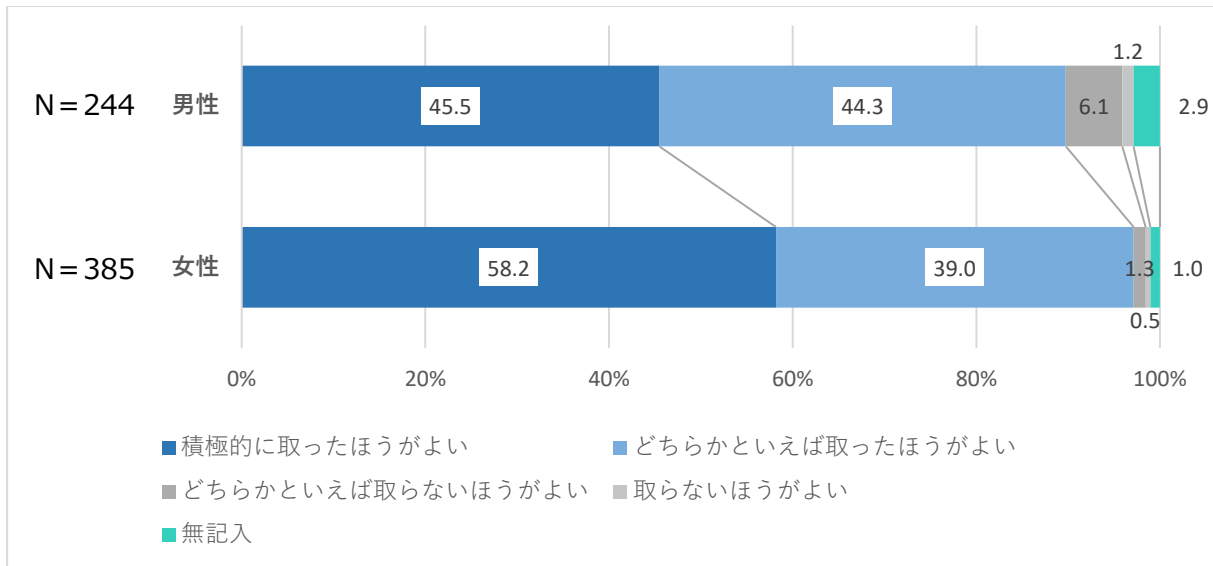
問 5-2 介護休業について

【問 5-2・全体集計】



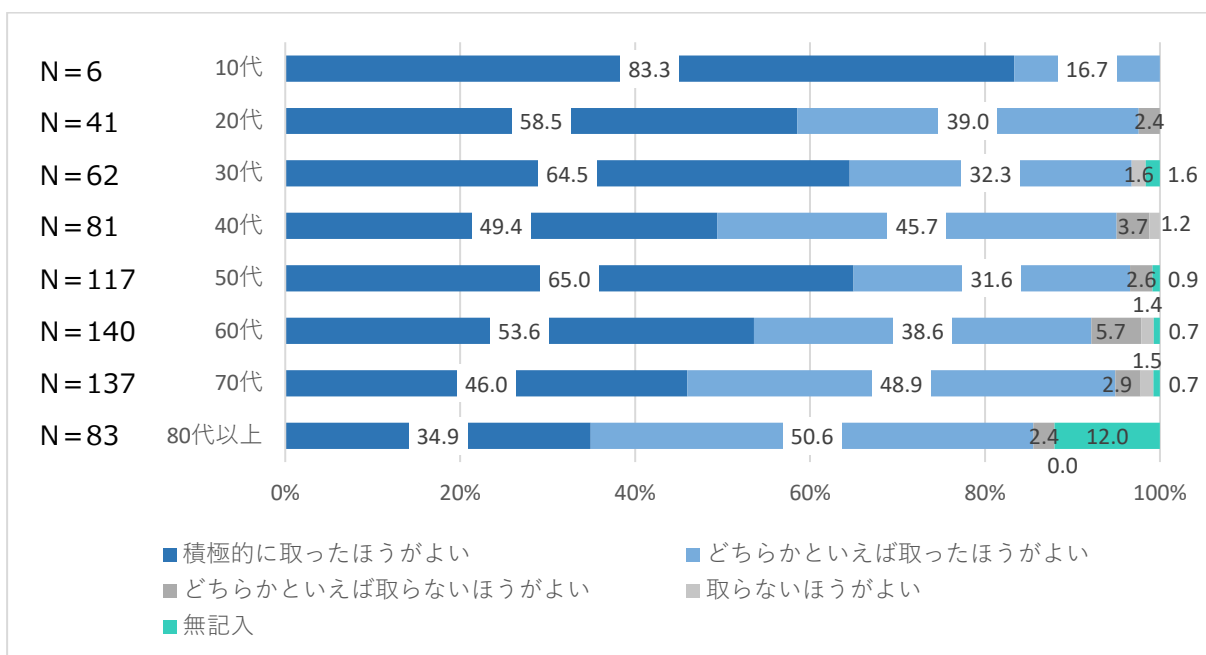
「積極的に取ったほうがよい」は、52.4%で過半数を占めています。「どちらかといえば取ったほうがよい」の41.6%と合わせると市民の94.0%が「介護休業の取得に賛成する」という結果になりました。

【問 5-2・性別集計】



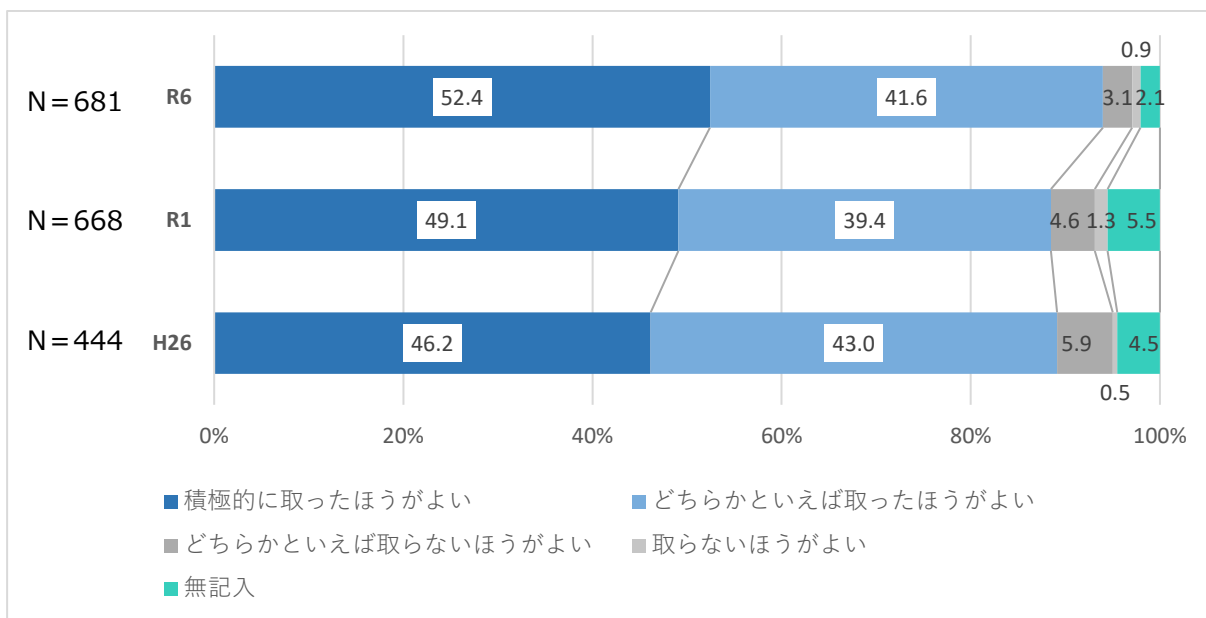
「積極的に取ったほうがよい」、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合の合計について、男性は、89.8%に対し、女性は97.2%であり、女性の方が7.4ポイント高くなっています。

【問 5-2・年代別集計】



「積極的に取ったほうがよい」、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合の合計は、10代が100.0%で最も高く、80代以上の85.5%が最も低くなっています。

【問 5-2・経年比較】

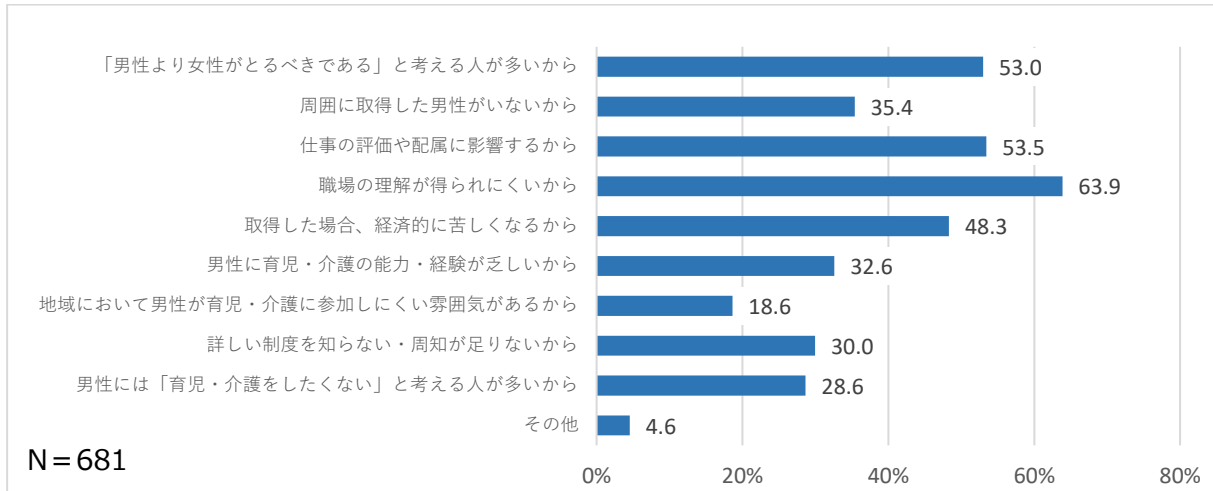


「積極的に取ったほうがよい」、「どちらかといえば取ったほうがよい」の割合の合計は、前回調査の令和元年度が88.5%に対し、令和6年度は94.0%であり、5.5ポイント高くなっています。

問6 男性の育児休業・介護休業の取得率が低い理由

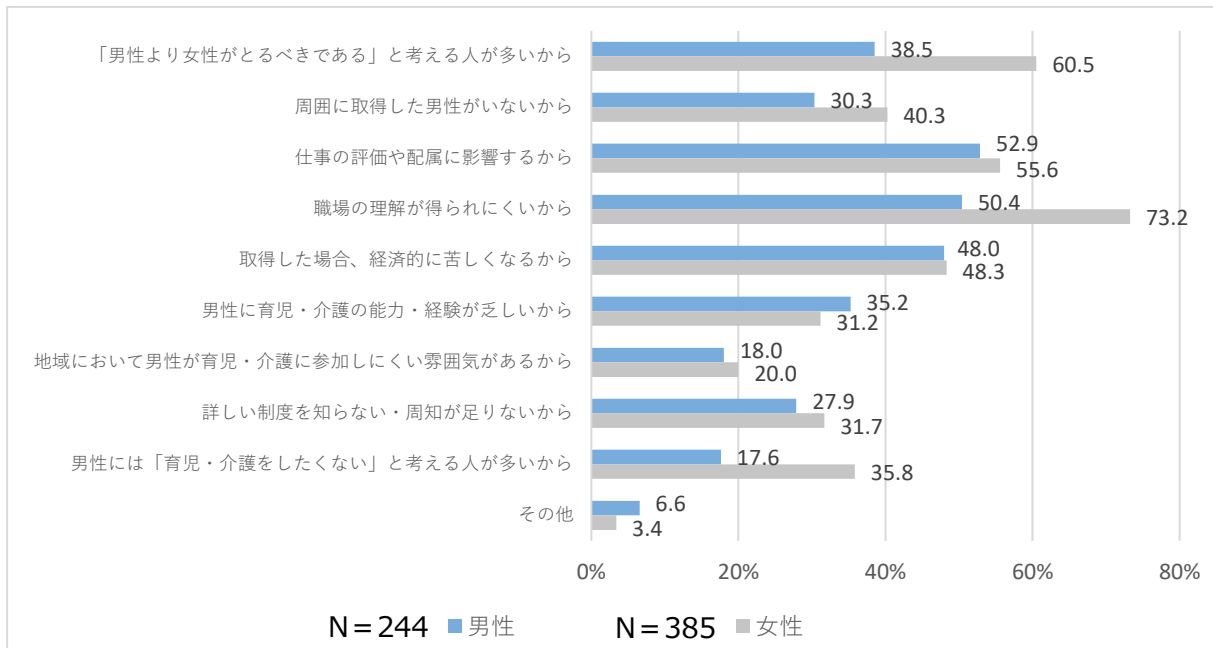
設問文：男性の育児休業・介護休業の取得率は低い状況にありますが、それはなぜだ
 と思いますか。（あてはまるもの全て選択）

【問6・全体集計】



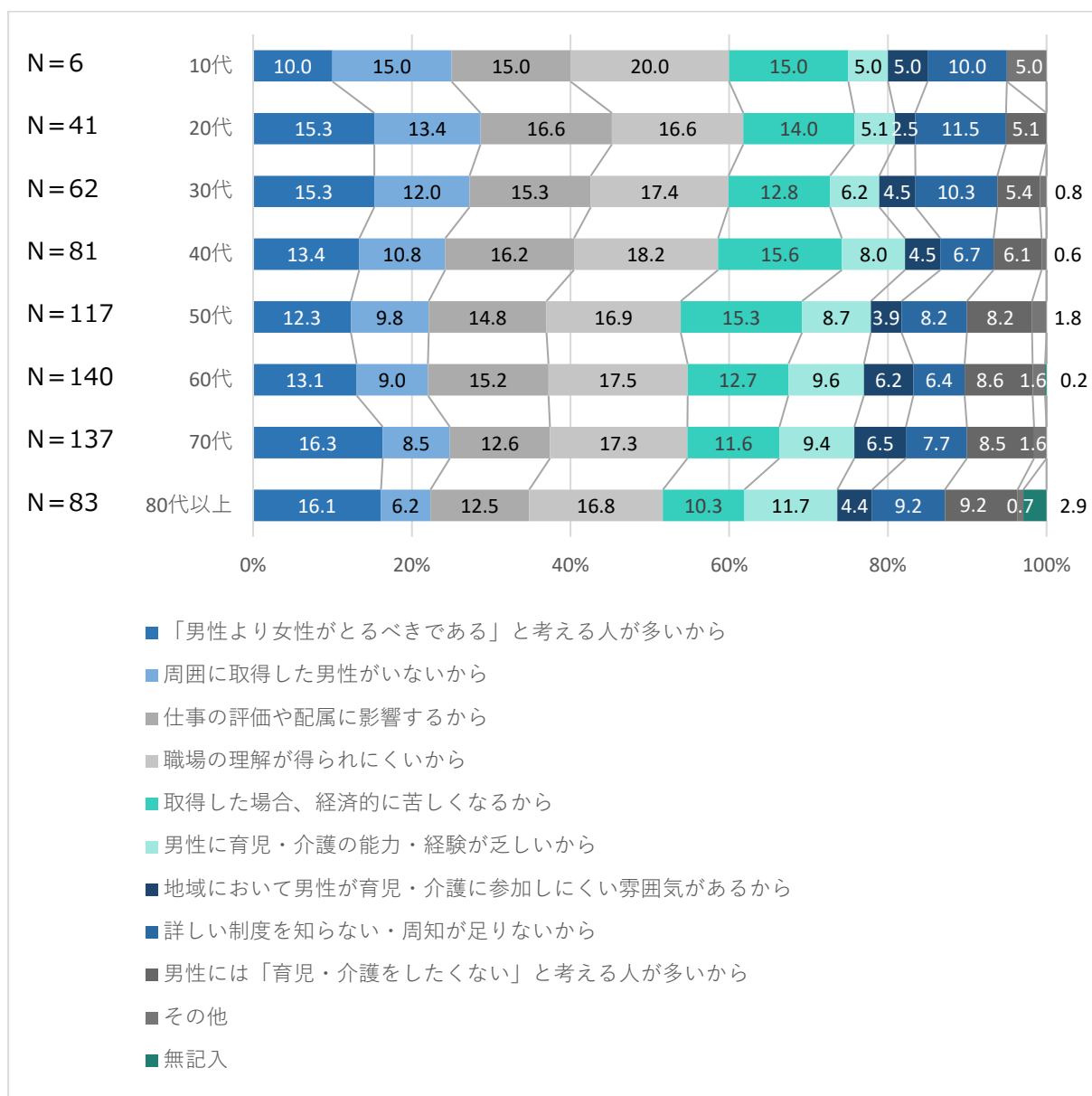
「職場の理解が得られにくいから」の63.9%が最も高く、次に「仕事の評価や配属に影響するから」の53.5%、「『男性より女性がとるべきである』と考える人が多いから」の53.0%の順に選択率が高くなっています。

【問6・性別集計】



男性は、「仕事の評価や配属に影響するから」の52.9%、女性は、「職場の理解が得られにくいから」の73.2%が最も高くなっています。

【問6・年代別集計】

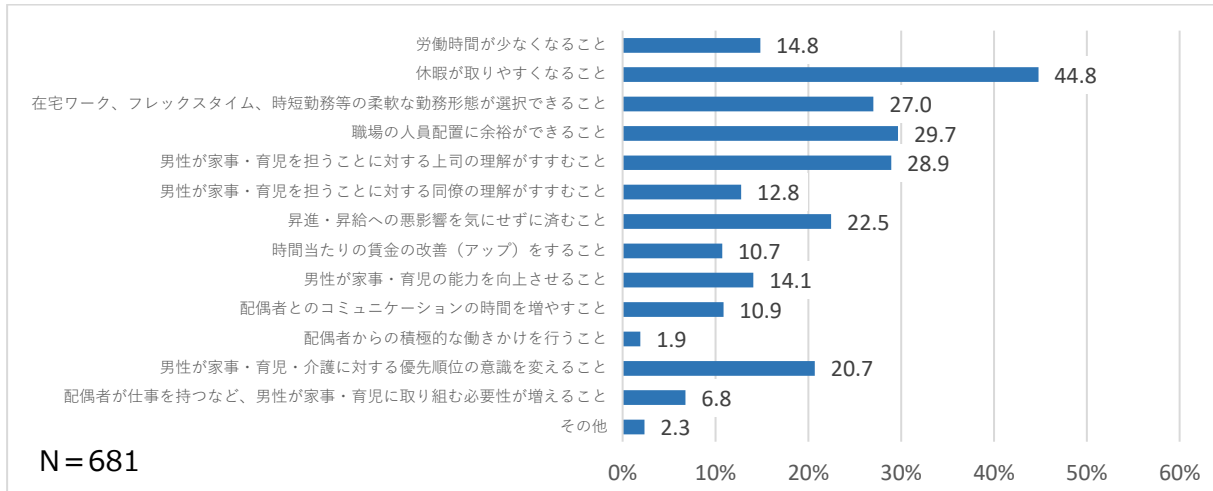


- ・全年代において、「職場の理解が得られにくいから」の割合が最も高く、10代で20.0%、20代で16.6%、30代で17.4%、40代で18.2%、50代で16.9%、60代で17.5%、70代で17.3%、80代以上で16.8%を占めています。
- ・20代では、「仕事の評価や配属に影響するから」の16.6%が同率で最も高い割合を占めています。

問7 男性が家事等に携わる時間を増やすために必要なこと

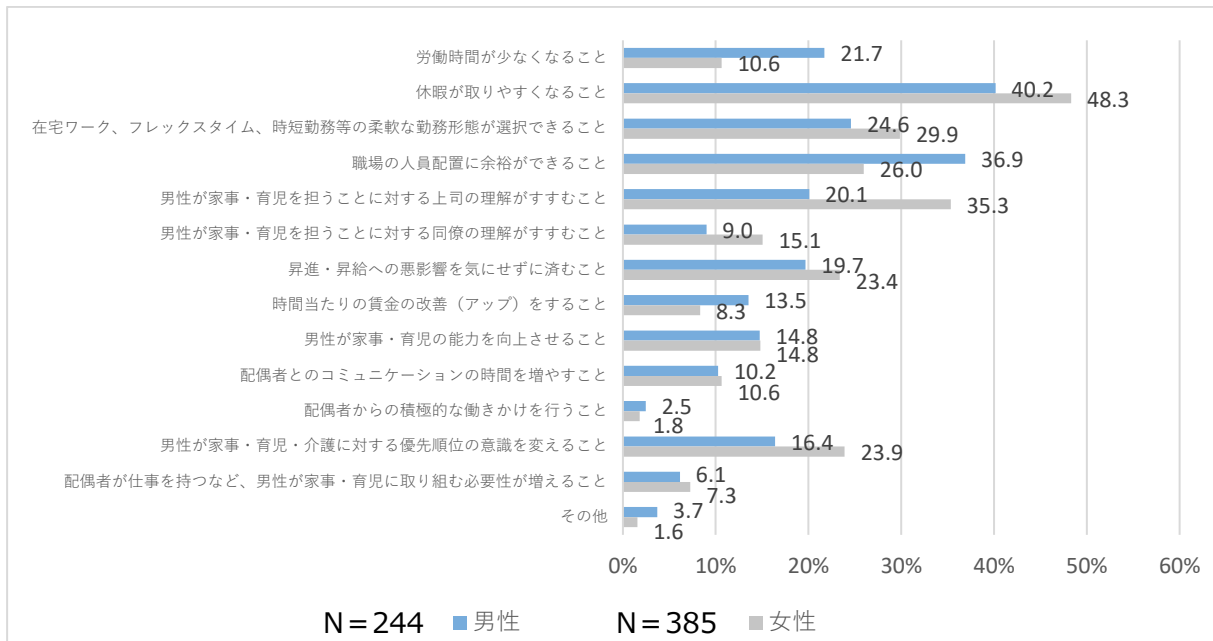
設問文：男性が家事・育児・介護に携わる時間は少ない状況にあります。これらの時間を増やすには何が重要だと思いますか。（3つまで選択）

【問7・全体集計】



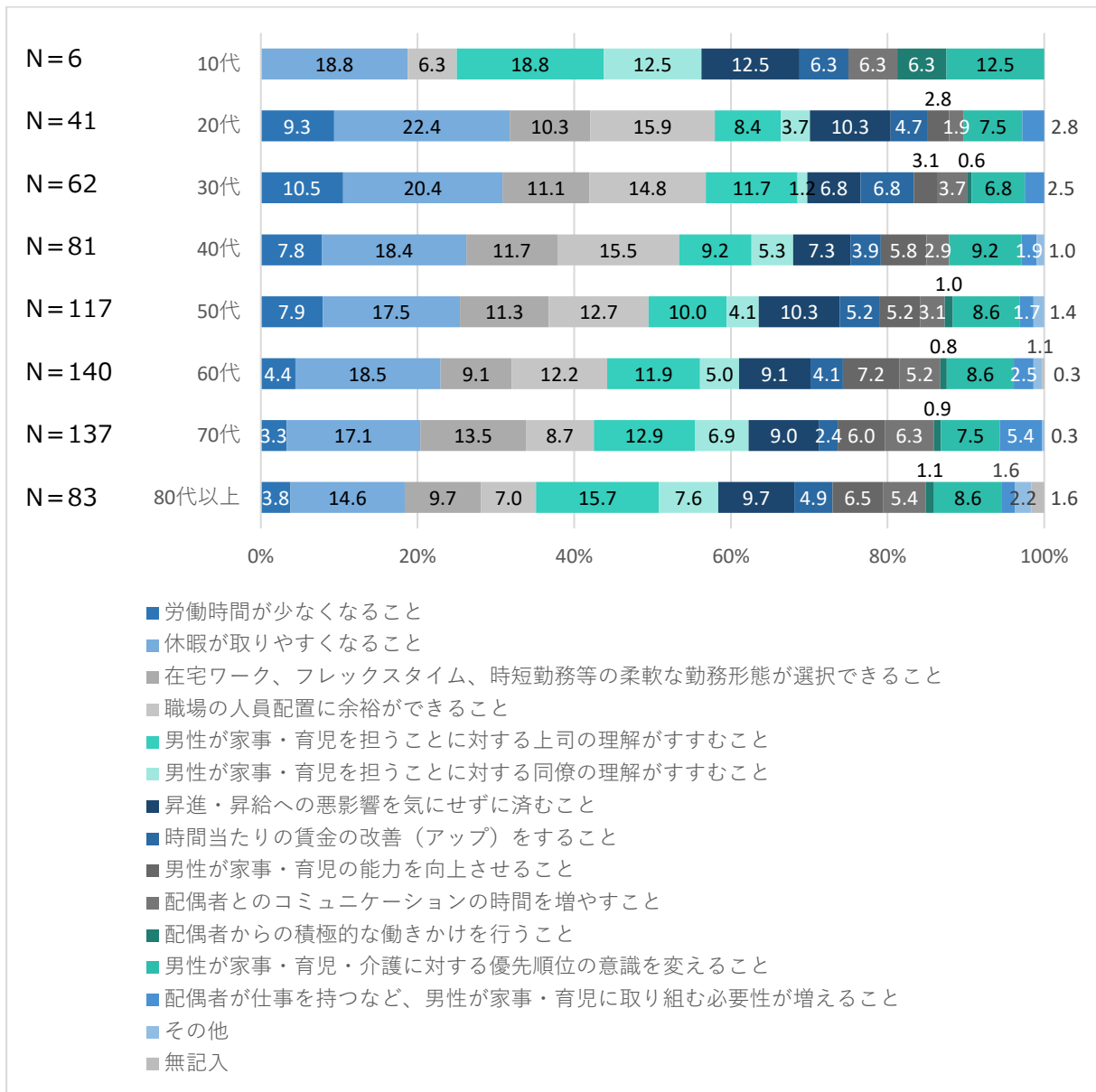
「休暇が取りやすくなること」の44.8%が最も高く、次に「職場の人員配置に余裕ができること」の29.7%、「男性が家事・育児を担うことに対する上司の理解がすすむこと」の28.9%順に選択率が高くなっています。

【問7・性別集計】



男女ともに「休暇が取りやすくなること」が最も高く、男性は40.2%、女性は48.3%となっています。

【問7・年代別集計】



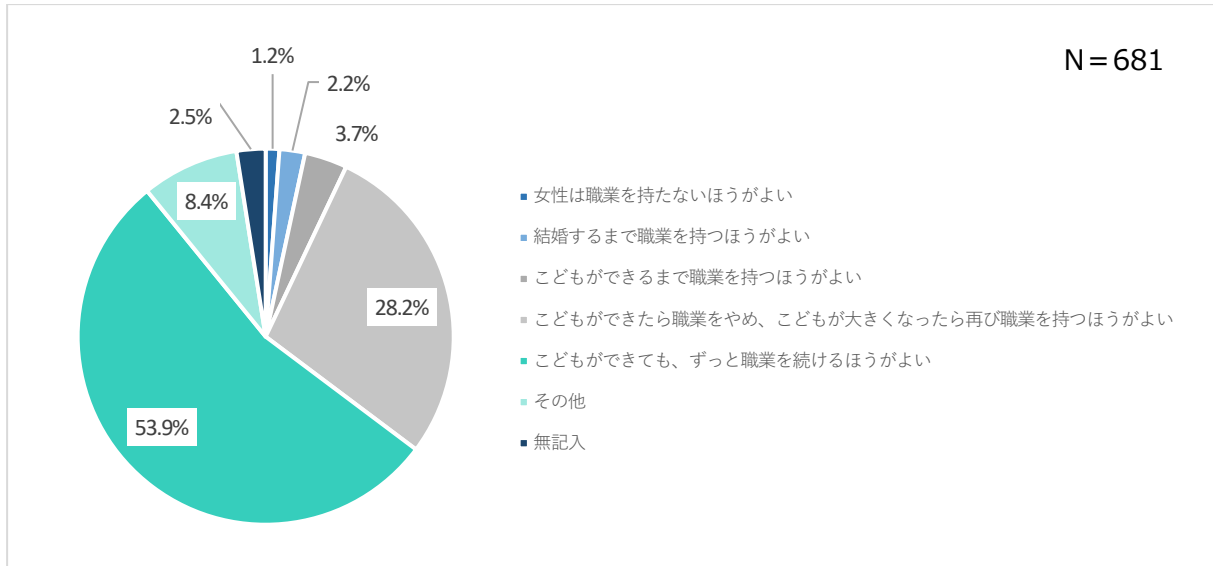
・10代～70代では、「休暇が取りやすくなること」の割合が最も高く、10代で18.8%、20代で22.4%、30代で20.4%、40代で18.4%、50代で17.5%、60代で18.5%、70代で17.1%を占めています。

・80代以上では、「男性が家事・育児を担うことに対する上司の理解がすすむこと」の割合が最も高く、15.7%を占めています。

問8 女性が職業を持つことをどう思うか

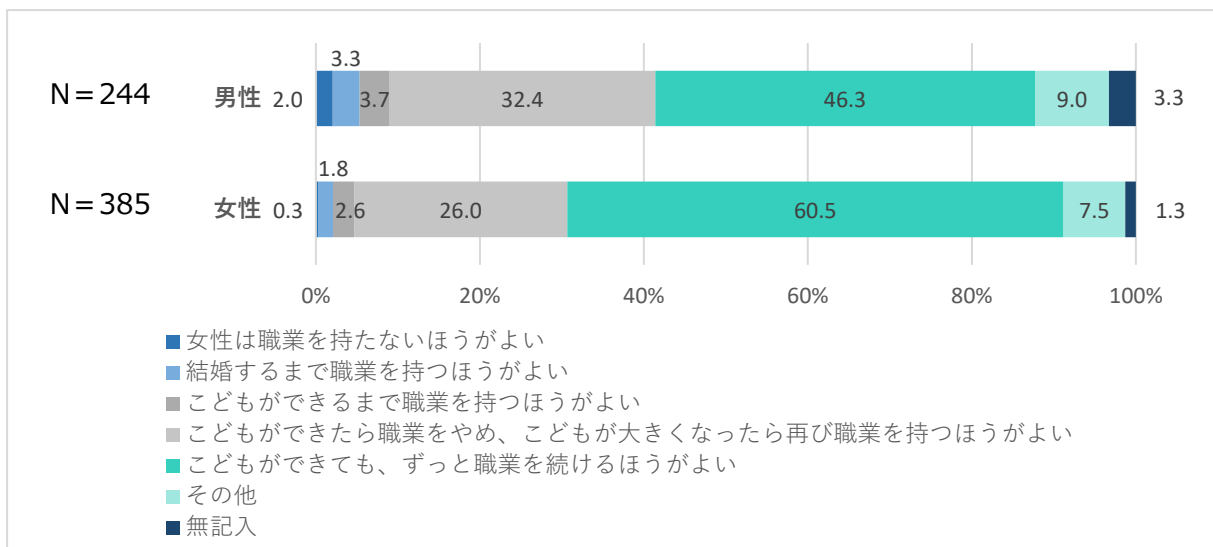
設問文：一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。（1つ選択）

【問8・全体集計】



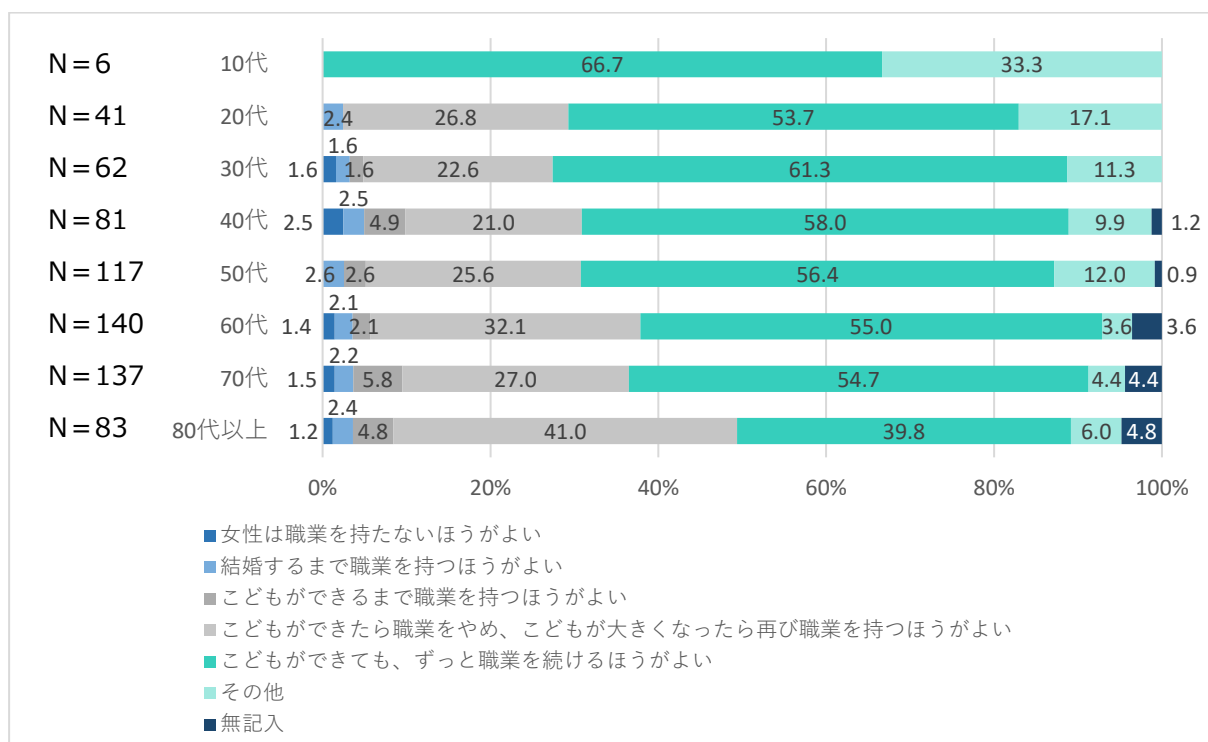
「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」が53.9%で、過半数を占めています。

【問8・性別集計】



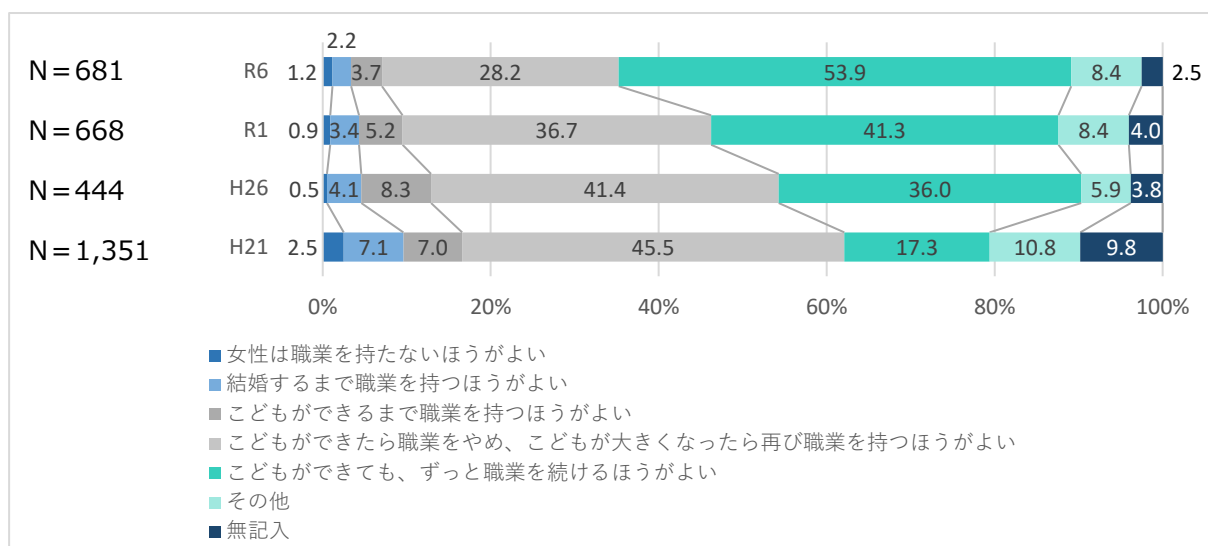
「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合について、男性は、46.3%に対し、女性は60.5%であり、女性の方が14.2ポイント高くなっています。

【問 8 ・ 年代別集計】



10代～70代では、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が最も高く、80代以上では「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら職業を持つほうがよい」の割合が最も高くなっています。

【問 8 ・ 経年比較】

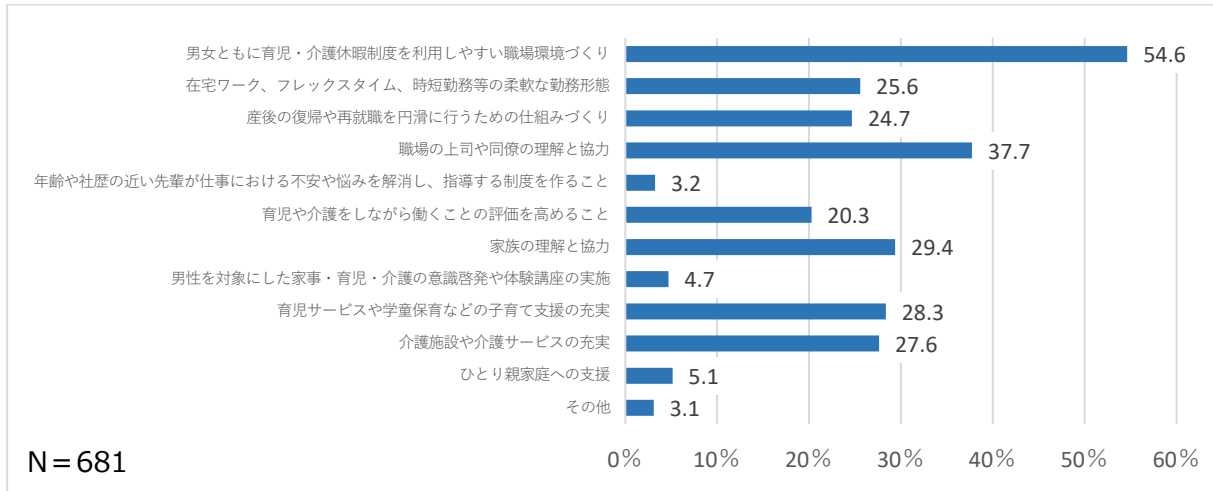


「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合は、前回調査の令和元年度が41.3%に対し、令和6年度は53.9%であり、12.6ポイント高くなっています。

問9 女性が育児や介護と両立して働き続けるために必要なこと

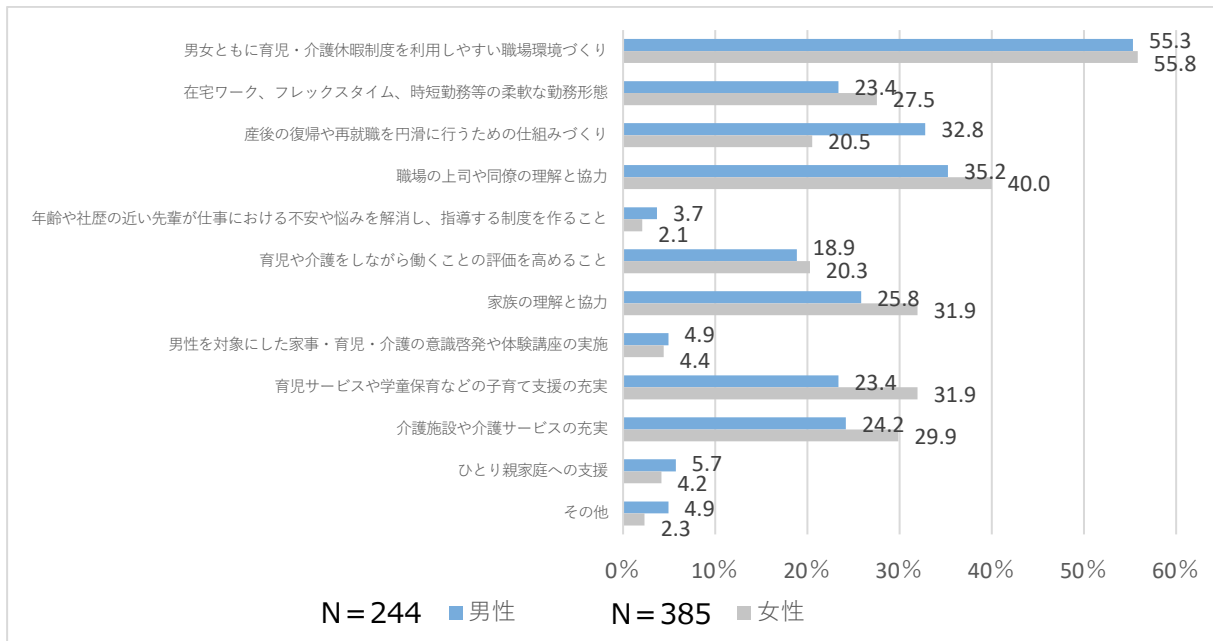
設問文：女性が育児や介護と両立して働き続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。(3つまで選択)

【問9・全体集計】



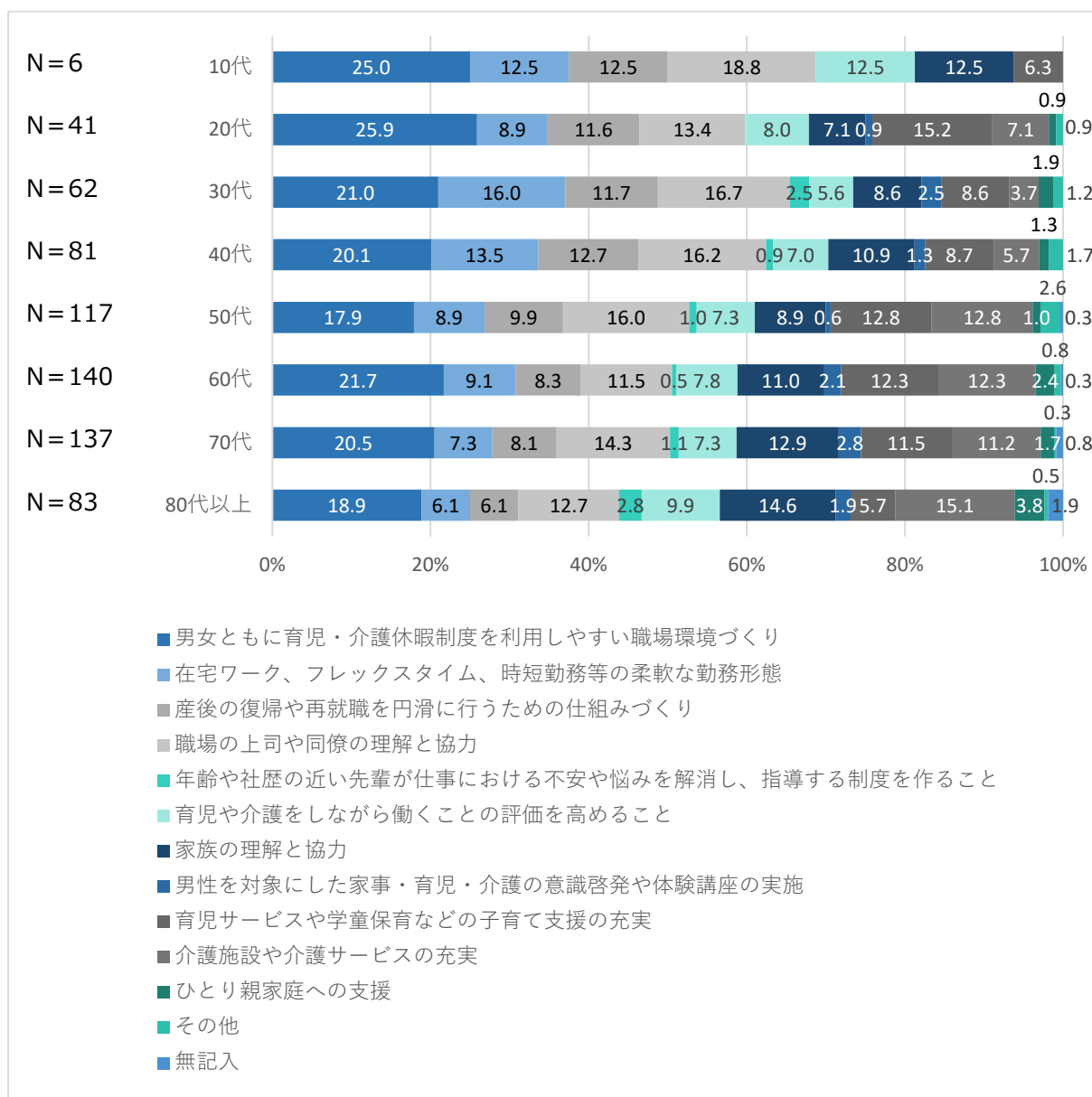
「男女ともに育児・介護休暇制度を利用しやすい職場環境づくり」の 54.6%が最も高く、次に「職場の上司や同僚の理解と協力」の 37.7%、「家族の理解と協力」の 29.4%の順に選択率が高くなっています。

【問9・性別集計】



男女ともに「男女ともに育児・介護休暇制度を利用しやすい職場環境づくり」が最も高く、男性は 55.3%、女性は 55.8%となっています。

【問9・年代別集計】

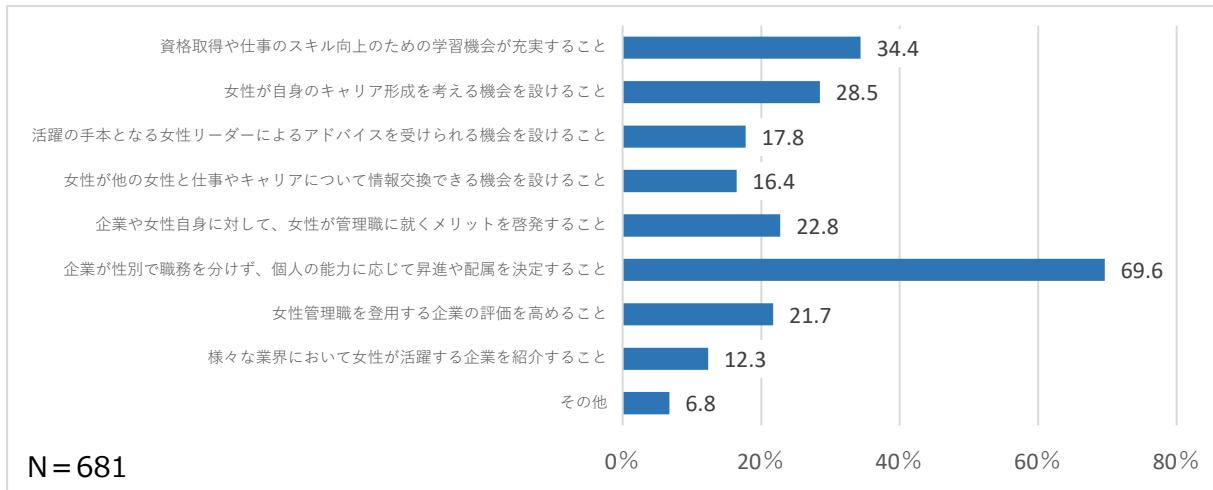


全年代において、「男女ともに育児・介護休暇制度を利用しやすい職場環境づくり」の割合が最も高く、10代で25.0%、20代で25.9%、30代で21.0%、40代で20.1%、50代で17.9%、60代で21.7%、70代で20.5%、80代以上で18.9%を占めています。

問 10 職場で女性がもっと活躍するために必要なこと

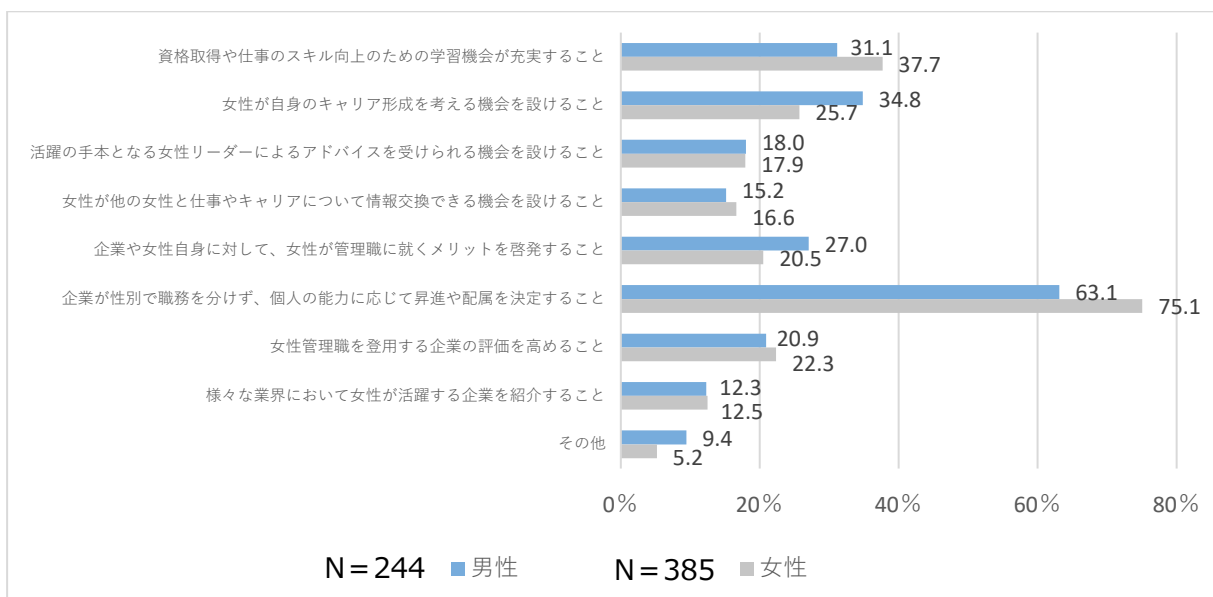
設問文：女性の社会進出が進む一方、女性が管理職に登用される割合は、男性と比較して低い状況です。職場において、女性がもっと活躍できるようにするには、何が重要だと思いますか。（3つまで選択）

【問 10・全体集計】



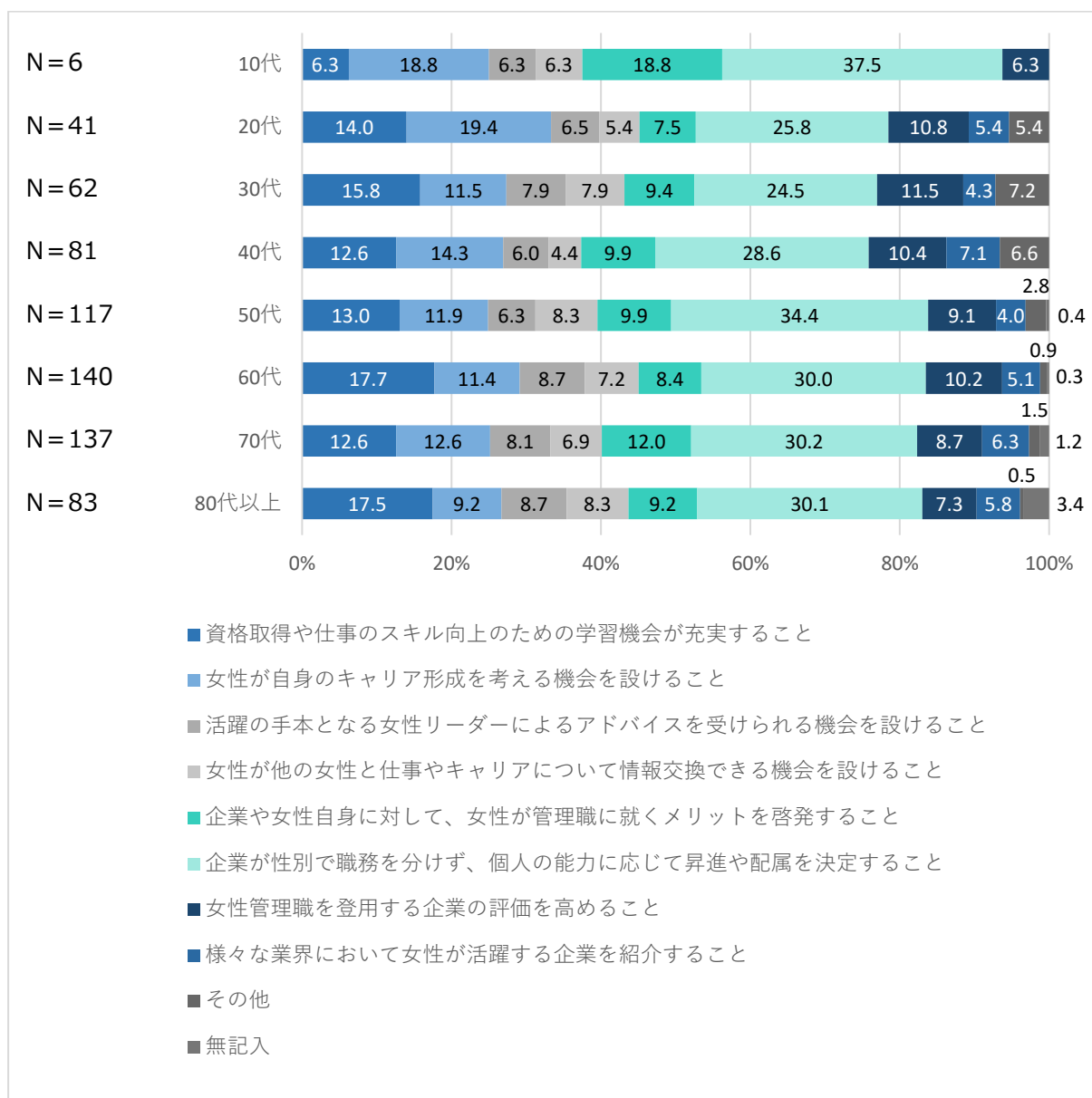
「企業が性別で職務を分けず、個人の能力に応じて昇進や配属を決定すること」の 69.6%が最も高く、次に「資格取得や仕事のスキル向上のための学習機会が充実すること」の 34.4%、「女性が自身のキャリア形成を考える機会を設けること」の 28.5%の順に選択率が高くなっています。

【問 10・性別集計】



男女ともに「企業が性別で職務を分けず、個人の能力に応じて昇進や配属を決定すること」が最も高く、男性は 63.1%、女性は 75.1%となっています。

【問 10・年代別集計】

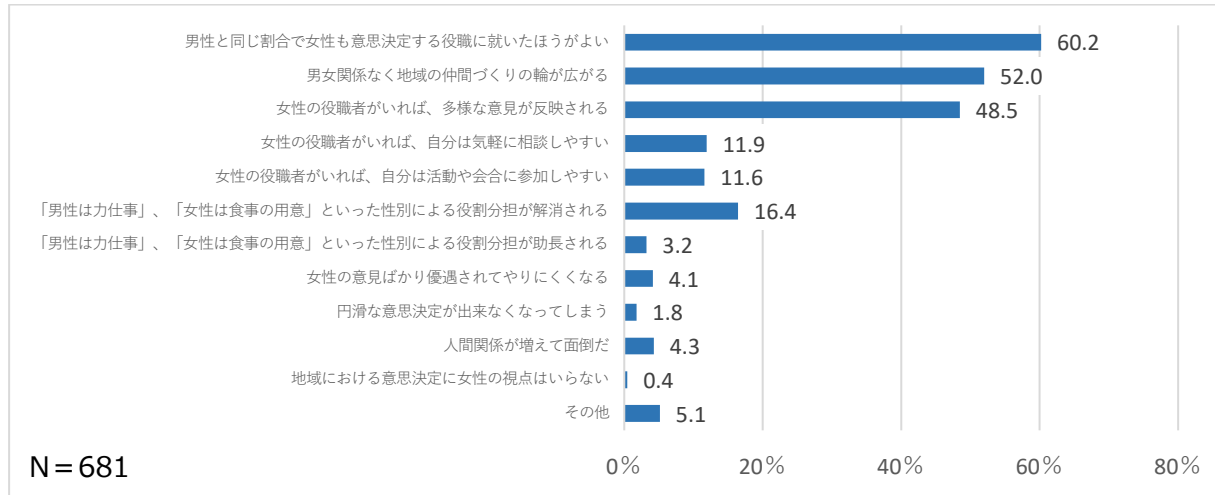


全年代において、「企業が性別で職務を分けず、個人の能力に応じて昇進や配属を決定すること」の割合が最も高く、10代で37.5%、20代で25.8%、30代で24.5%、40代で28.6%、50代で34.4%、60代で30.0%、70代で30.2%、80代以上で30.1%を占めています。

問 11 地域で女性が意思決定する役職に就くことをどう思うか

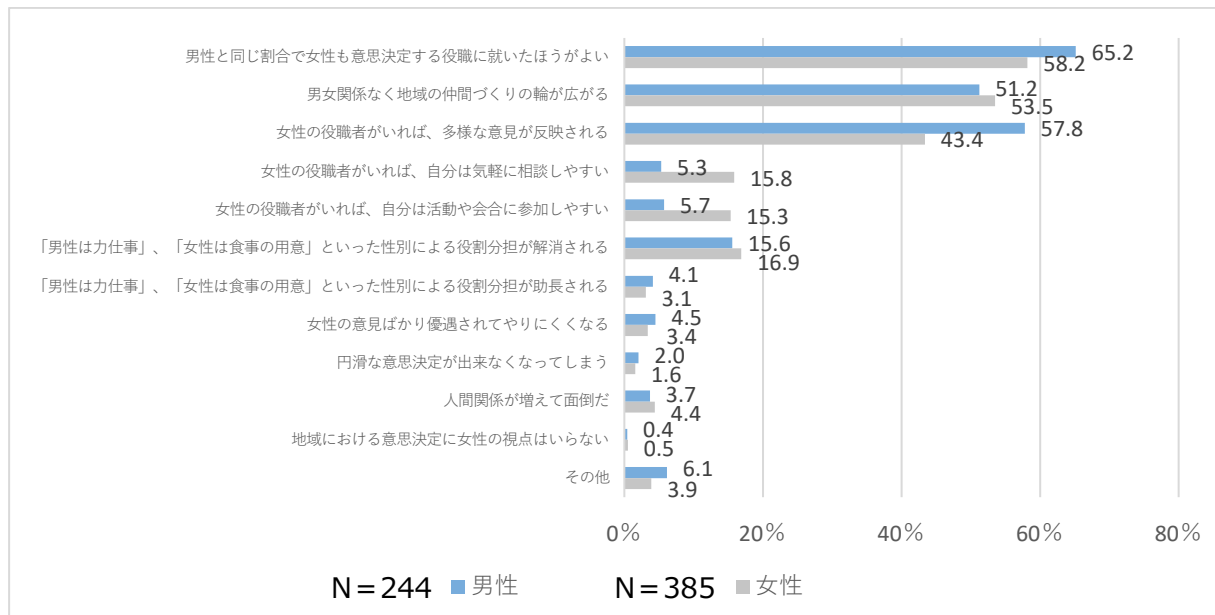
設問文：地域において、女性が意思決定する役職（PTA 会長や自治会長、市議会議員など）に就くことについて、あなたはどのように思いますか。（3つまで選択）

【問 11・全体集計】



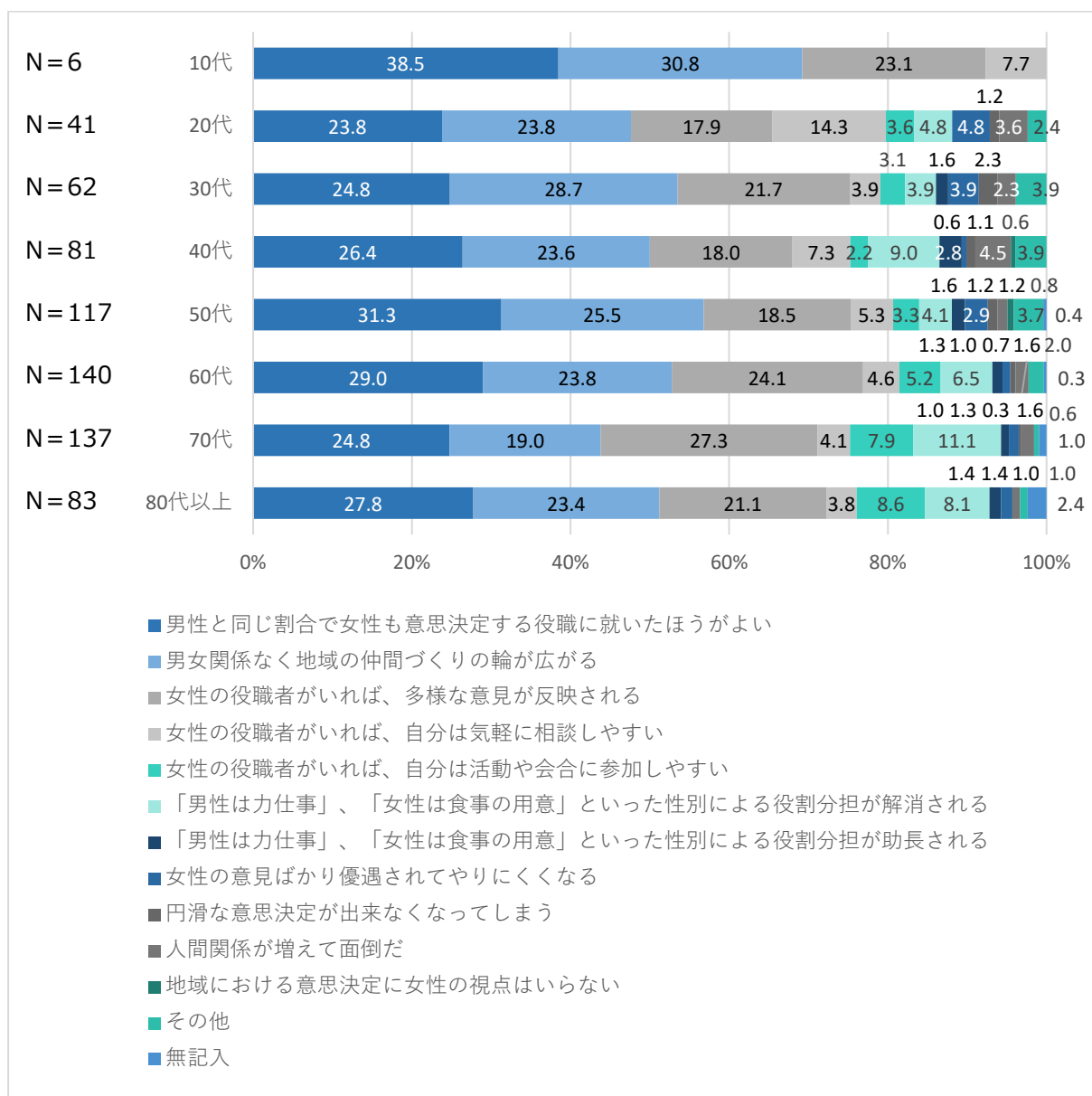
「男性と同じ割合で女性も意思決定する役職についたほうがよい」の 60.2%が最も高く、次に「男女関係なく地域の仲間づくりの輪が広がる」の 52.0%、「女性の役職者がいれば、多様な意見が反映される」の 48.5%の順に選択率が高くなっています。

【問 11・性別集計】



男女ともに「男性と同じ割合で女性も意思決定する役職についたほうがよい」が最も高く、男性は 65.2%、女性は 58.2%となっています。

【問 11・年代別集計】

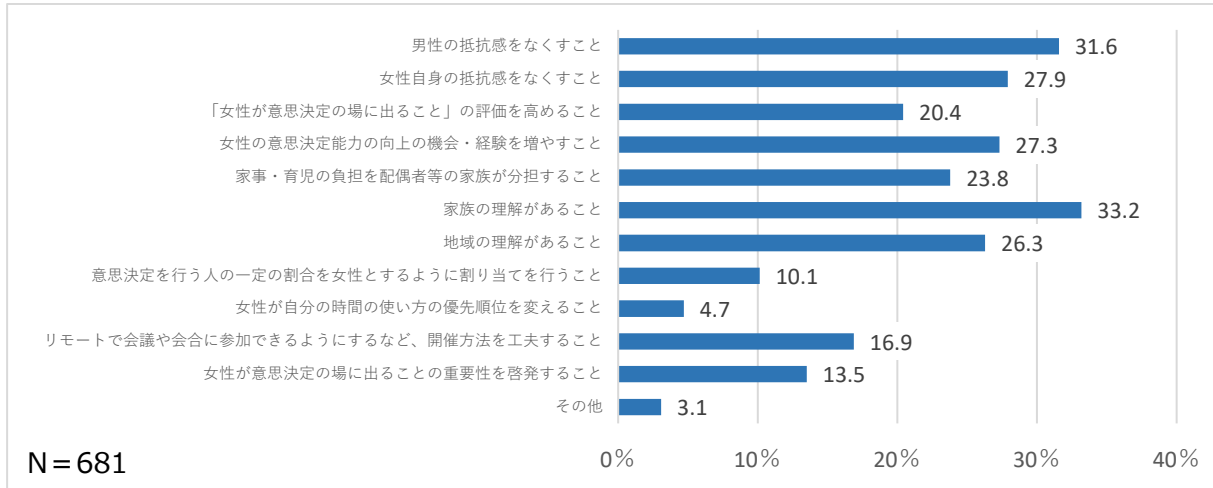


- ・ 10代、40～60代及び80代以上では、「男性と同じ割合で女性も意思決定する役職に就いたほうがよい」の割合が最も高く、10代で38.5%、40代で26.4%、50代で31.3%、60代で29.0%、80代以上で27.8%を占めています。
- ・ 20代では、「男性と同じ割合で女性も意思決定する役職に就いたほうがよい」及び「男女関係なく地域の仲間づくりの輪が広がる」の割合が最も高く、それぞれ23.8%を占めています。
- ・ 30代では、「男女関係なく地域の仲間づくりの輪が広がる」の割合が最も高く、28.7%を占めています。
- ・ 70代では、「女性の役職者がいれば、多様な意見が反映される」の割合が最も高く、27.3%を占めています。

問 12 地域で女性の意思決定する役職就任を推進するために必要なこと

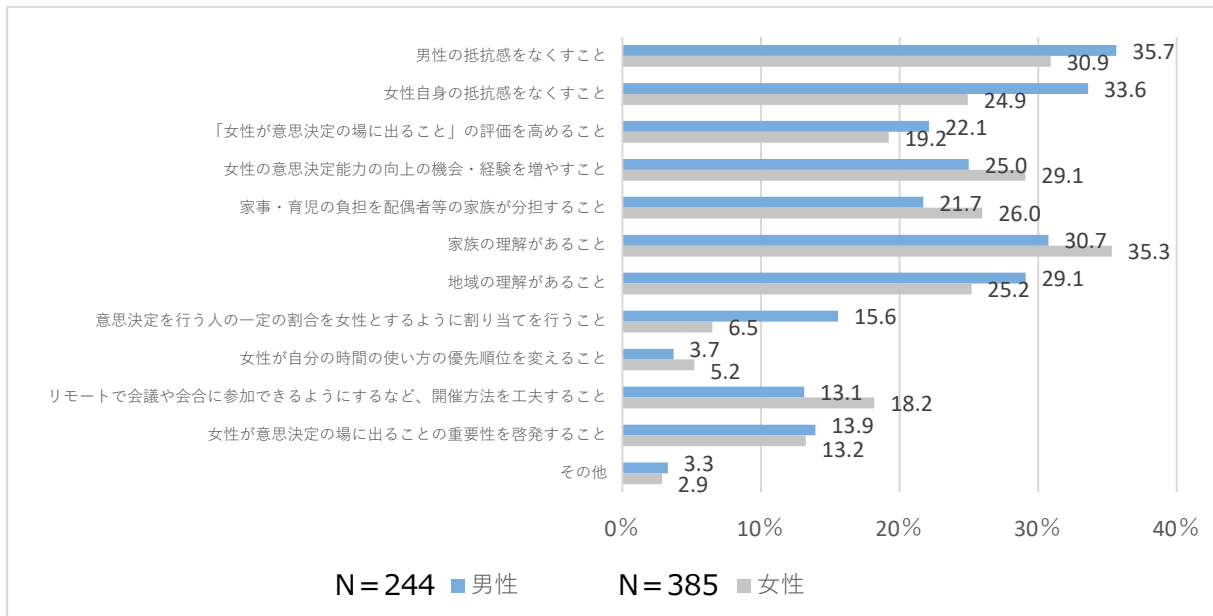
設問文：地域において、女性が意思決定する役職（PTA 会長や自治会長、市議会議員など）に就く割合は少ない状況にありますが、推進するためには何が必要だと思いますか。（3つまで選択）

【問 12・全体集計】



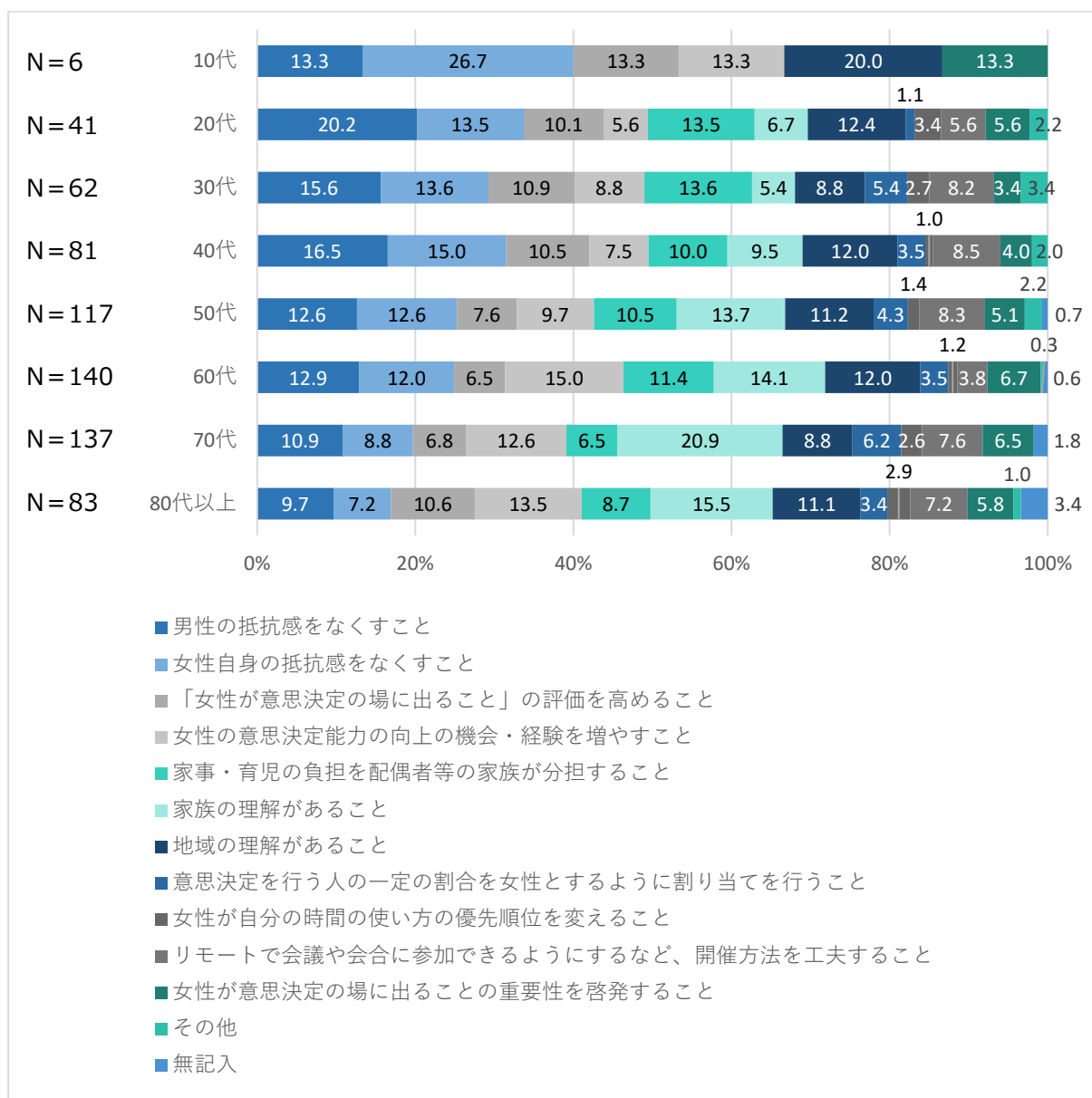
「家族の理解があること」の 33.2% が最も高く、次に「男性の抵抗感をなくすこと」の 31.6%、「女性自身の抵抗感をなくすこと」の 27.9% の順に選択率が高くなっています。

【問 12・性別集計】



男性は、「男性の抵抗感をなくすこと」の 35.7%、女性は、「家族の理解があること」の 35.3% が最も高くなっています。

【問 12・年代別集計】

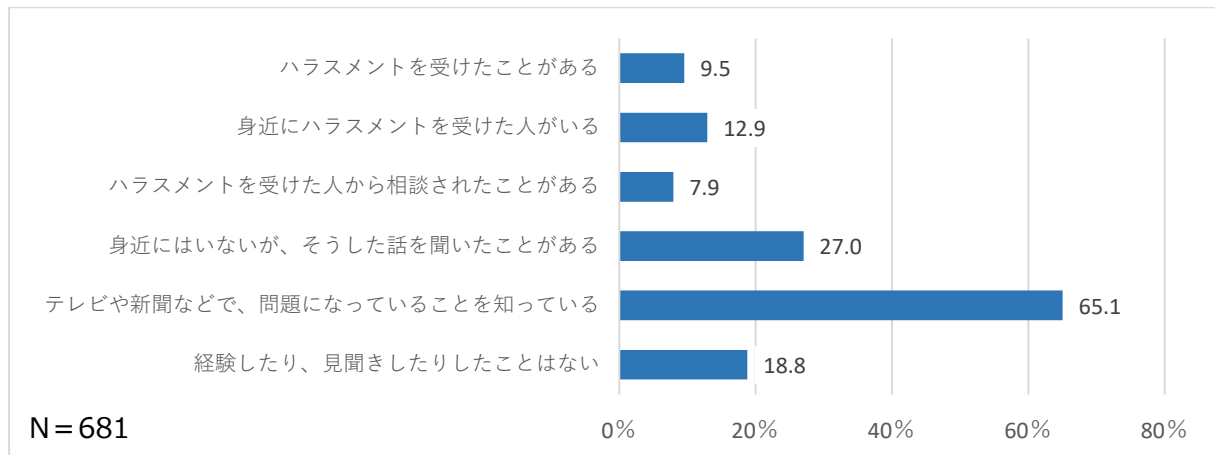


- ・ 10代では、「女性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高く、26.7%を占めています。
- ・ 20代～40代では、「男性の抵抗感をなくすこと」の割合が最も高く、20代で20.2%、30代で15.6%、40代で16.5%を占めています。
- ・ 50代及び70代以上の年代では、「家族の理解があること」の割合が最も高く、50代で13.7%、70代で20.9%、80代で15.5%を占めています。
- ・ 60代では、「女性の意思決定能力の向上の機会・経験を増やすこと」の割合が最も高く、15.0%を占めています。

問 13 過去1年間の各種ハラスメントの経験・見聞き

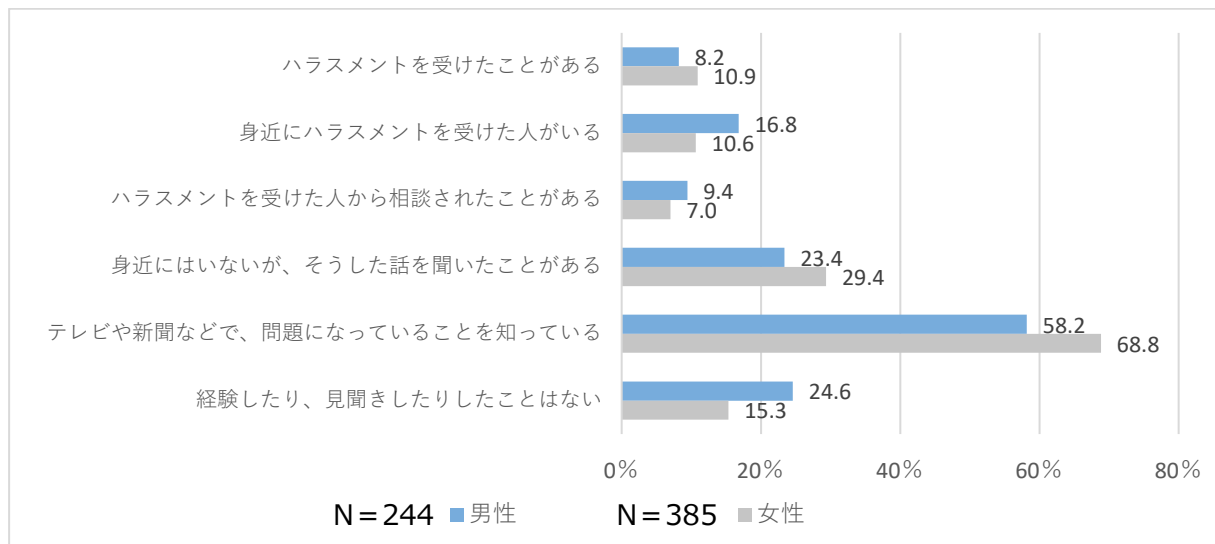
設問文：過去1年間に、セクシュアル・ハラスメント（職場や学校などで、望まない性的な言動により不快感や不利益を被ること）、マタニティ・ハラスメント（職場などでの対応により、妊婦が不快感や不利益を被ること）、ジェンダー・ハラスメント（性別に関して役割等を強要され不快感や不利益を被ること）について、3つのうち、いずれか1つでも経験したり見聞きしたりしたことはありますか。
（あてはまるもの全て選択）

【問 13・全体集計】



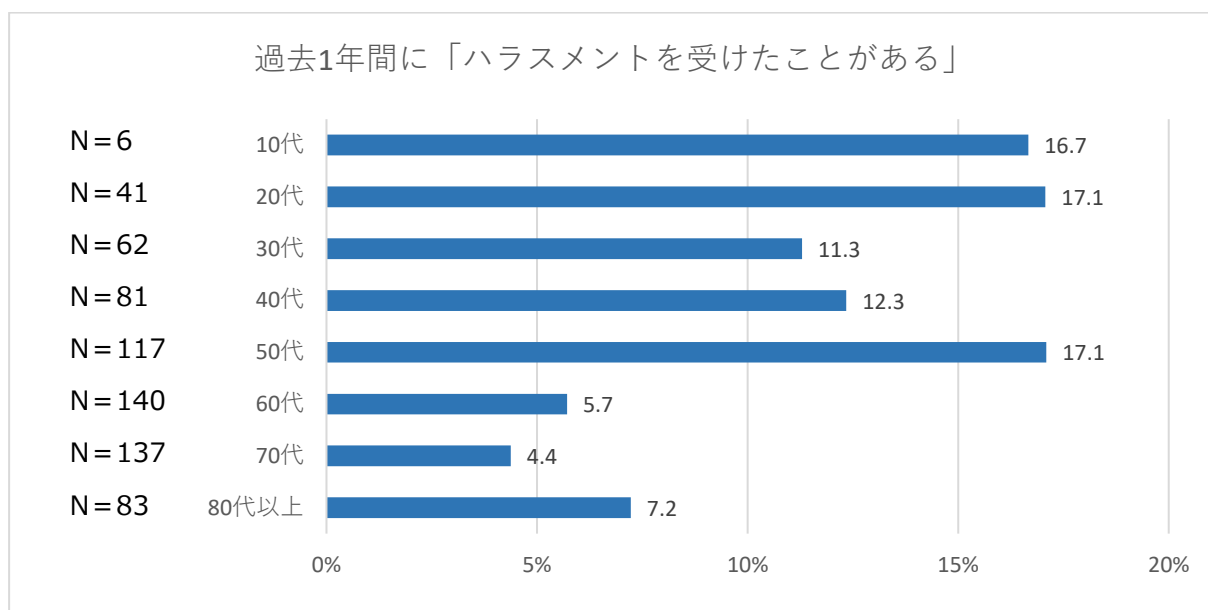
過去1年間に「ハラスメントを受けたことがある」の割合は、9.5%となっています。

【問 13・性別集計】



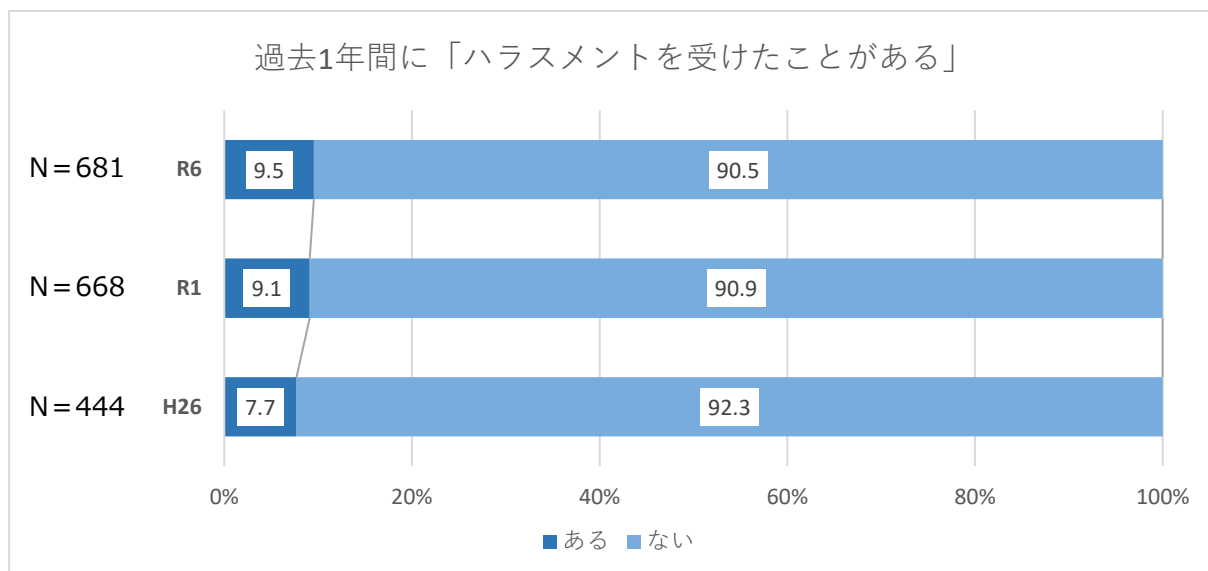
過去1年間に「ハラスメントを受けたことがある」の割合は、男性が8.2%、女性が10.9%となっています。

【問 13・年代別集計】



過去1年間に「ハラスメントを受けたことがある」の割合は、10代～50代において、全体平均の9.5%を超えており、20代及び50代の17.1%が最も高くなっています。

【問 13・経年比較】

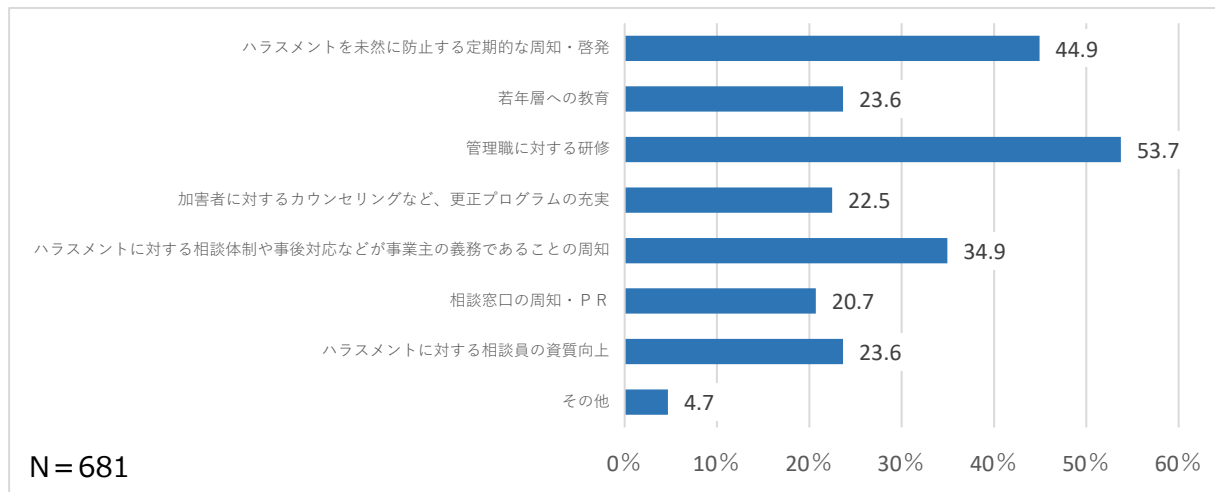


過去1年間に「ハラスメントを受けたことがある」の割合は、前回調査の令和元年度で9.1%に対し、令和6年度は9.5%であり、0.4ポイント高くなっています。

問 14 各種ハラスメントを防止するために必要なこと

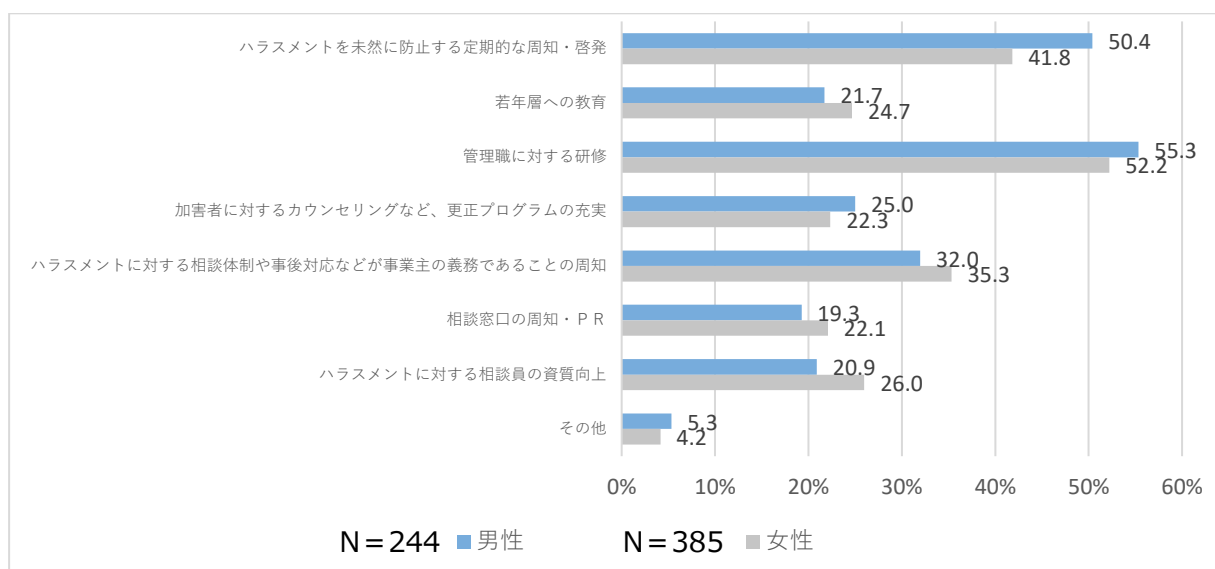
設問文：セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、ジェンダー・ハラスメントを防止するために、必要なことは何だと思えますか。(3つまで選択)

【問 14・全体集計】



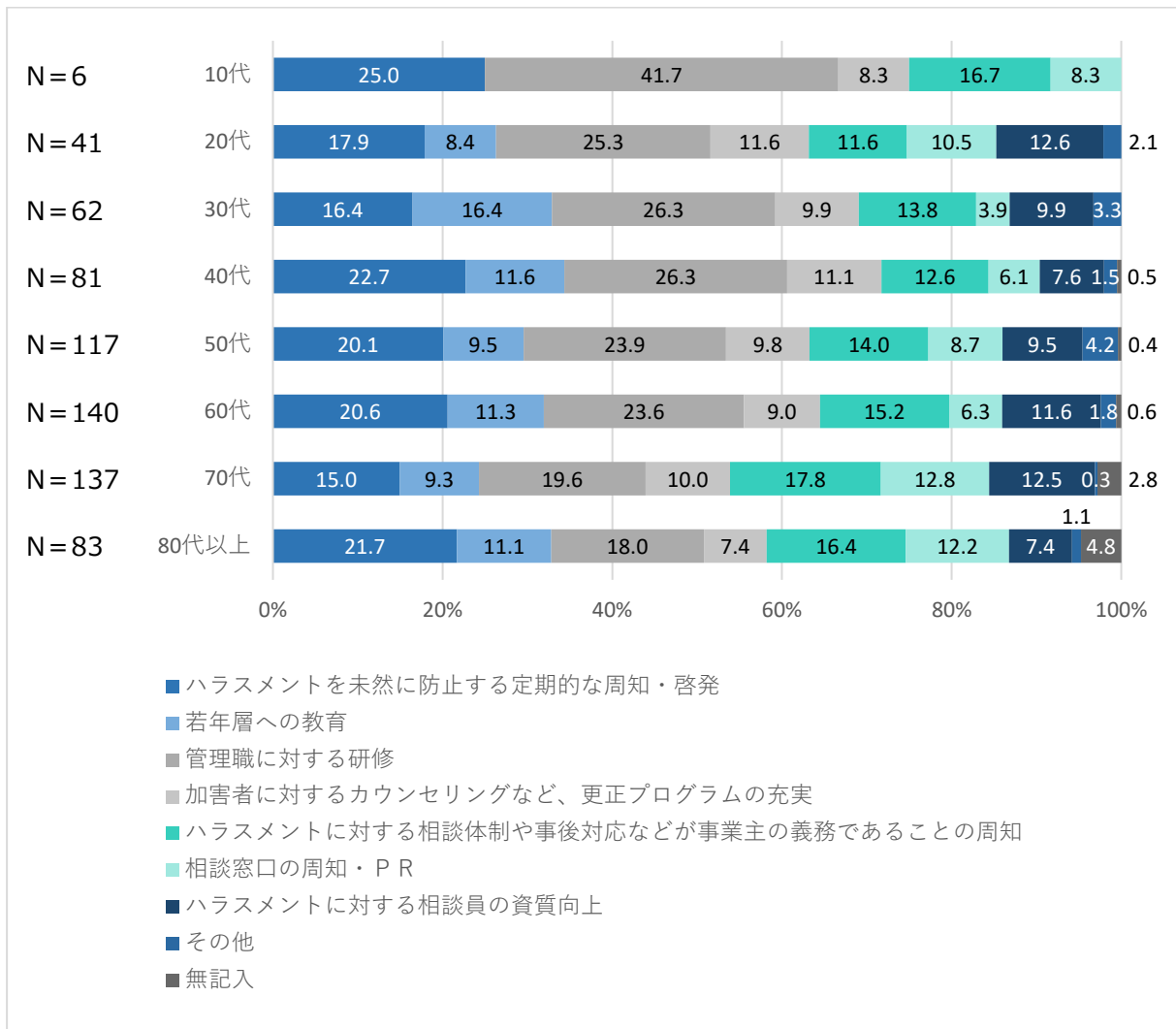
「管理職に対する研修」の 53.7%が最も高く、次に「ハラスメントを未然に防止する定期的な周知・啓発」の 44.9%、「ハラスメントに対する相談体制や事後対応などが事業主の義務であることの周知」の 34.9%の順に選択率が高くなっています。

【問 14・性別集計】



男女ともに「管理職に対する研修」が最も高く、男性は 55.3%、女性は 52.2%となっています。

【問 14・年代別集計】

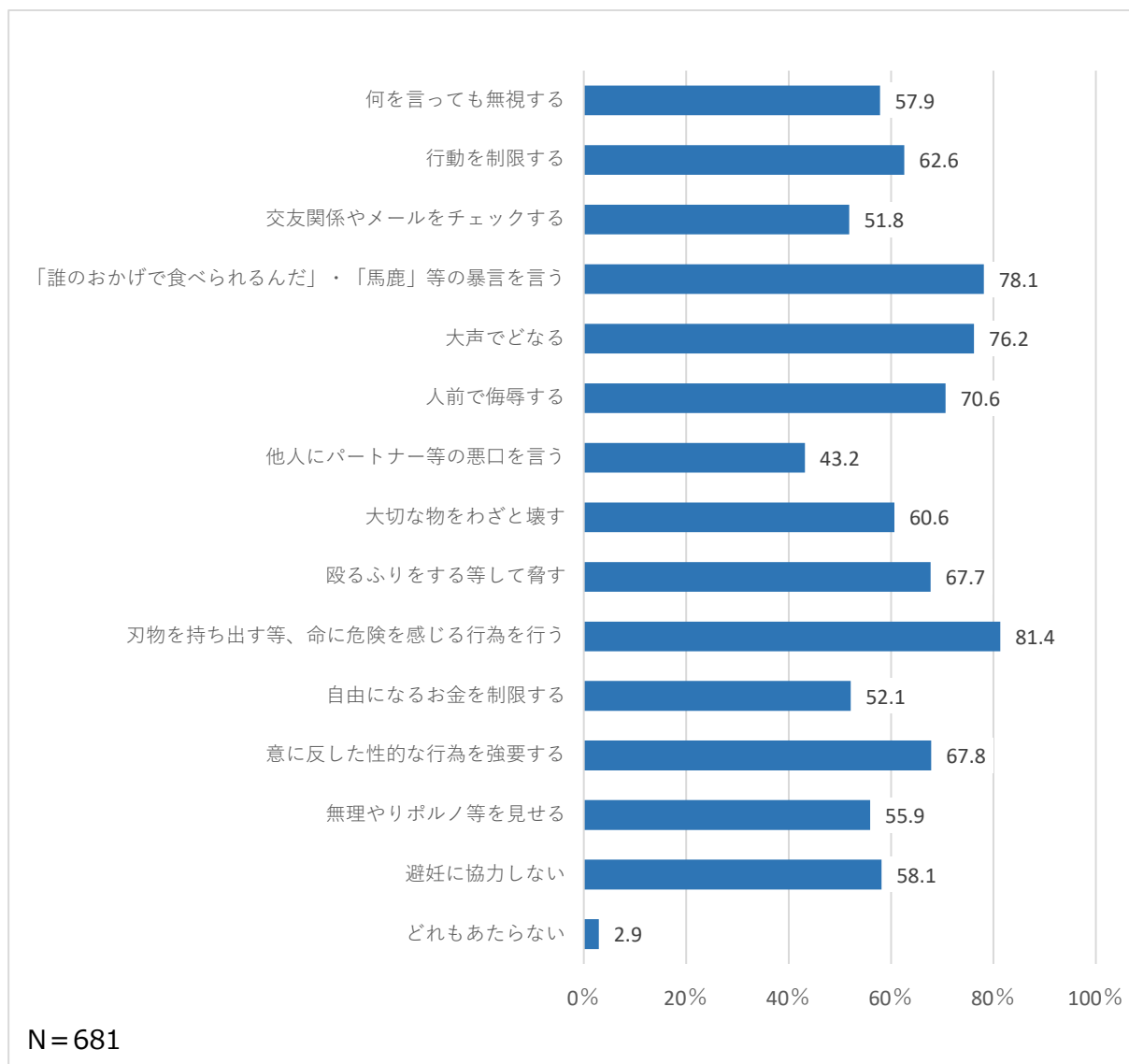


- ・ 10代～70代では、「管理職に対する研修」の割合が最も高く、10代で41.7%、20代で25.3%、30代で26.3%、40代で26.3%、50代で23.9%、60代で23.6%、70代で19.6%を占めています。
- ・ 80代以上では、「ハラスメントを未然に防止する定期的な周知・啓発」の割合が最も高く、21.7%を占めています。

問 15 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

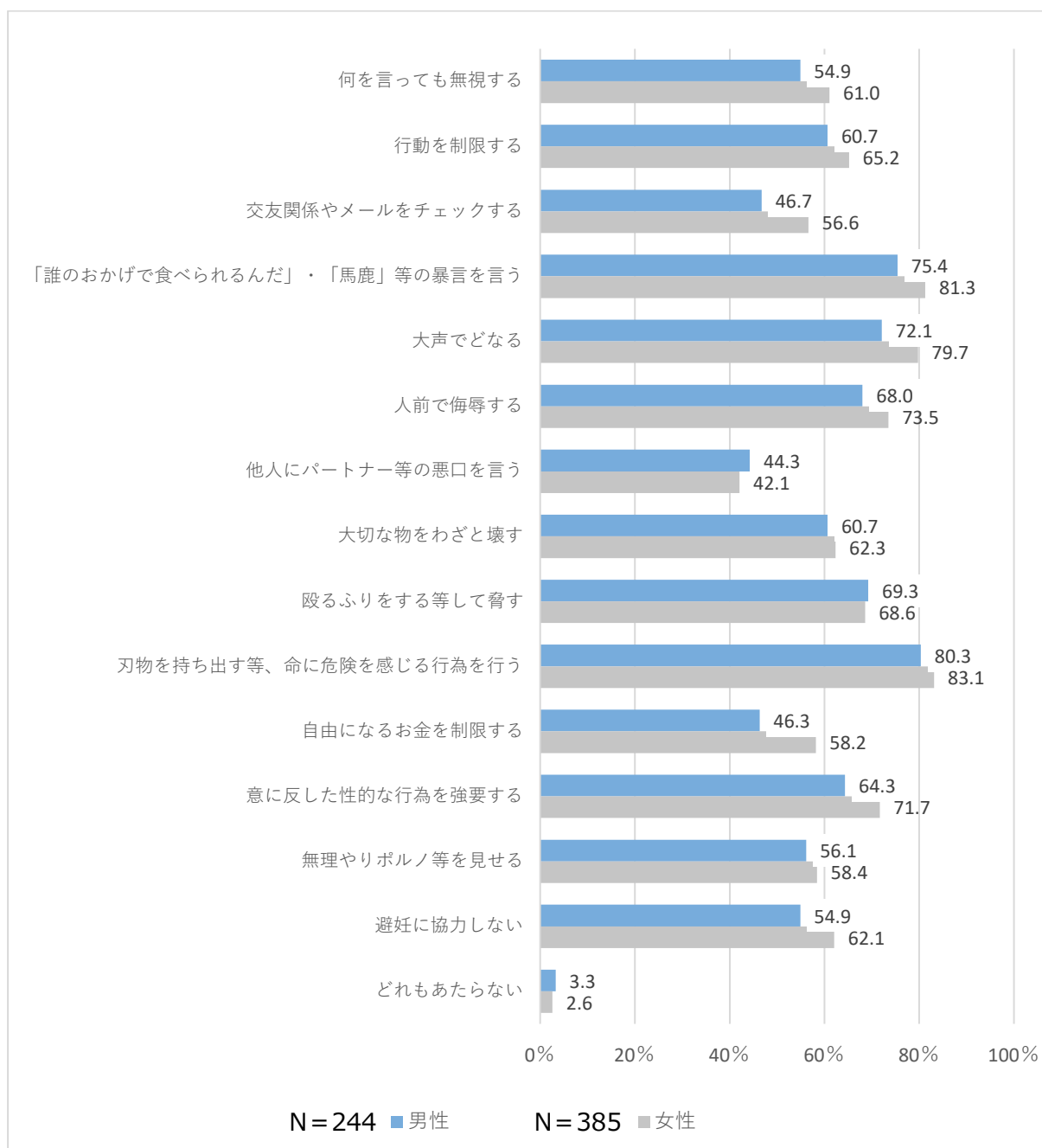
設問文：ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人など親しい間柄にあるパートナー間の暴力。以下、「DV」という）について、あなたがDVだと思う行為は次のうちのどれですか。（あてはまるもの全て選択）

【問 15・全体集計】



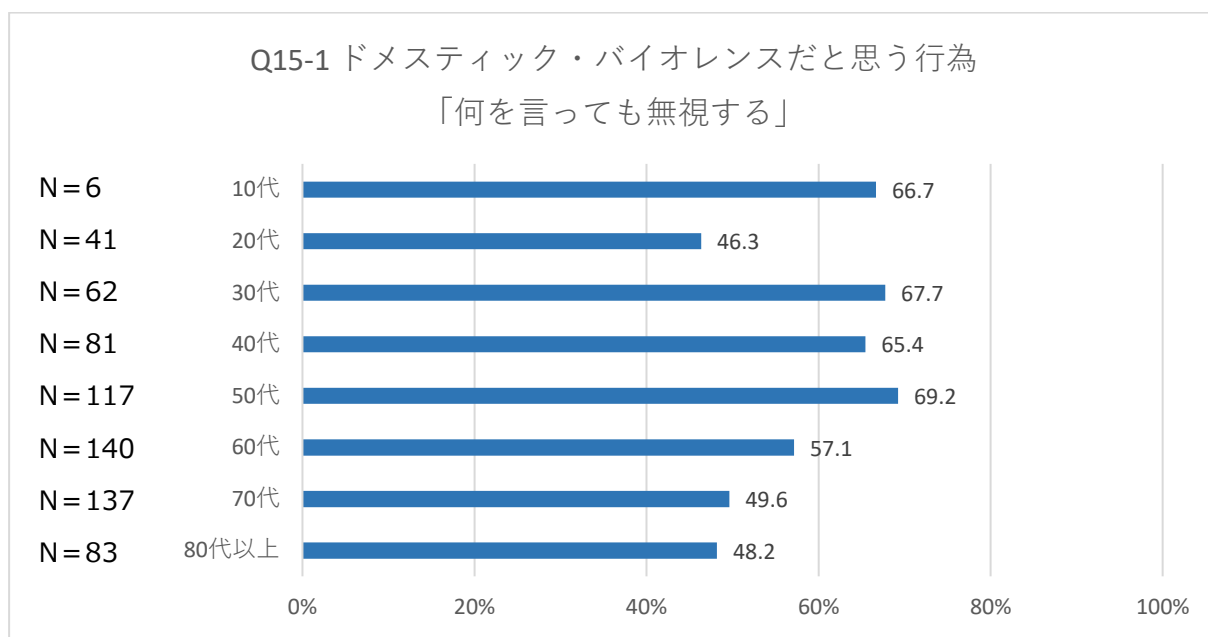
選択肢はいずれもDVにあたる行為ですが、DVにあたる行為として認識している割合は、「他人にパートナー等の悪口を言う」の43.2%が最も低く、次に「交友関係やメールをチェックする」の51.8%、「自由になるお金を制限する」の52.1%の順に低くなっています。

【問 15・性別集計】

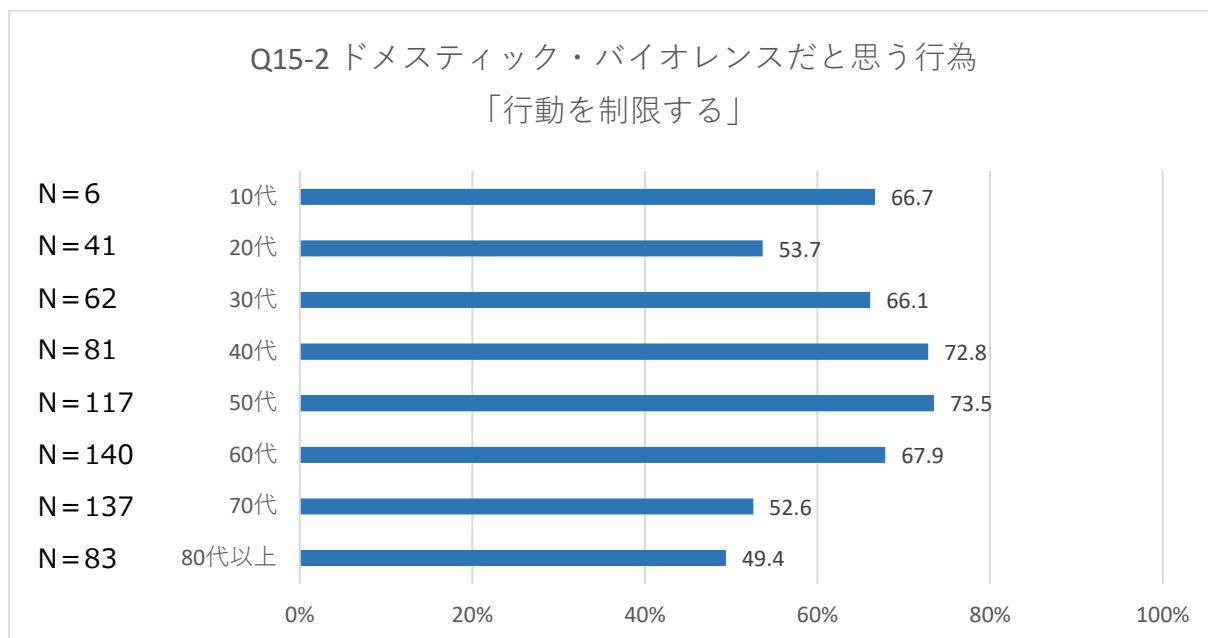


男女ともに「他人にパートナー等の悪口を言う」をDVにあたる行為として認識している割合が最も低く、男性は44.3%、女性は42.1%となっています。

【問 15-1~14・年代別集計】

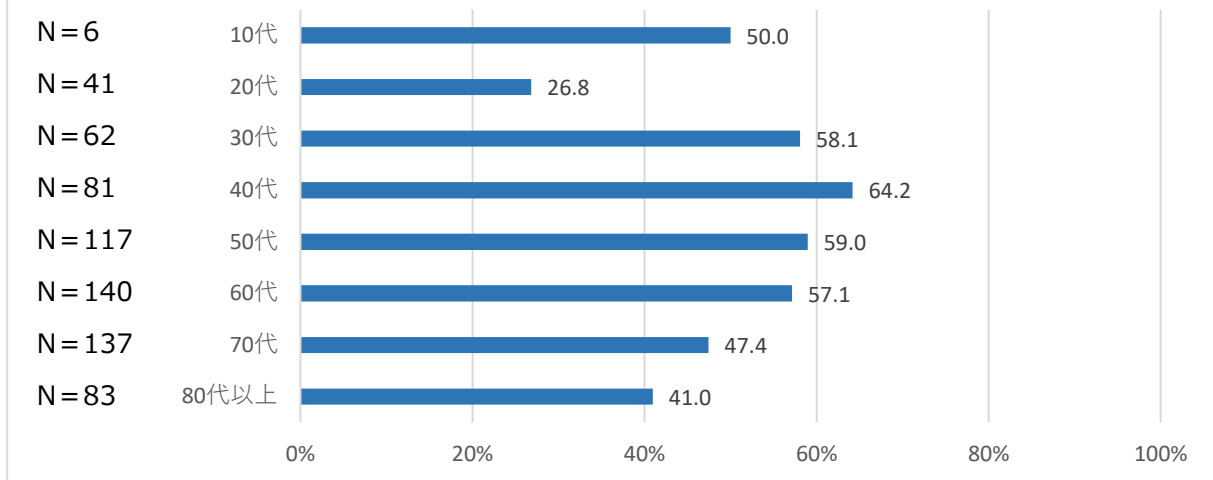


「何を言っても無視する」をDVにあたる行為だと認識している割合は、50代が69.2%で最も高く、20代が46.3%で最も低くなっています。



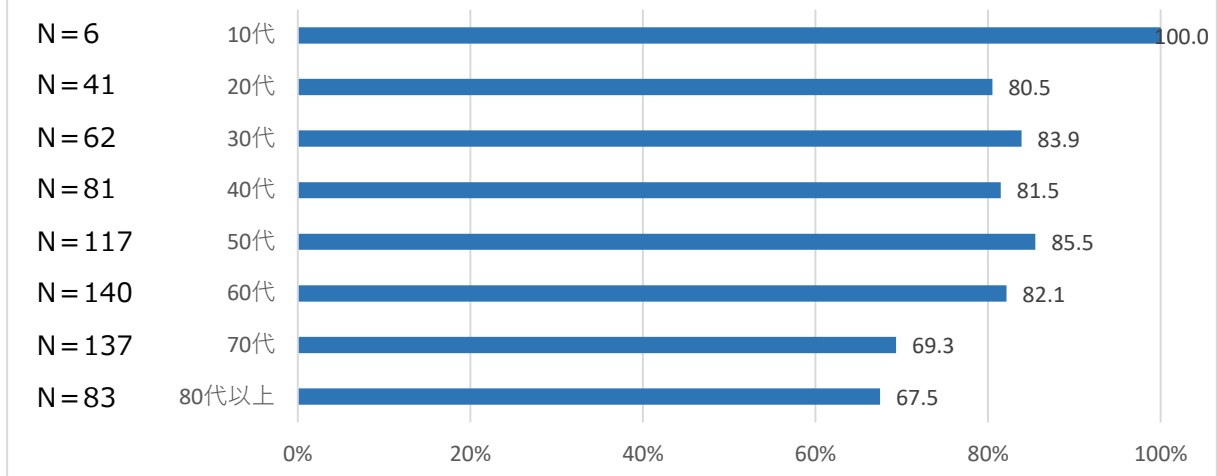
「行動を制限する」をDVにあたる行為だと認識している割合は、50代が73.5%で最も高く、80代以上が49.4%で最も低くなっています。

Q15-3 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「交友関係やメールをチェックする」



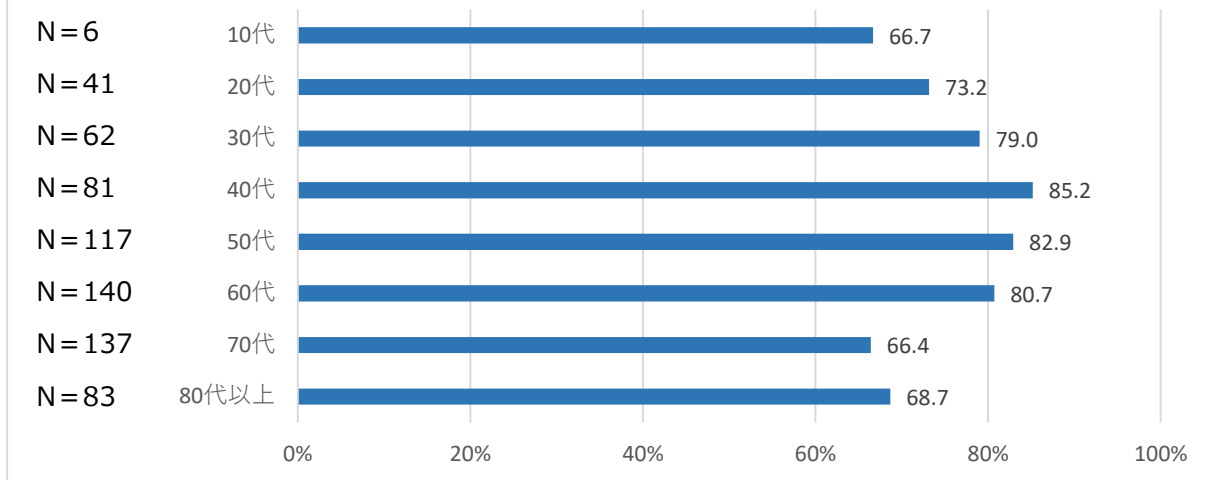
「交友関係やメールをチェックする」を DV にあたる行為だと認識している割合は、40代が64.2%で最も高く、20代が26.8%で最も低くなっています。

Q15-4 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う



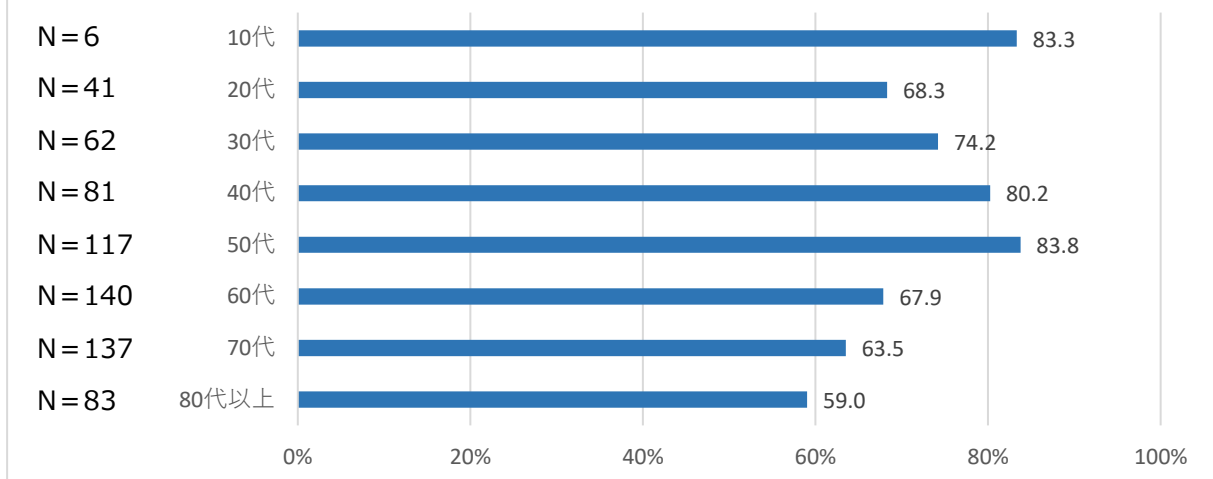
「『誰のおかげで食べられるんだ』・『馬鹿』等の暴言を言う」を DV にあたる行為だと認識している割合は、10代が100.0%で最も高く、80代以上が67.5%で最も低くなっています。

Q15-5 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「大声でどなる」



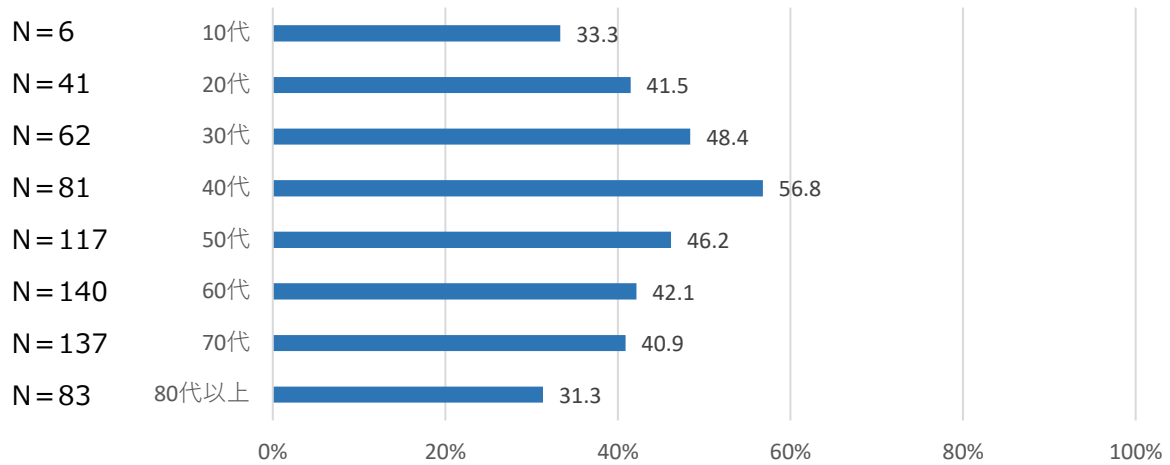
「大声でどなる」をDVにあたる行為だと認識している割合は、40代が85.2%で最も高く、70代が66.4%で最も低くなっています。

Q15-6 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「人前で侮辱する」



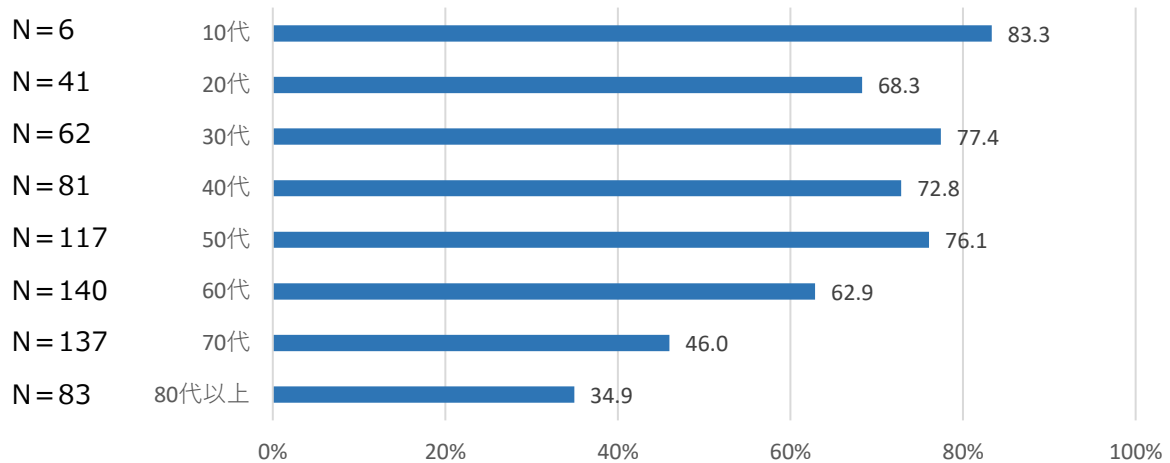
「人前で侮辱する」をDVにあたる行為だと認識している割合は、50代が83.8%で最も高く、80代以上が59.0%で最も低くなっています。

Q15-7 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「他人にパートナー等の悪口を言う」



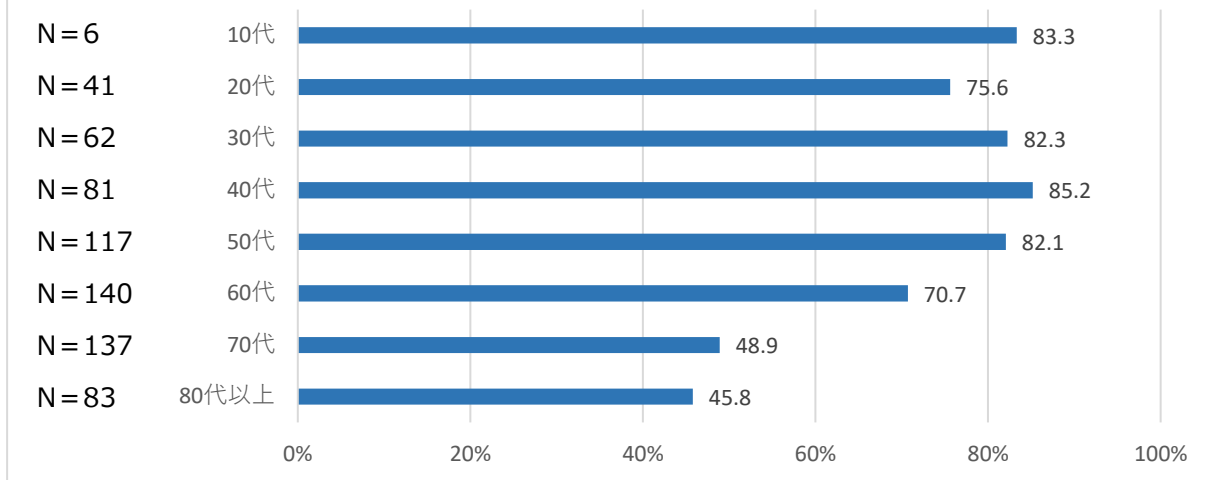
「他人にパートナー等の悪口を言う」を DV にあたる行為だと認識している割合は、40 代が 56.8%で最も高く、80 代以上が 31.3%で最も低くなっています。

Q15-8 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「大切な物をわざと壊す」



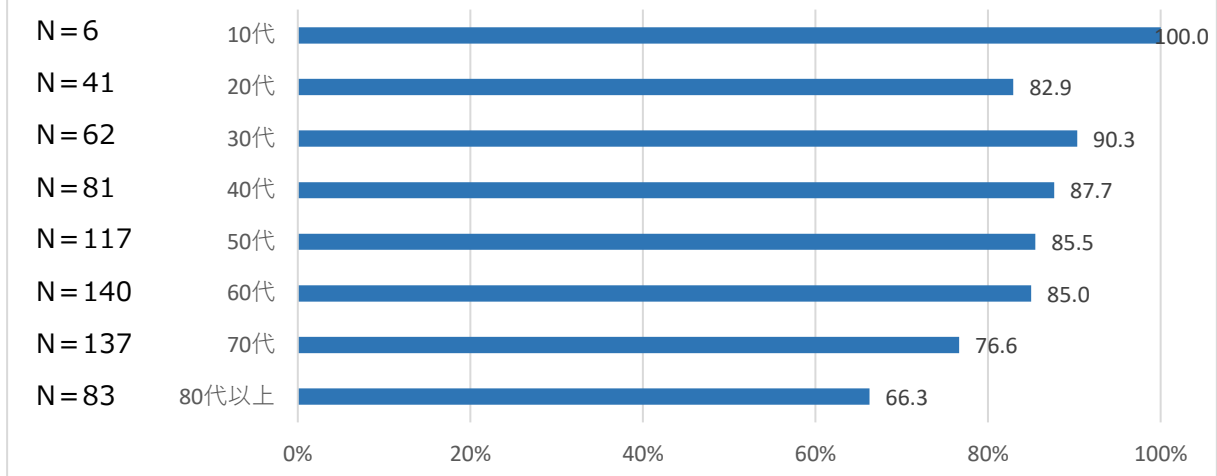
「大切な物をわざと壊す」を DV にあたる行為だと認識している割合は、10 代が 83.3%で最も高く、80 代以上が 34.9%で最も低くなっています。

Q15-9 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「殴るふりをする等して脅す」



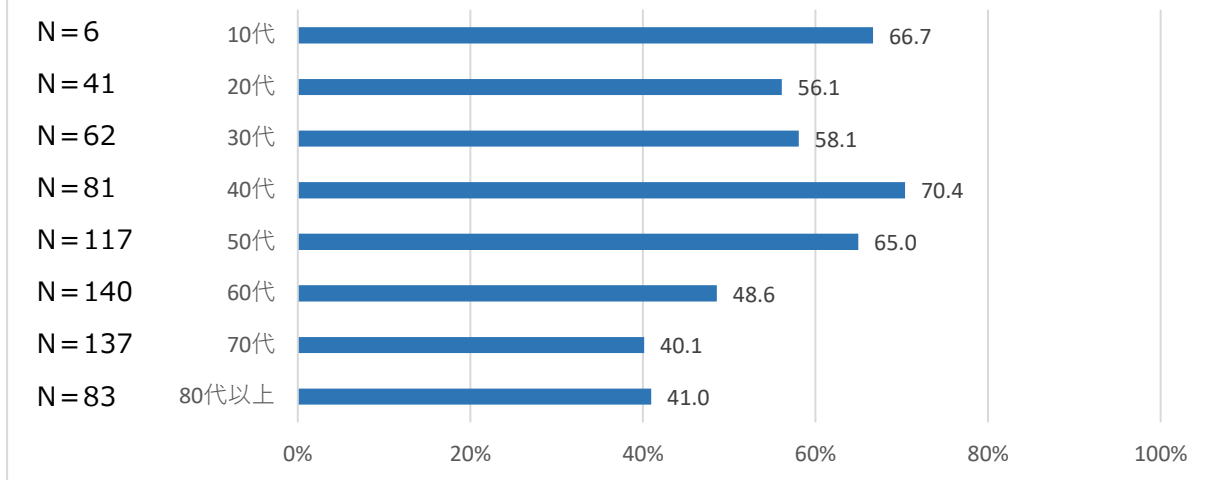
「殴るふりをする等して脅す」を DV にあたる行為だと認識している割合は、40代が85.2%で最も高く、80代以上が45.8%で最も低くなっています。

Q15-10 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」



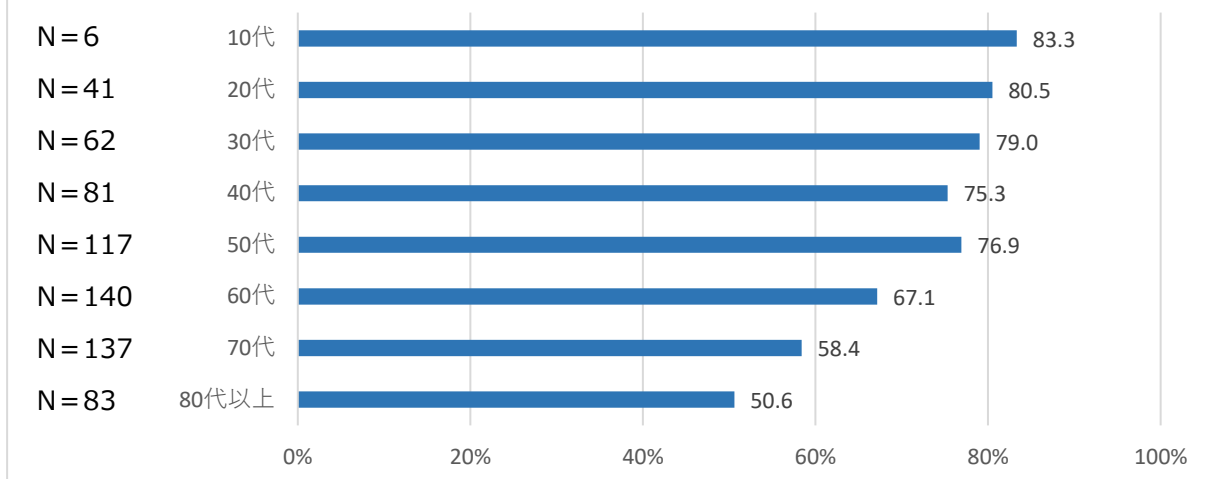
「刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」を DV にあたる行為だと認識している割合は、10代が100.0%で最も高く、80代以上が66.3%で最も低くなっています。

Q15-11 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「自由になるお金を制限する」



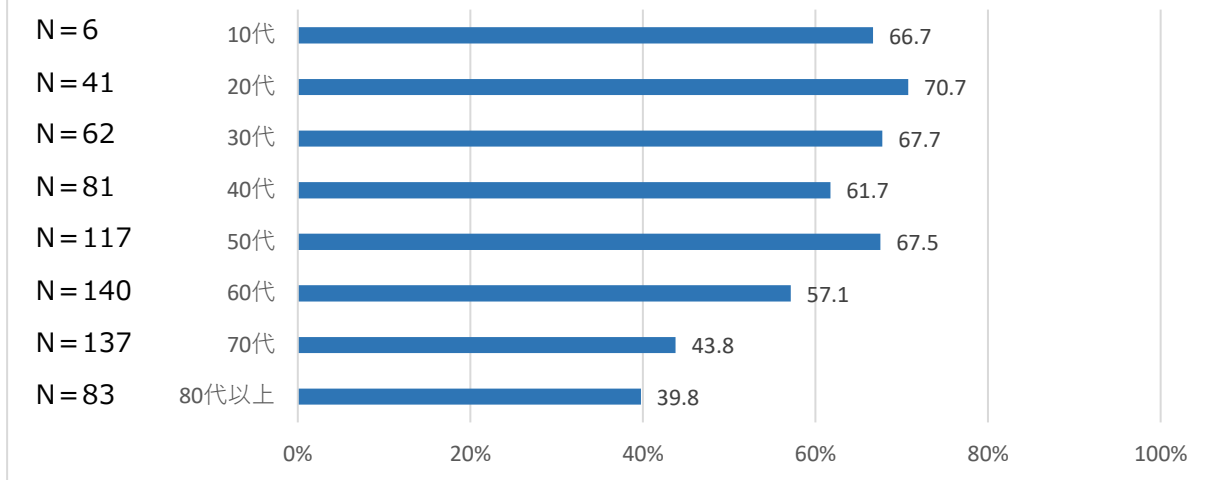
「自由になるお金を制限する」を DV にあたる行為だと認識している割合は、40代が70.4%で最も高く、70代が40.1%で最も低くなっています。

Q15-12 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「意に反した性的な行為を強要する」



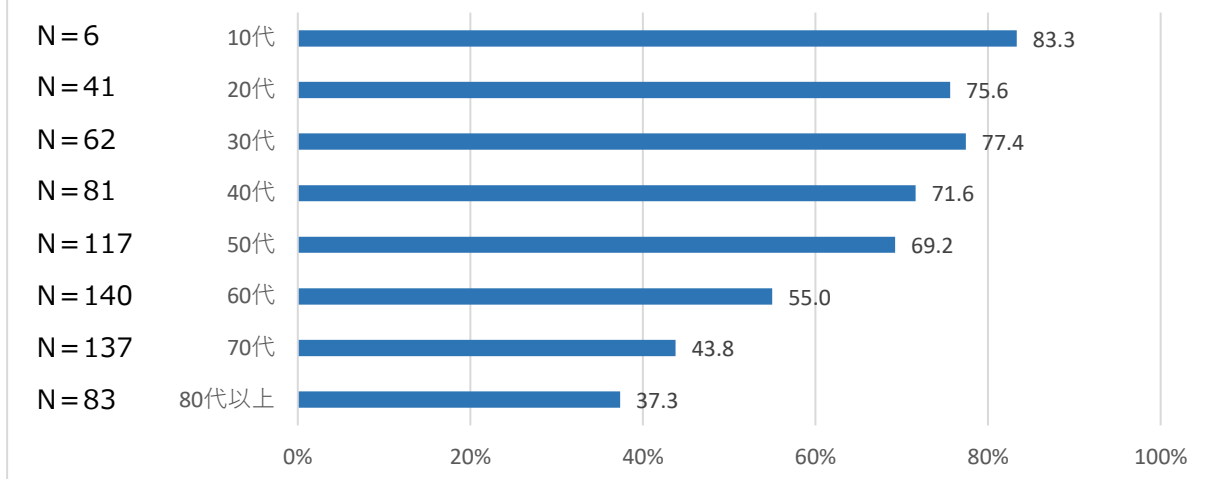
「意に反した性的な行為を強要する」を DV にあたる行為だと認識している割合は、10代が83.3%で最も高く、80代以上が50.6%で最も低くなっています。

Q15-13 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「無理やりポルノ等を見せる」



「無理やりポルノ等を見せる」をDVにあたる行為だと認識している割合は、20代が70.7%で最も高く、80代以上が39.8%で最も低くなっています。

Q15-14 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為
「避妊に協力しない」

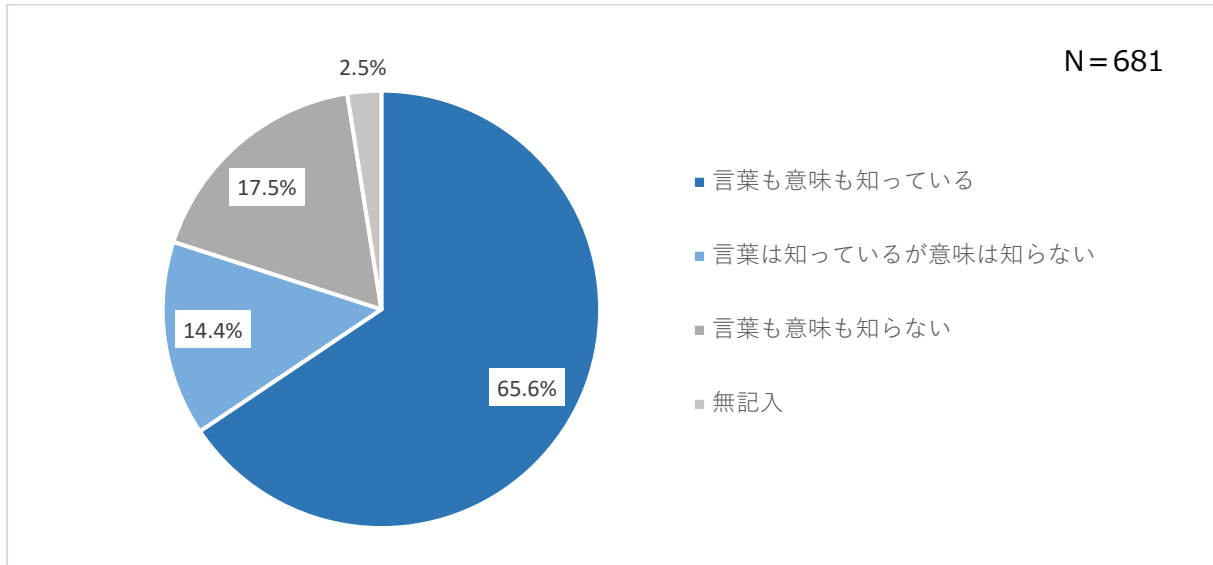


「避妊に協力しない」をDVにあたる行為だと認識している割合は、10代が83.3%で最も高く、80代以上が37.3%で最も低くなっています。

問 16 「LGBTQ」の用語の理解

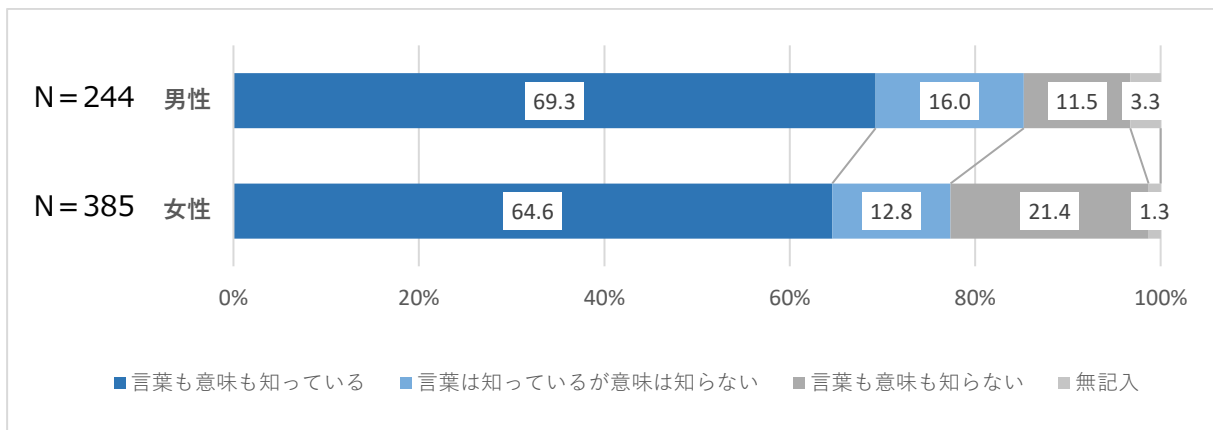
設問文：性の多様性について、あなたは「LGBTQ（性的少数者の総称の一つ）」という言葉を知っていますか。（1つ選択）

【問 16・全体集計】



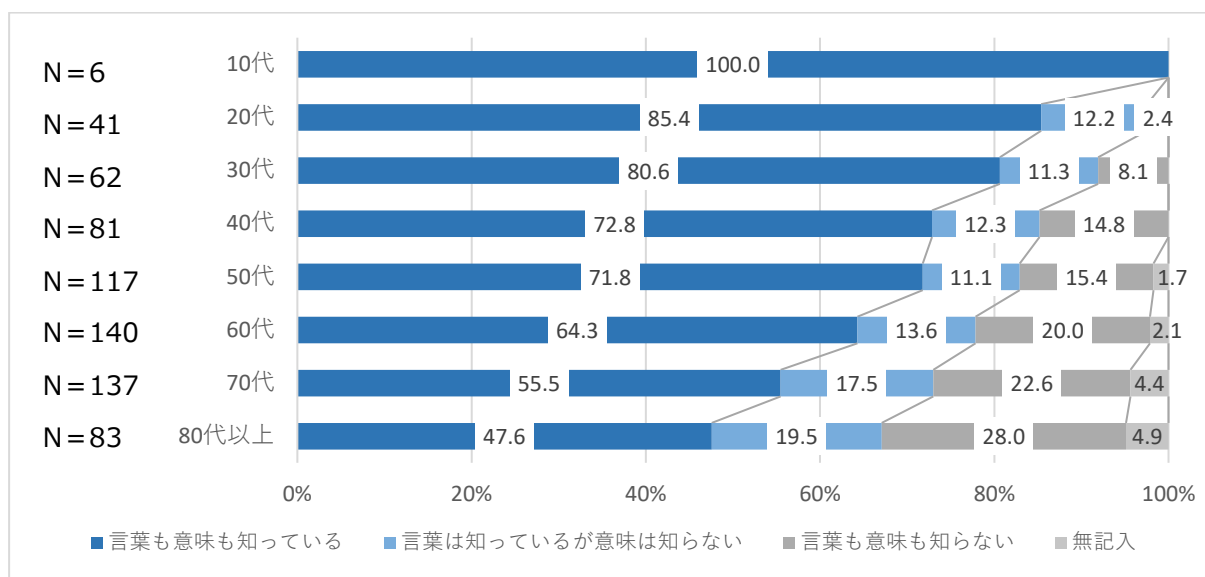
「言葉も意味も知っている」割合は、65.6%で過半数を占めています。「言葉を知っているが意味は知らない」の14.4%と合わせると、市民の80.0%が「LGBTQ」の言葉を知っているという結果になりました。

【問 16・性別集計】



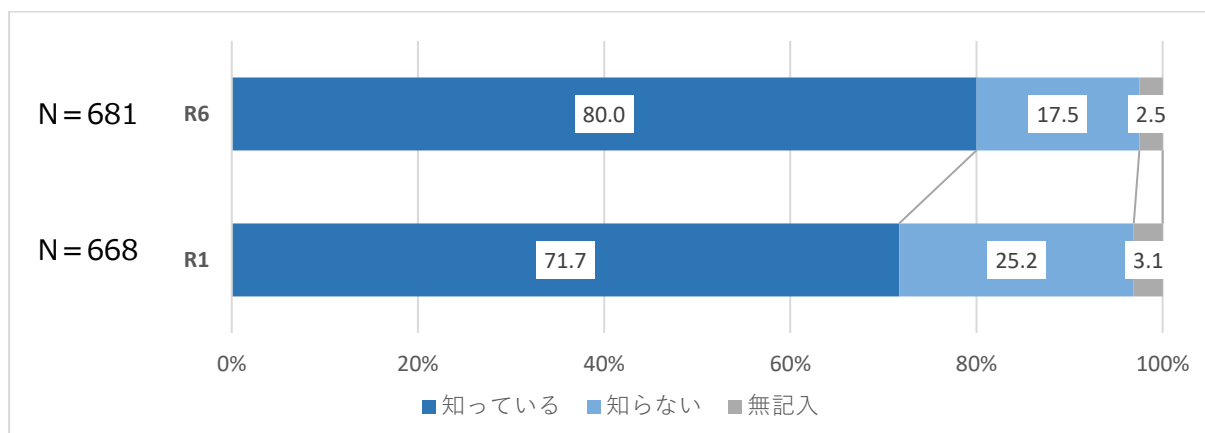
「言葉も意味も知っている」と「言葉を知っているが意味は知らない」の割合の合計は、男性85.3%に対し、女性77.4%で、男性の方が7.9ポイント高くなっています。

【問 16・年代別集計】



「言葉も意味も知っている」の割合は年代が高くなるにつれて、低くなる傾向にあり、10代の100.0%に対して、80代以上では47.6%となっています。

【問 16・経年比較】



※R1は「LGBT」、R6は「LGBTQ」の言葉の理解を問う設問になっています。

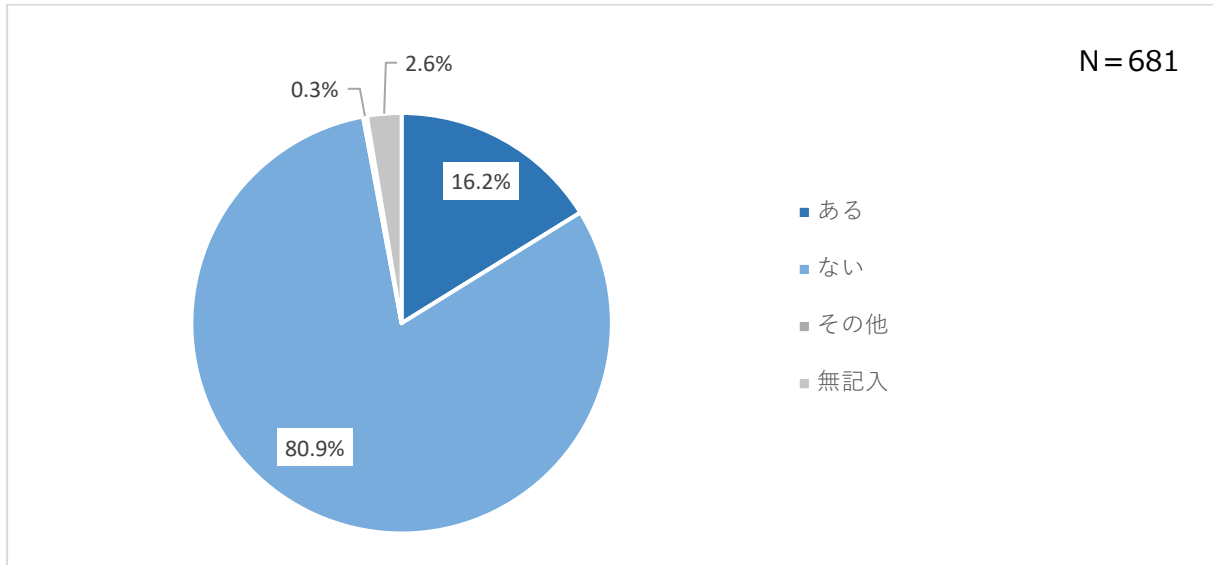
※R1では言葉の意味を問う選択肢がないため、R6の「言葉も意味も知っている」と「言葉を知っているが意味は知らない」の合計を「知っている」に換算して比較しています。

「知っている」の割合は、前回調査の令和元年度が71.7%に対し、令和6年度は80.0%であり、8.3ポイント高くなっています。

問 17 過去5年間のLGBTQに関するハラスメントの経験・見聞き

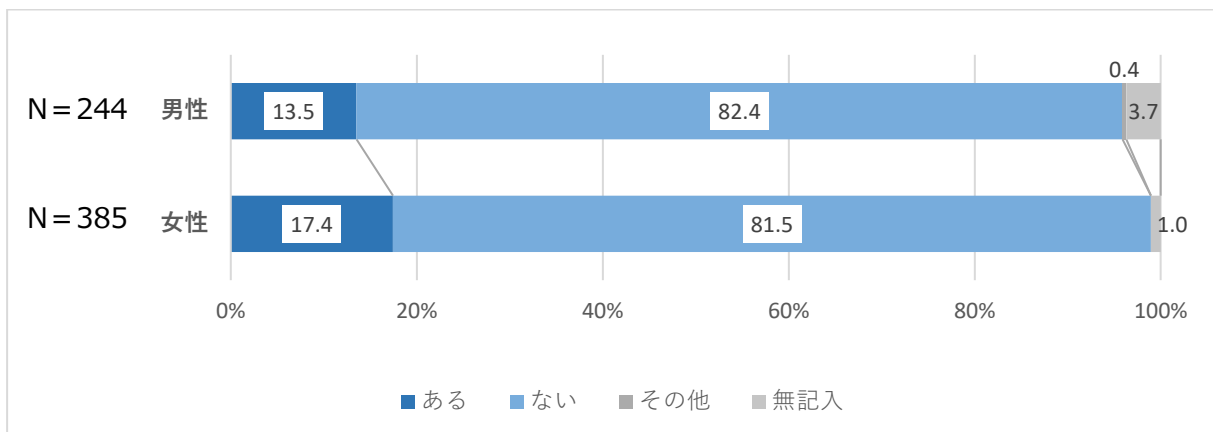
設問文：過去5年間にLGBTQに関するハラスメントを経験、または見聞きしたことはありますか。(1つ選択)

【問 17・全体集計】



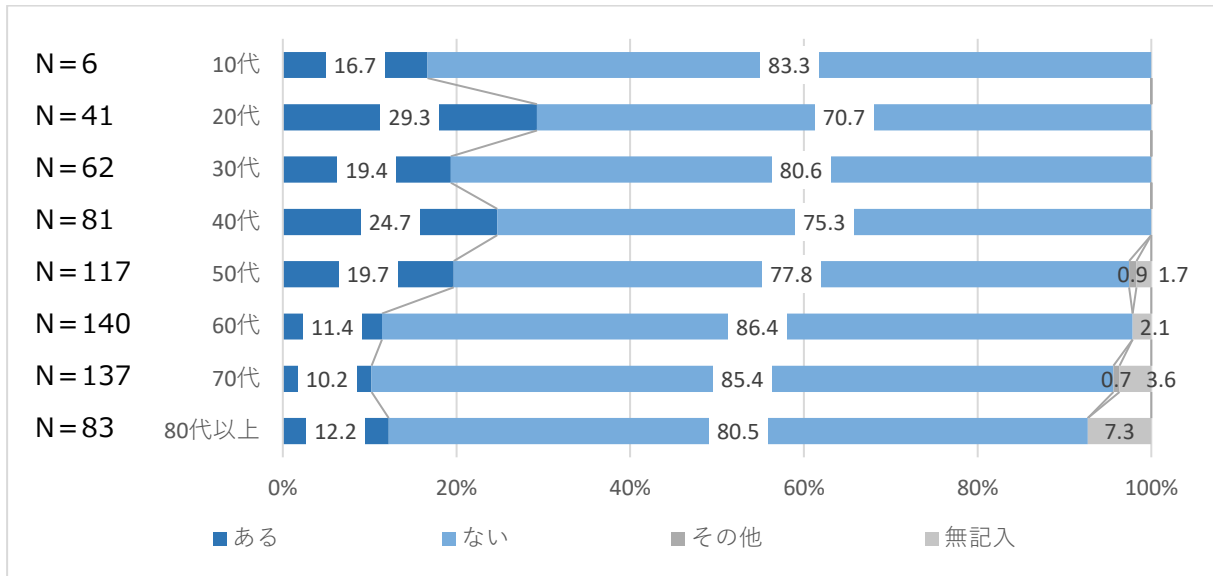
過去5年間にLGBTQに関するハラスメントを経験、または見聞きしたことが「ある」の割合は、16.2%となっています。

【問 17・性別集計】



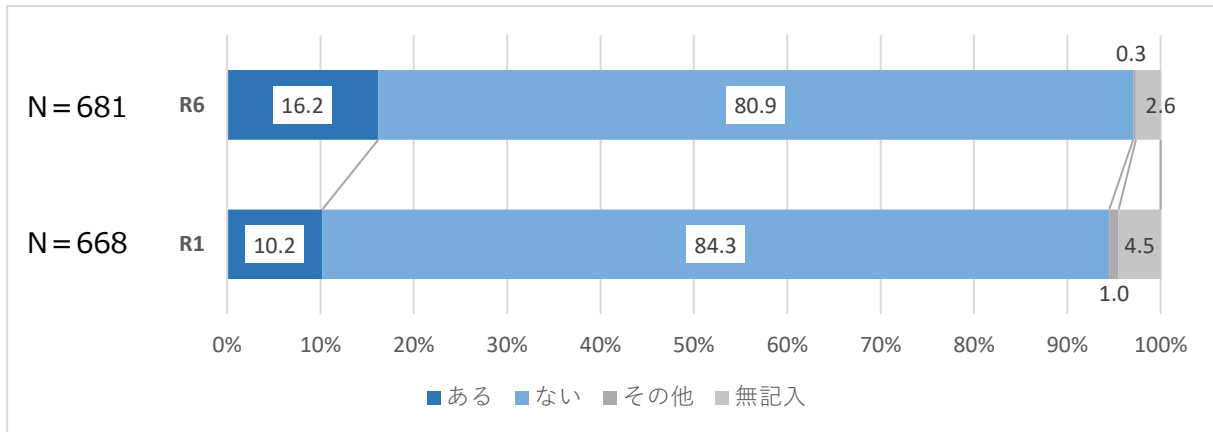
過去5年間にLGBTQに関するハラスメントを経験、または見聞きしたことが「ある」の割合は、男性13.5%に対し、女性17.4%で、女性の方が3.9ポイント高くなっています。

【問 17・年代別集計】



過去5年間にLGBTQに関するハラスメントを経験、または見聞きしたことが「ある」の割合は、20代が29.3%で最も高く、70代が10.2%で最も低くなっています。

【問 17・経年比較】

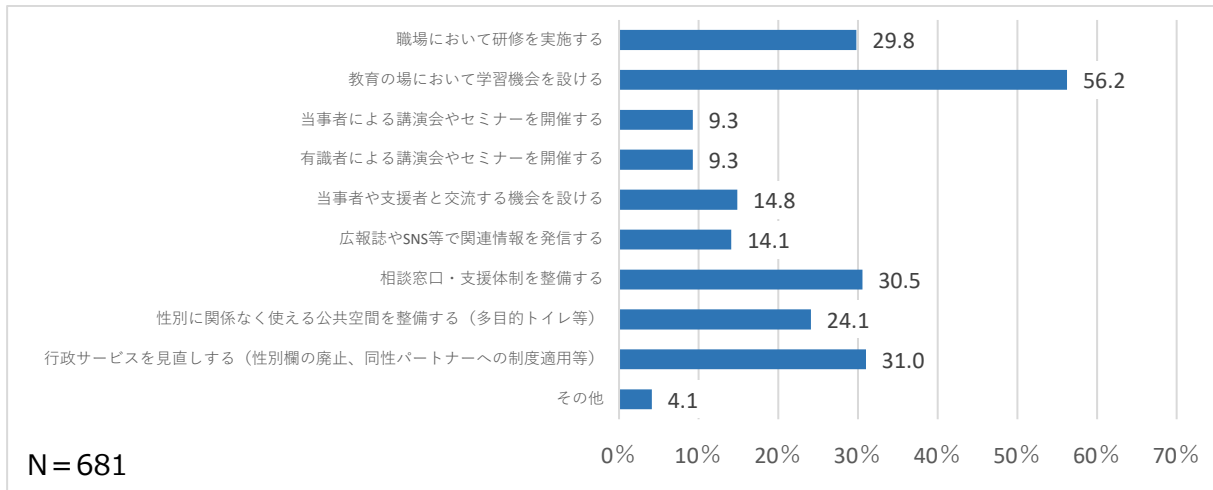


過去5年間にLGBTQに関するハラスメントを経験、または見聞きしたことが「ある」の割合は、前回調査の令和元年度が10.2%に対し、令和6年度は16.2%であり、6.0ポイント高くなっています。

問 18 L G B T Q 当事者への理解を深めるために必要なこと

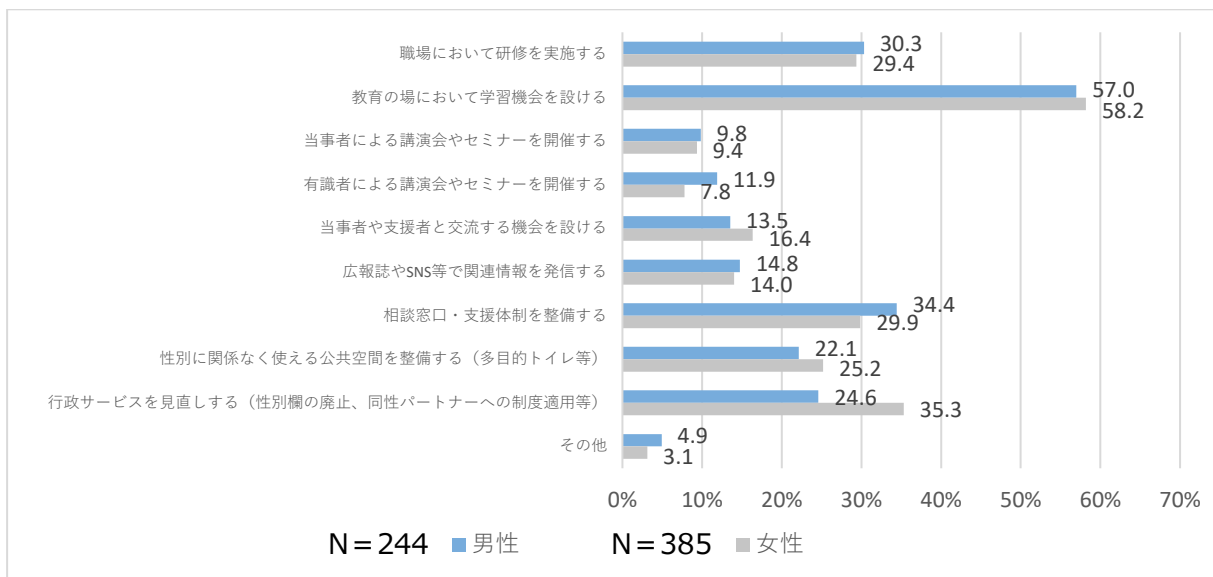
設問文：L G B T Q 当事者の割合は、約 10 人に 1 人とされています。L G B T Q 当事者への理解を深め、差別・偏見をなくすためには何が必要だと思いますか。（3つまで選択）

【問 18・全体集計】



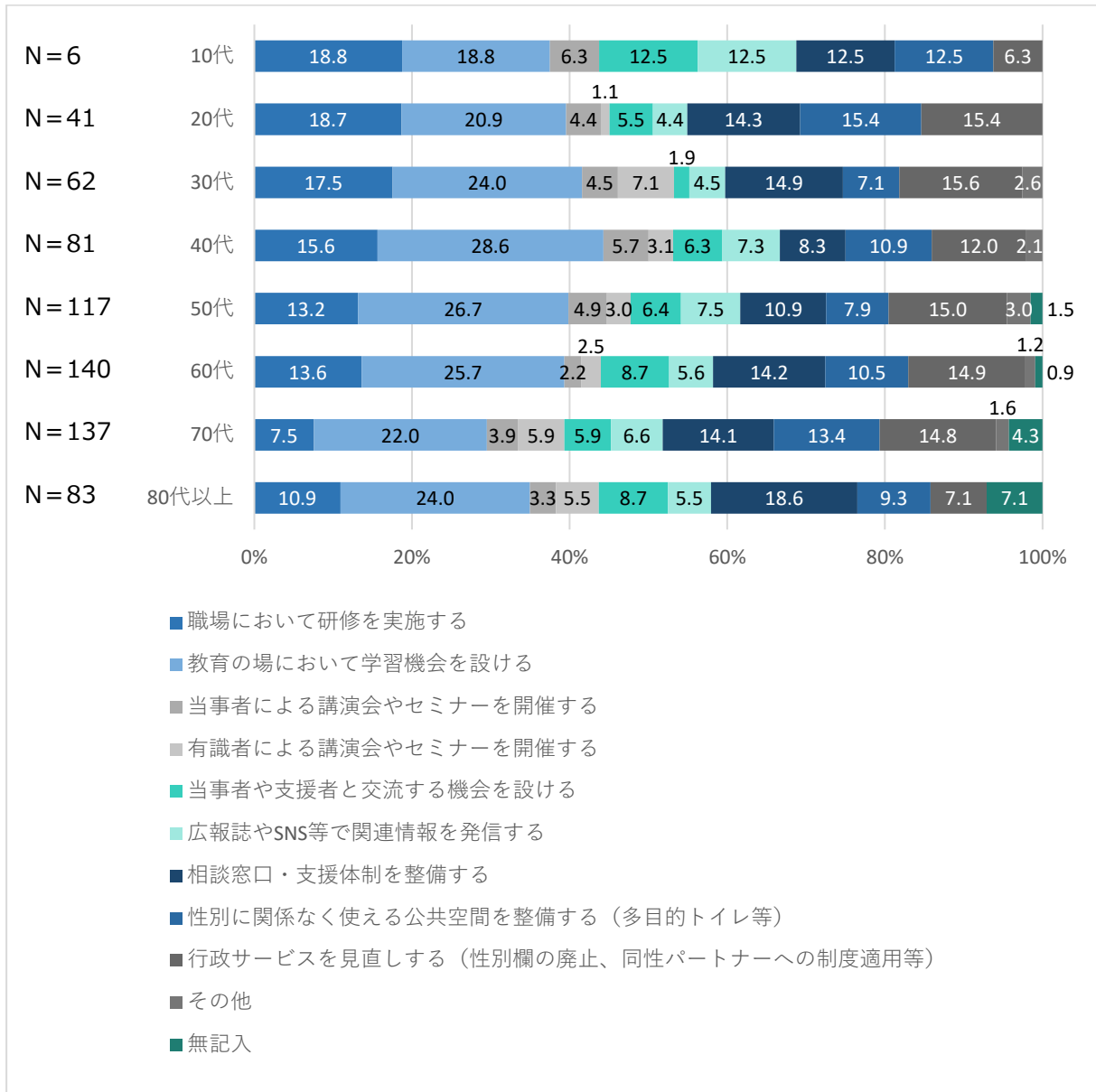
「教育の場において学習機会を設ける」の 56.2%が最も高く、次に「行政サービスを見直す（性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等）」の 31.0%、「相談窓口・支援体制を整備する」の 30.5%の順に選択率が高くなっています。

【問 18・性別集計】



男女ともに「教育の場において学習機会を設ける」が最も高く、男性は 57.0%、女性は 58.2% となっています。

【問 18・年代別集計】

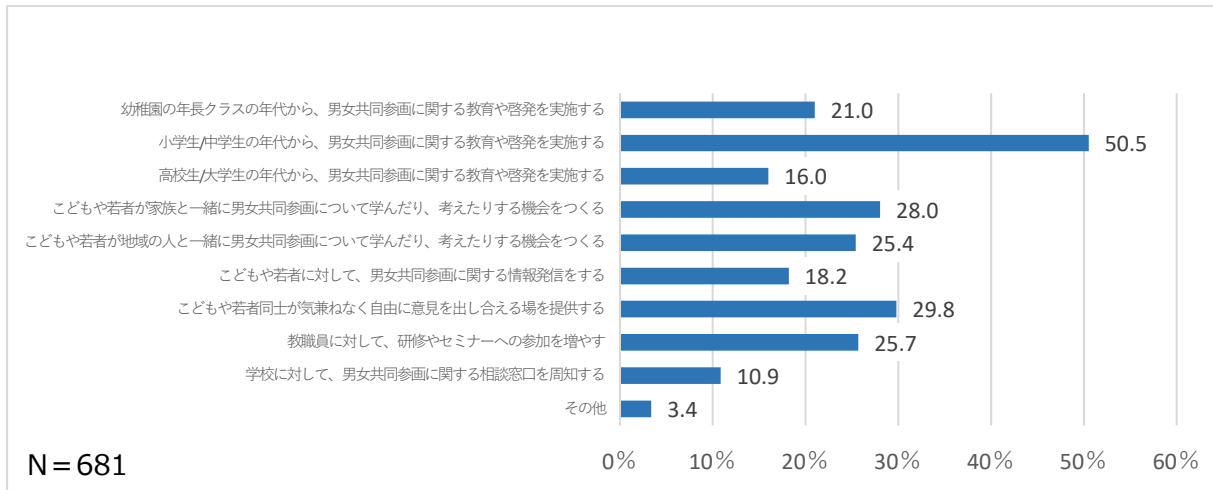


- ・ 10代では、「職場において研修を実施する」及び「教育の場において学習機会を設ける」の割合が最も高く、それぞれ18.8%を占めています。
- ・ 20代以上の年代では、「教育の場において学習機会を設ける」の割合が最も高く、20代で20.9%、30代で24.0%、40代で28.6%、50代で26.7%、60代で25.7%、70代で22.0%、80代以上で24.0%を占めています。

問 19 若年層に対して男女共同参画を浸透させるために必要なこと

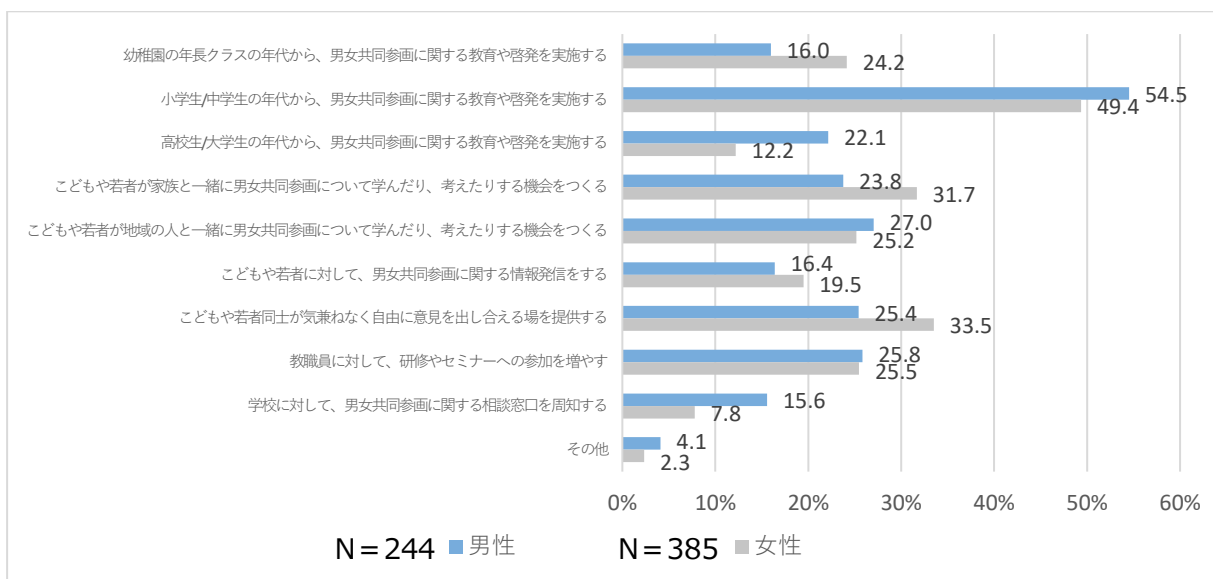
設問文：男女共同参画社会の実現には、若年層への取組みが重要と考える人が多いという調査結果があります。子どもや若者に対して、男女共同参画を浸透させるためには何が重要だと思いますか。（3つまで選択）

【問 19・全体集計】



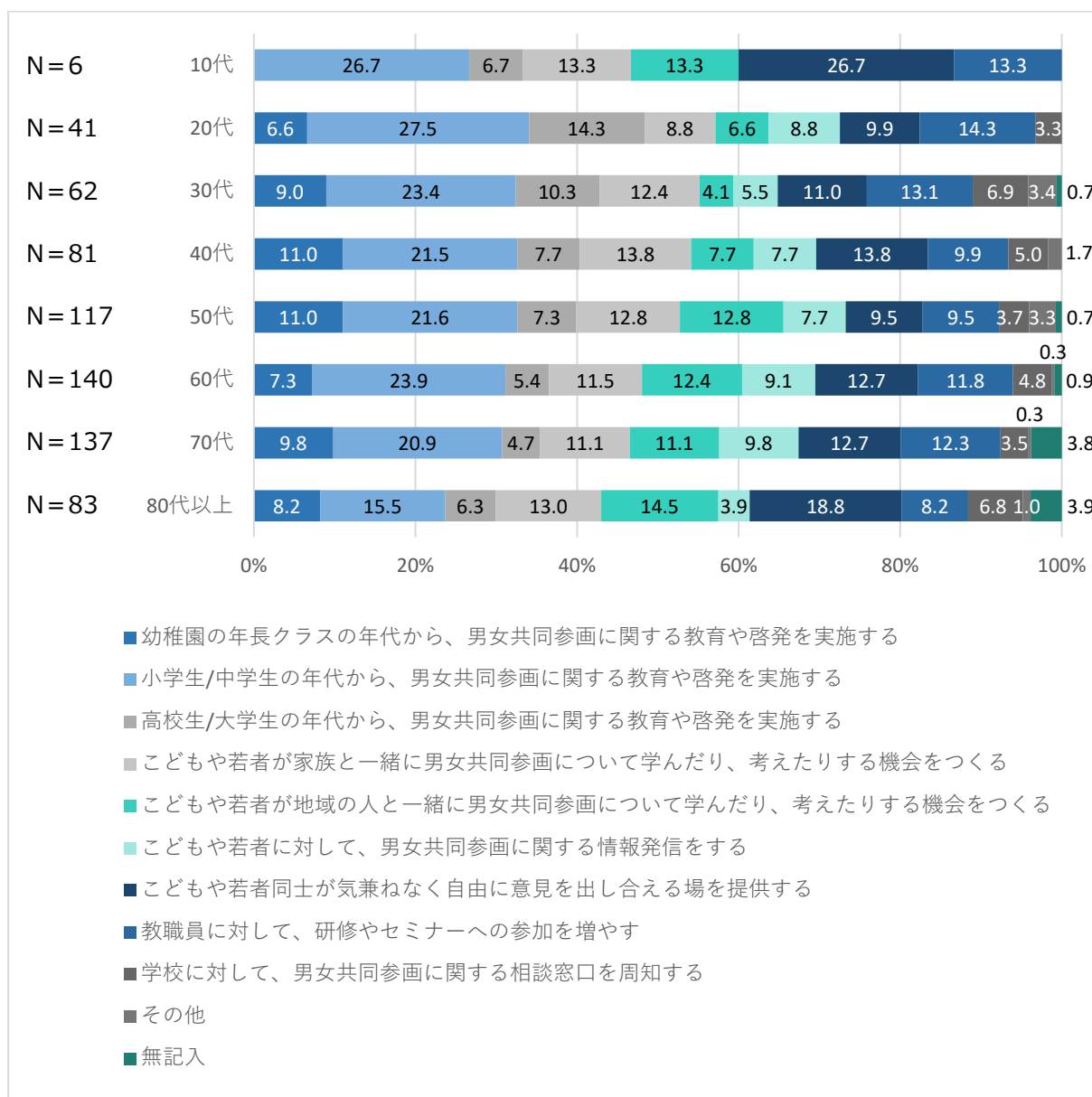
「小学生/中学生の年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する」の50.5%が最も高く、次に「子どもや若者同士が気兼ねなく自由に意見を出し合える場を提供する」の29.8%、「子どもや若者が家族と一緒に男女共同参画について学んだり、考えたりする機会をつくる」の28.0%の順に選択率が高くなっています。

【問 19・性別集計】



男女ともに「小学生/中学生の年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する」が最も高く、男性は54.5%、女性は49.4%となっています。

【問 19・年代別集計】

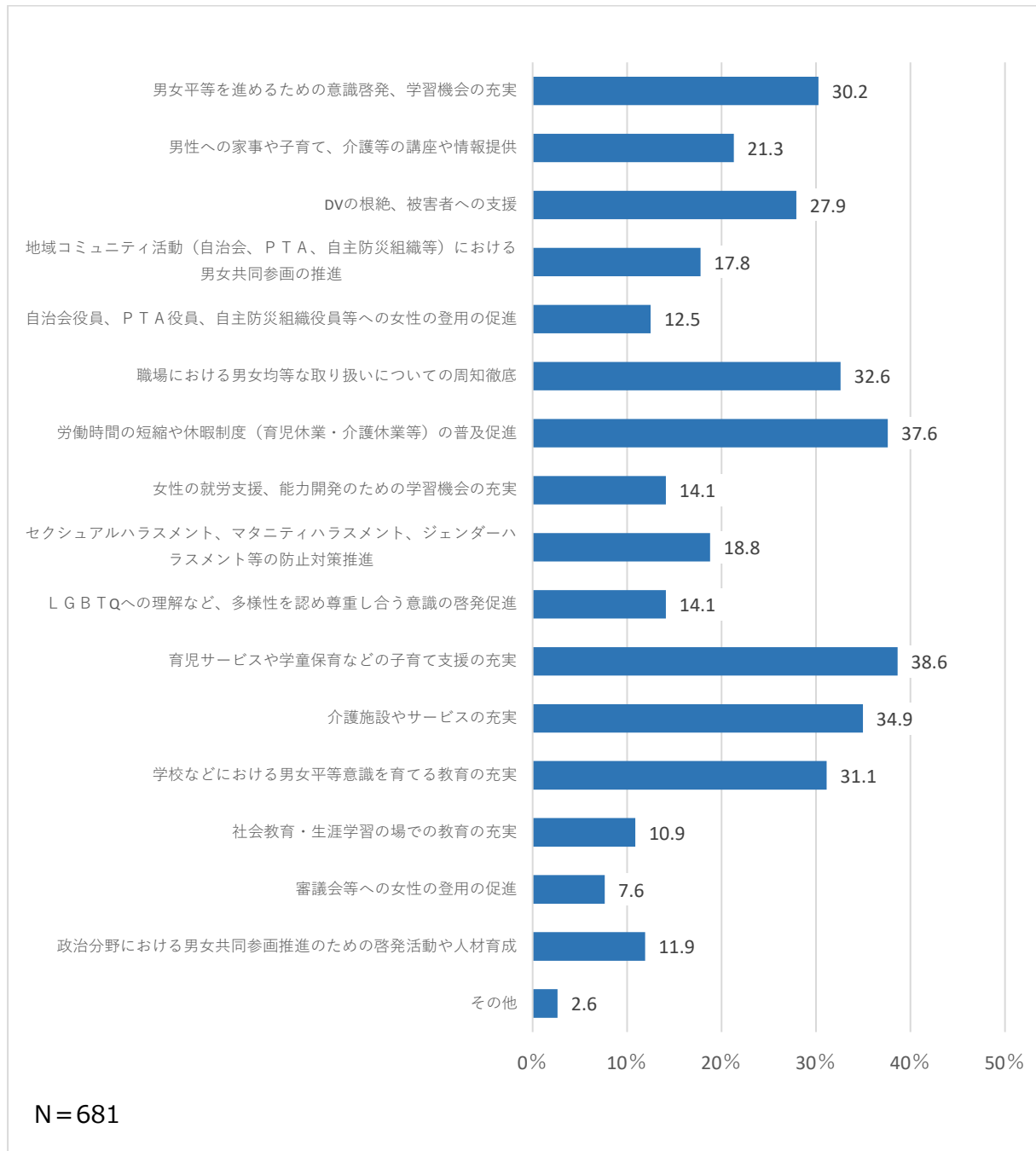


- ・10代では、「小学生/中学生の年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する」及び「子どもや若者同士が気兼ねなく自由に意見を出し合える場を提供する」の割合が最も高く、それぞれ26.7%を占めています。
- ・20代～70代では、「小学生/中学生の年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する」の割合が最も高く、20代で27.5%、30代で23.4%、40代で21.5%、50代で21.6%、60代で23.9%、70代で20.9%を占めています。
- ・80代以上では、「子どもや若者同士が気兼ねなく自由に意見を出し合える場を提供する」の割合が最も高く18.8%を占めています。

問 20 男女共同参画社会を実現するために沼津市の施策に特に望むこと

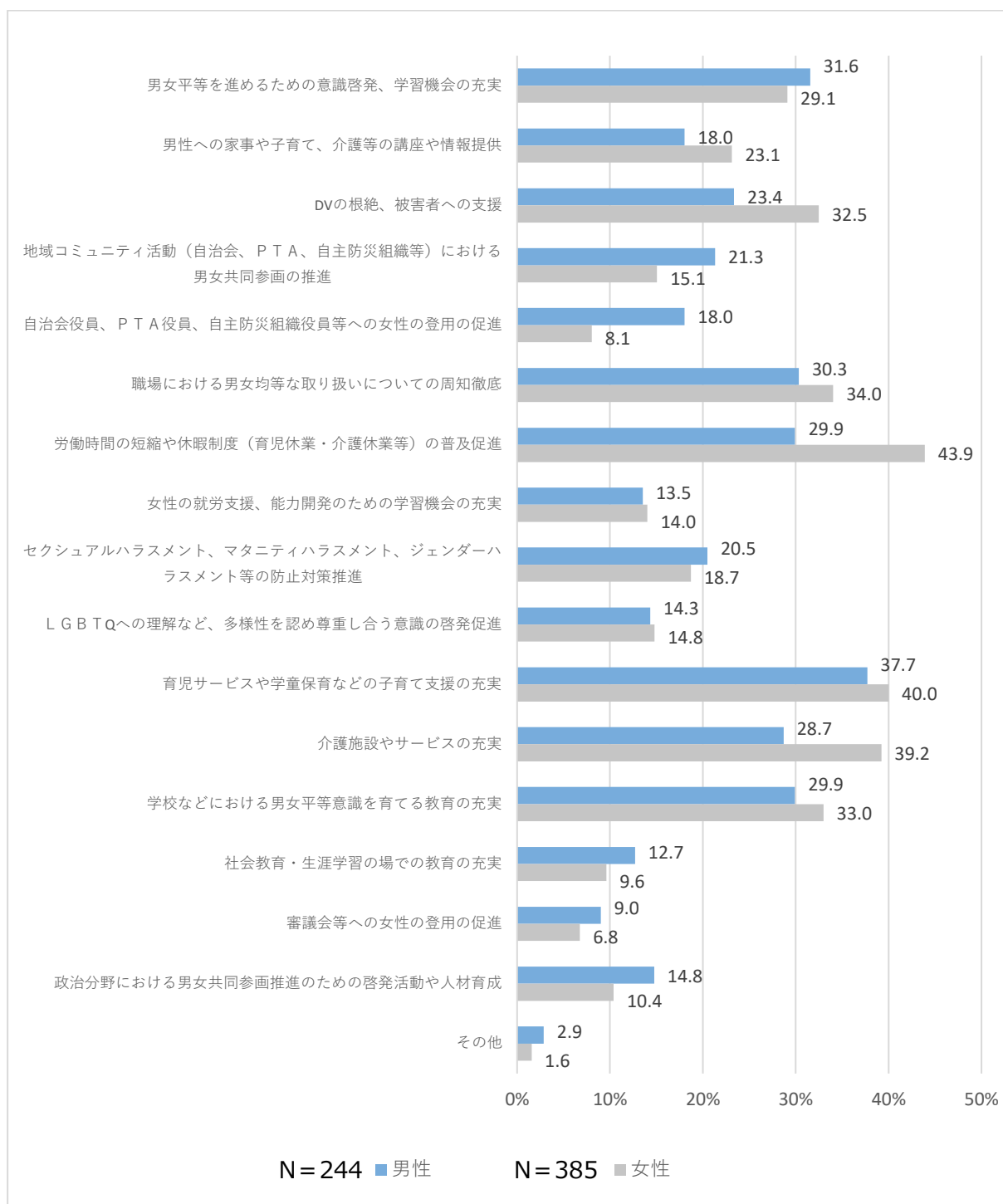
設問文：男女共同参画社会を実現するために、沼津市の施策に特に望むことは何ですか。（5つまで選択）

【問 20・全体集計】



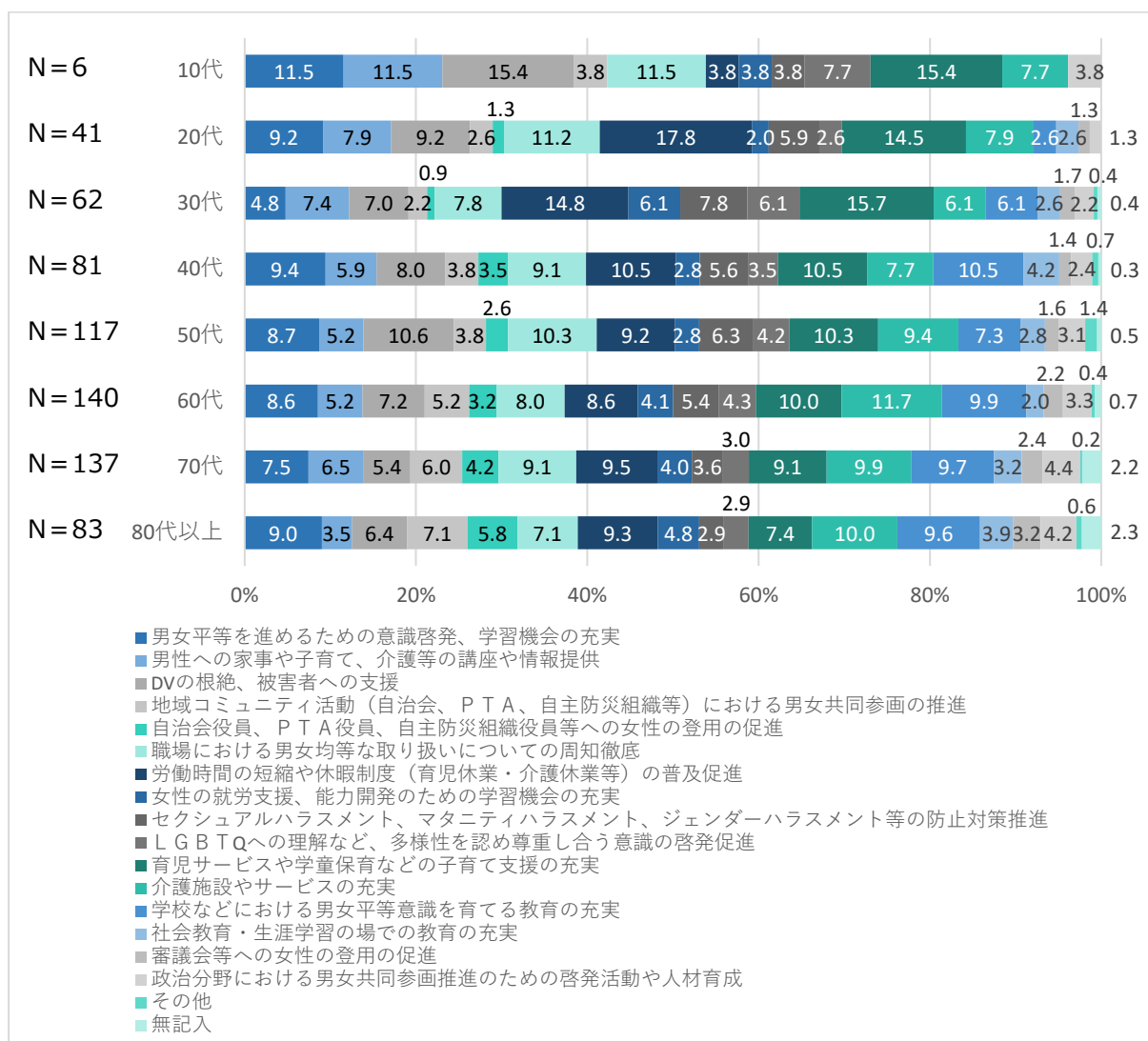
「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」の 38.6%が最も高く、次に「労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業等）の普及促進」の 37.6%、「介護施設やサービスの充実」の 34.9%の順に選択率が高くなっています。

【問 20・性別集計】



男性は、「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」の37.7%、女性は、「労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業等）の普及促進」の43.9%が最も高くなっています。

【問 20・年代別集計】



- ・ 10代では、「DVの根絶、被害者への支援」及び「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」の割合が最も高く、それぞれ15.4%を占めています。
- ・ 20代では、「労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業等）の普及促進」の割合が最も高く、17.8%を占めています。
- ・ 30代では、「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」の割合が最も高く15.7%を占めています。
- ・ 40代では、「労働時間の短縮や休暇制度（育児休業・介護休業等）の普及促進」、「育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実」及び「学校などにおける男女平等意識を育てる教育の充実」の割合が最も高く、それぞれ10.5%を占めています。
- ・ 50代では、「DVの根絶、被害者への支援」の割合が最も高く、10.6%を占めています。
- ・ 60代以上の年代では、「介護施設やサービスの充実」の割合が最も高く、60代で11.7%、70代で9.9%、80代以上で10.0%を占めています。

(参考資料)

- 令和6年度男女共同参画に関する市民アンケート様式
- 発送・回収状況詳細（地区別・年代別）

だんじょきょうどうさんかく

沼津市男女共同参画に関する 市民アンケート

あなたの声をお聞かせください

現在、沼津市では「第5次沼津市男女共同参画基本計画」により、すべての市民が自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮できるまちづくりを推進するため、様々な取り組みを行っております。

この計画は令和7年度末をもって計画期間終了となりますが、市では近年私たちをとりまく社会環境の変化を鑑み、新たな計画を策定し、取り組みを進めて行きたいと考えています。そこで、基礎資料を作成すべく、広く市民の皆さまの意見をお聞きするため「沼津市男女共同参画に関する市民アンケート」を実施します。

このアンケートは、18歳以上の市内居住者の中から、無作為に抽出した皆さまの意見を聞かせていただきたく、ご協力をお願いするものです。

本アンケートの結果は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはなく個人情報公表しませんので、ありのままの率直な意見をお聞かせください。

お忙しいところ恐縮ですが、調査の目的・趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和6年6月

沼津市 政策推進部 地域自治課

ご記入にあたってのお願い

- 宛名のご本人がお答えください。
- アンケートは**7月26日(金)**までに以下①、②のいずれかの方法でご回答ください。
 - 紙で回答……このアンケート用紙に記入し、同封の返信用封筒にて郵送
 - webで回答…QRコードをスマートフォン等で読み込んで回答フォームに入力・送信
- このアンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

政策推進部 地域自治課 協働推進係

電話 055-934-4807

ファックス 055-931-2606

メールアドレス kyodo@city.numazu.lg.jp

回答フォーム用 QR コード

<<質問ごとに該当する番号を○で囲んで、ご回答ください。>>

問1 あなたは「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。

(1つに○印)

- | |
|--------------------|
| 1 言葉も意味も知っている |
| 2 言葉は知っているが意味は知らない |
| 3 言葉も意味も知らない |

問2 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」というように性別で役割を分ける考え方をどう思いますか。

(1つに○印)

- | |
|--------------|
| 1 賛成 |
| 2 どちらかといえば賛成 |
| 3 どちらかといえば反対 |
| 4 反対 |

問3 次の1～9の事柄について、あなたのご家庭では誰が行っていますか。

《一人暮らし世帯は回答せずに問4へ。》

(それぞれ1つに○印)

	主として男性 (夫、父、息子等)	主として女性 (妻、母、娘等)	男女 同じ程度	その他の人 又は該当なし
1 生活費を得る	1	2	3	4
2 食事の支度	1	2	3	4
3 食事の後片付け	1	2	3	4
4 洗濯	1	2	3	4
5 掃除	1	2	3	4
6 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4
7 育児・こどもの世話	1	2	3	4
8 こどものしつけ	1	2	3	4
9 家族の介護	1	2	3	4
10 自治会等地域の行事	1	2	3	4

問4 あなたが家事・育児・介護を行う時間は1日平均(休日含む)どれくらいですか。

【 約 時間 分 】

問5 育児や介護を行うために男性が育児休業や介護休業を取ることについて、あなたはどう思いますか。

(それぞれ1つに○印)

	積極的に 取ったほうがよい	どちらかといえば 取ったほうがよい	どちらかといえば 取らないほうがよい	取らないほうがよい
1 育児休業	1	2	3	4
2 介護休業	1	2	3	4

問 6 男性の育児休業・介護休業の取得率は低い状況にあります。それはなぜだと思いますか。

(あてはまるもの全てに○印)

- 1 「男性より女性がとるべきである」と考える人が多いから
- 2 周囲に取得した男性がいないから
- 3 仕事の評価や配属に影響するから
- 4 職場の理解が得られにくいから
- 5 取得した場合、経済的に苦しくなるから
- 6 男性に育児・介護の能力・経験が乏しいから
- 7 地域において男性が育児・介護に参加しにくい雰囲気があるから
- 8 詳しい制度を知らない・周知が足りないから
- 9 男性には「育児・介護をしたくない」と考える人が多いから
- 10 その他 ()

問 7 男性が家事・育児・介護に携わる時間は少ない状況にあります。これらの時間を増やすには何が必要だと思いますか。

(3つまで○印)

- 1 労働時間が少なくなること
- 2 休暇が取りやすくなること
- 3 在宅ワーク、フレックスタイム、時短勤務等の柔軟な勤務形態が選択できること
- 4 職場の人員配置に余裕ができること
- 5 男性が家事・育児を担うことに対する上司の理解がすすむこと
- 6 男性が家事・育児を担うことに対する同僚の理解がすすむこと
- 7 昇進・昇給への悪影響を気にせずに済むこと
- 8 時間当たりの賃金の改善(アップ)をすること
- 9 男性が家事・育児の能力を向上させること
- 10 配偶者とのコミュニケーションの時間を増やすこと
- 11 配偶者からの積極的な働きかけを行うこと
- 12 男性が家事・育児・介護に対する優先順位の意識を変えること
- 13 配偶者が仕事を持つなど、男性が家事・育児に取り組む必要性が増えること
- 14 その他 ()

問 8 一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。

(1つに○印)

- 1 女性は職業を持たないほうがよい
- 2 結婚するまで職業を持つほうがよい
- 3 こどもができるまで職業を持つほうがよい
- 4 こどもができたら職業をやめ、こどもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい
- 5 こどもができて、ずっと職業を続けるほうがよい
- 6 その他 ()

問9 女性が育児や介護と両立して働き続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。

(3つまで○印)

- 1 男女ともに育児・介護休暇制度を利用しやすい職場環境づくり
- 2 在宅ワーク、フレックスタイム、時短勤務等の柔軟な勤務形態
- 3 産後の復帰や再就職を円滑に行うための仕組みづくり
- 4 職場の上司や同僚の理解と協力
- 5 年齢や社歴の近い先輩が仕事における不安や悩みを解消し、指導する制度を作ること
- 6 育児や介護をしながら働くことの評価を高めること
- 7 家族の理解と協力
- 8 男性を対象にした家事・育児・介護の意識啓発や体験講座の実施
- 9 育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 10 介護施設や介護サービスの充実
- 11 ひとり親家庭への支援
- 12 その他 ()

問10 女性の社会進出が進む一方、女性が管理職に登用される割合は、男性と比較して低い状況です。職場において、女性がもっと活躍できるようにするには、何が重要だと思いますか。

(3つまで○印)

- 1 資格取得や仕事のスキル向上のための学習機会が充実すること
- 2 女性が自身のキャリア形成を考える機会を設けること
- 3 活躍の手本となる女性リーダーによるアドバイスを受けられる機会を設けること
- 4 女性が他の女性と仕事やキャリアについて情報交換できる機会を設けること
- 5 企業や女性自身に対して、女性が管理職に就くメリットを啓発すること
- 6 企業が性別で職務を分けず、個人の能力に応じて昇進や配属を決定すること
- 7 女性管理職に登用する企業の評価を高めること
- 8 様々な業界において女性が活躍する企業を紹介すること
- 9 その他 ()

問11 地域において、女性が意思決定する役職（PTA 会長や自治会長、市議会議員など）に就くことについて、あなたはどのように思いますか。

(3つまで○印)

- 1 男性と同じ割合で女性も意思決定する役職に就いたほうがよい
- 2 男女関係なく地域の仲間づくりの輪が広がる
- 3 女性の役職者がいれば、多様な意見が反映される
- 4 女性の役職者がいれば、自分は気軽に相談しやすい
- 5 女性の役職者がいれば、自分は活動や会合に参加しやすい
- 6 「男性は力仕事」、「女性は食事の用意」といった性別による役割分担が解消される
- 7 「男性は力仕事」、「女性は食事の用意」といった性別による役割分担が助長される
- 8 女性の意見ばかり優遇されてやりにくくなる
- 9 円滑な意思決定が出来なくなってしまう
- 10 人間関係が増えて面倒だ
- 11 地域における意思決定に女性の視点はいらぬ
- 12 その他 ()

問 12 地域において、女性が意思決定する役職（PTA 会長や自治会長、市議会議員など）に就く割合は少ない状況にありますが、推進するためには何が必要だと思いますか。

(3つまで○印)

- 1 男性の抵抗感をなくすこと
- 2 女性自身の抵抗感をなくすこと
- 3 「女性が意思決定の場に出ること」の評価を高めること
- 4 女性の意思決定能力の向上の機会・経験を増やすこと
- 5 家事・育児の負担を配偶者等の家族が分担すること
- 6 家族の理解があること
- 7 地域の理解があること
- 8 意思決定を行う人の一定の割合を女性とするように割り当てを行うこと
- 9 女性が自分の時間の使い方の優先順位を変えること
- 10 リモートで会議や会合に参加できるようにするなど、開催方法を工夫すること。
- 11 女性が意思決定の場に出ることの重要性を啓発すること
- 12 その他 ()

問 13 過去1年間に、セクシュアル・ハラスメント（職場や学校などで、望まない性的な言動により不快感や不利益を被ること）、マタニティ・ハラスメント（職場などでの対応により、妊婦が不快感や不利益を被ること）、ジェンダー・ハラスメント（性別に関して役割等を強要され不快感や不利益を被ること）について、3つのうち、いずれか1つでも経験したり見聞きしたりしたことはありますか。

(あてはまるもの全てに○印)

- 1 ハラスメントを受けたことがある
- 2 身近にハラスメントを受けた人がいる
- 3 ハラスメントを受けた人から相談されたことがある
- 4 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
- 5 テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
- 6 経験したり、見聞きしたりしたことはない

問 14 セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、ジェンダー・ハラスメントを防止するために、必要なことは何だと思いますか。

(3つまで○印)

- 1 ハラスメントを未然に防止する定期的な周知・啓発
- 2 若年層への教育
- 3 管理職に対する研修
- 4 加害者に対するカウンセリングなど、更正プログラムの充実
- 5 ハラスメントに対する相談体制や事後対応などが事業主の義務であることの周知
- 6 相談窓口の周知・PR
- 7 ハラスメントに対する相談員の資質向上
- 8 その他 ()

問 15 ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人など親しい間柄にあるパートナー間の暴力。以下、「DV」という）について、あなたがDVだと思う行為は次のうちのどれですか。
 （あてはまるもの全てに○印）

- 1 何を言っても無視する
- 2 行動を制限する
- 3 交友関係やメールをチェックする
- 4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う
- 5 大声でどなる
- 6 人前で侮辱する
- 7 他人にパートナー等の悪口を言う
- 8 大切な物をわざと壊す
- 9 殴るふりをする等して脅す
- 10 刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う
- 11 自由になるお金を制限する
- 12 意に反した性的な行為を強要する
- 13 無理やりポルノ等を見せる
- 14 避妊に協力しない
- 15 どれもあたらない

問 16 性の多様性について、あなたは「LGBTQ（性的少数者の総称の一つ）」という言葉を知っていますか。
 （1つに○印）

- 1 言葉も意味も知っている
- 2 言葉は知っているが意味は知らない
- 3 言葉も意味も知らない

問 17 過去5年間にLGBTQに関するハラスメントを経験、または見聞きしたことはありますか。
 ※ハラスメントの事例 ・「ホモ」「オカマ」「男らしくない」「女らしくない」などとからかう
 ・「どこかおかしいのでは」「気持ち悪い」などとうわさ話をする
 ・本人の了承なく、その人の性的指向や性自認について暴露する
 （1つに○印）

- | | | |
|--------|------|---|
| 1 ある | 2 ない | |
| 3 その他（ | | ） |

問18 LGBTQ当事者の割合は、約10人に1人とされています。LGBTQ当事者への理解を深め、差別・偏見をなくするためには何が必要だと思えますか。
 （3つまで○印）

- 1 職場において研修を実施する
- 2 教育の場において学習機会を設ける
- 3 当事者による講演会やセミナーを開催する
- 4 有識者による講演会やセミナーを開催する
- 5 当事者や支援者と交流する機会を設ける
- 6 広報誌やSNS等で関連情報を発信する
- 7 相談窓口・支援体制を整備する
- 8 性別に関係なく使える公共空間を整備する（多目的トイレ等）
- 9 行政サービスを見直す（性別欄の廃止、同性パートナーへの制度適用等）
- 10 その他（

問 19 男女共同参画社会の実現には、若年層への取組みが重要と考える人が多いという調査結果があります。こどもや若者に対して、男女共同参画を浸透させるためには何が必要だと思いますか。

(3つまで○印)

- 1 幼稚園の年長クラスの年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する
- 2 小学生/中学生の年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する
- 3 高校生/大学生の年代から、男女共同参画に関する教育や啓発を実施する
- 4 こどもや若者が家族と一緒に男女共同参画について学んだり、考えたりする機会をつくる
- 5 こどもや若者が地域の人と一緒に男女共同参画について学んだり、考えたりする機会をつくる
- 6 こどもや若者に対して、男女共同参画に関する情報発信をする
- 7 こどもや若者同士が気兼ねなく自由に意見を出し合える場を提供する
- 8 教職員に対して、研修やセミナーへの参加を増やす
- 9 学校に対して、男女共同参画に関する相談窓口を周知する
- 10 その他 ()

問 20 男女共同参画社会を実現するために、沼津市の施策に特に望むことは何ですか。

(5つまで○印)

- 1 男女平等を進めるための意識啓発、学習機会の充実
- 2 男性への家事や子育て、介護等の講座や情報提供
- 3 DVの根絶、被害者への支援
- 4 地域コミュニティ活動(自治会、PTA、自主防災組織等)における男女共同参画の推進
- 5 自治会役員、PTA役員、自主防災組織役員等への女性の登用の促進
- 6 職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底
- 7 労働時間の短縮や休暇制度(育児休業・介護休業等)の普及促進
- 8 女性の就労支援、能力開発のための学習機会の充実
- 9 セクシュアルハラスメント、マタニティハラスメント、ジェンダーハラスメント等の防止対策推進
- 10 LGBTQへの理解など、多様性を認め尊重し合う意識の啓発促進
- 11 育児サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 12 介護施設やサービスの充実
- 13 学校などにおける男女平等意識を育てる教育の充実
- 14 社会教育・生涯学習の場での教育の充実
- 15 審議会等への女性の登用の促進
- 16 政治分野における男女共同参画推進のための啓発活動や人材育成
- 17 その他 ()

自由記入欄 (男女共同参画についてのご意見があればご自由にご記入ください)

◆いただいた回答を統計的に分析するため、あなたご自身のことについてお伺いします。

(それぞれ1つに○印)

1 性別	女 ・ 男 ・ 回答しない
2 年齢	10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代以上
3 住んでいる地区	○地区名 1 第一 2 第二 3 第三 4 第四 5 第五 6 片浜 7 今沢 8 金岡 9 大岡 10 門池 11 静浦 12 大平 13 愛鷹 14 内浦 15 西浦 16 原 17 浮島 18 戸田 ○町字名 () ※町字名は、地区が不明の場合に記入をお願いします。
4 職業	1 農・林・漁業 2 自営業 3 常勤(会社員・公務員など) 4 非常勤(アルバイト・パートなど) 5 専業主婦(主夫) 6 その他
5 世帯構成	1 一人暮らし世帯 2 夫婦だけの世帯 3 2世代世帯 4 3世代以上の世帯 5 その他
6 子育て世帯	1 18歳以下のこどもがいる 2 それ以外
7 介護を行う世帯	1 在宅で介護をしている 2 それ以外

アンケートへのご協力ありがとうございました。

市民の皆さまの意見を取り入れながら、男女共同参画社会の実現を推進して参ります。

【用語解説】

男女共同参画社会：男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、また、その機会が確保されることにより、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受し、共に責任を担う社会のこと。

LGBTQ：レズビアン(女性の同性愛者)、ゲイ(男性の同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(こころとからだの性の不一致)、クエスチヨニング(特定の状況にあてはまらない)の頭文字から作られた言葉で、性的少数者の総称として用いられている。

性的指向：どの性別の人を好きになるか、恋愛や性愛がどの性別に向いているかをいう。

性自認：自分の性別を自分でどう思うか、自分で認識している性別のことをいう。

令和6年度 沼津市男女共同参画に関する市民アンケート 発送・回収状況

1 調査の設計

調査区域	沼津市全域
調査対象	沼津市在住の満18歳以上の市民2,200人
抽出方法	住民基本台帳からの等間隔無作為抽出
調査方法	郵送で配付し、アンケート用紙の郵送又はWEBフォームで回答
調査期間	令和6年6月21日（金）から令和6年7月26日（金）まで

2 発送・回収

発送数	2,200票（男性 1,121 票・女性 1,079票）
配達不能数	16票（男性11票・女性5票）
回収数	681票（男性244票・女性385票・回答しない18票・無記入34票）
回収率	31.2%

3 地区別発送数及び回収数

	発送数			配達 不能数	差引数	回収数				回収率 (%)
	男	女	計			男	女	性別不明	計	
第一	33	32	65	1	64	12	15	1	28	43.8%
第二	35	50	85	1	84	9	17	2	28	33.3%
第三	109	124	233	0	233	15	47	1	63	27.0%
第四	58	52	110	1	109	15	23	2	40	36.7%
第五	124	115	239	5	234	27	32	7	66	28.2%
片浜	85	53	138	0	138	16	25	4	45	32.6%
今沢	29	32	61	0	61	7	9	2	18	29.5%
金岡	125	128	253	0	253	21	49	3	73	28.9%
大岡	130	120	250	4	246	41	39	9	89	36.2%
門池	79	83	162	0	162	15	29	0	44	27.2%
静浦	24	30	54	0	54	3	9	1	13	24.1%
大平	21	25	46	1	45	4	13	1	18	40.0%
愛鷹	94	73	167	1	166	25	26	2	53	31.9%
内浦	9	13	22	0	22	1	3	0	4	18.2%
西浦	11	8	19	0	19	4	1	0	5	26.3%
原	112	98	210	0	210	20	29	3	52	24.8%
浮島	30	23	53	2	51	4	7	0	11	21.6%
戸田	13	20	33	0	33	0	7	0	7	21.2%
校区不明	-	-	-	-	-	5	5	14	24	-
合計	1,121	1,079	2,200	16	2,184	244	385	52	681	31.2%

4 年代別発送数及び回収数

	発送数			配達 不能数	差引数	回収数				回収率 (%)
	男	女	計			男	女	性別不明	計	
10代	23	18	41	0	41	2	4	0	6	14.6%
20代	143	99	242	5	237	13	25	3	41	17.3%
30代	130	105	235	1	234	27	33	2	62	26.5%
40代	179	142	321	2	319	33	46	2	81	25.4%
50代	207	188	395	2	393	38	70	9	117	29.8%
60代	175	171	346	0	346	55	78	7	140	40.5%
70代	152	219	371	3	368	44	86	7	137	37.2%
80代以上	112	137	249	3	246	31	42	10	83	33.7%
年齢不明	-	-	-	-	-	1	1	12	14	-
合計	1,121	1,079	2,200	16	2,184	244	385	52	681	31.2%